
芦屋町コミュニティ活動状況調査 結果報告書

令和2年3月

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の概要	2
3. 報告書の見方	3
II 調査結果	5
1. 調査対象者について	6
2. 町の暮らしやすさについて	13
3. 町の取り組みに対する満足度・重要度について.....	21
4. その他、まちの重点的な取り組みなどについて	28
5. 第6次芦屋町総合振興計画策定について	54
6. 自由回答.....	57
7. 資料編.....	69

I 調査の概要

1. 調査の目的

現行計画である第5次芦屋町総合振興計画に対する住民の評価や、今後のまちづくりに対する意向などを把握し、今後の取り組みに資することを目的に実施しました。

2. 調査の概要

調査地域 : 芦屋町全域
調査対象者 : 芦屋町在住の20歳以上2,000名を無作為抽出
調査期間 : 令和元年10月～11月
調査方法 : 郵送による配布・回収

配布数 (A)	回収票数 (B)	回収率 $\frac{(B)}{(A)}$
2,000	676	33.8%

3. 報告書の見方

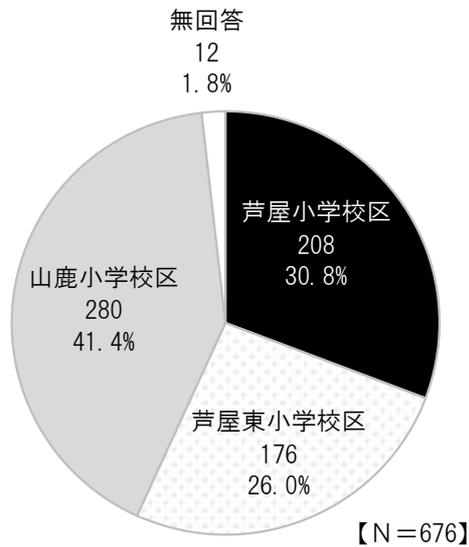
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。このため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。このため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。
- 図表中の「N」は、集計対象者総数、「n」は、回答者限定設問の限定条件に該当する人を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- その他回答などで、個人等が特定される可能性のある内容については、若干の修正をして掲載しています。
- この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜掲載しています。

II 調査結果

1. 調査対象者について

1. 小学校区別構成比（問1）

対象者の小学校区別構成比は、芦屋小学校校区が 30.8%、芦屋東小学校校区が 26.0%、山鹿小学校校区が 41.4%となっています。

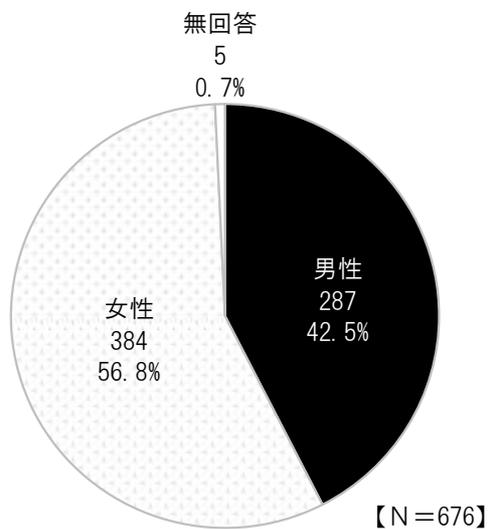


■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	芦屋小学校校区	芦屋東小学校校区	山鹿小学校校区	無回答
R1 (N=676)	30.8%	26.0%	41.4%	1.8%
H26 (N=900)	36.2%	29.6%	32.8%	1.4%
H21 (N=1,049)	31.3%	26.4%	39.8%	2.4%

2. 性別構成比（問2）

対象者の性別構成比は、男性が42.5%、女性が56.8%となっています。



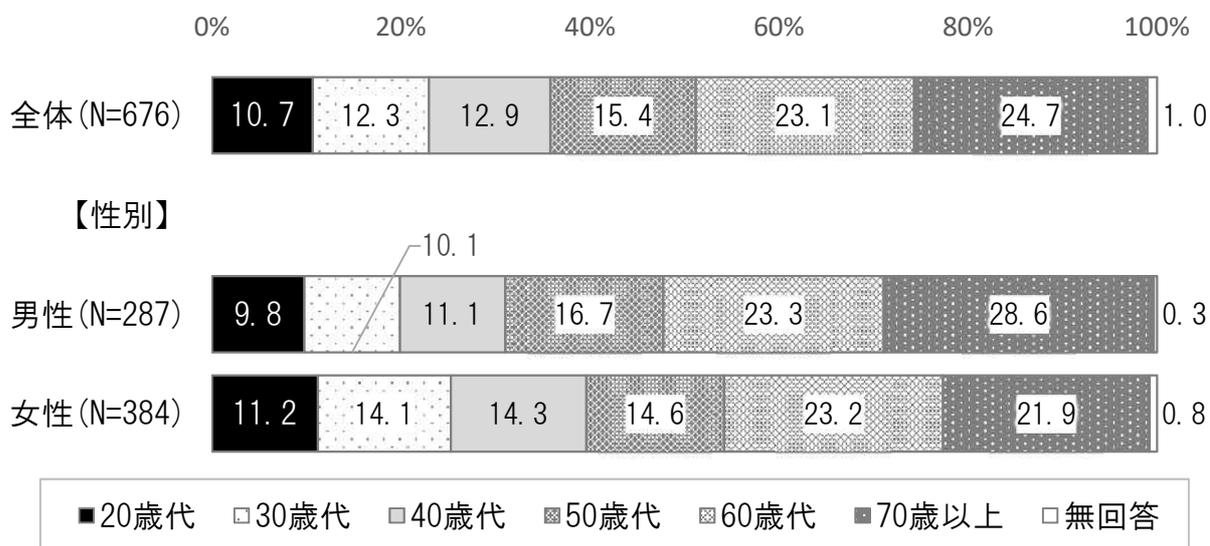
■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	男性	女性	無回答
R1 (N=676)	42.5%	56.8%	0.7%
H26 (N=900)	47.4%	51.0%	1.6%
H21 (N=1,049)	45.3%	53.9%	0.9%

3. 年齢別構成比（問3）

対象者の年齢別構成比は、「70歳以上」が24.7%と最も高く、次いで「60歳代」が23.1%、「50歳代」が15.4%となっています。

性別で見ると、男性は女性に比べ「70歳以上」の割合が高く、女性は男性に比べ「30歳代」「40歳代」の割合が高くなっています。

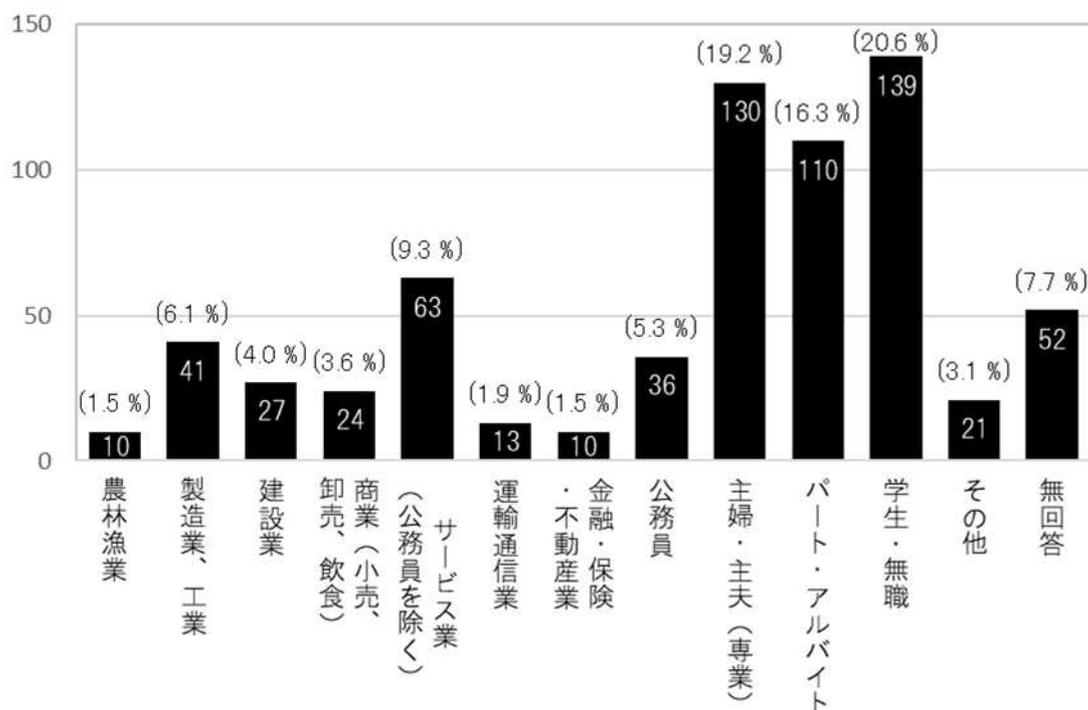


■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

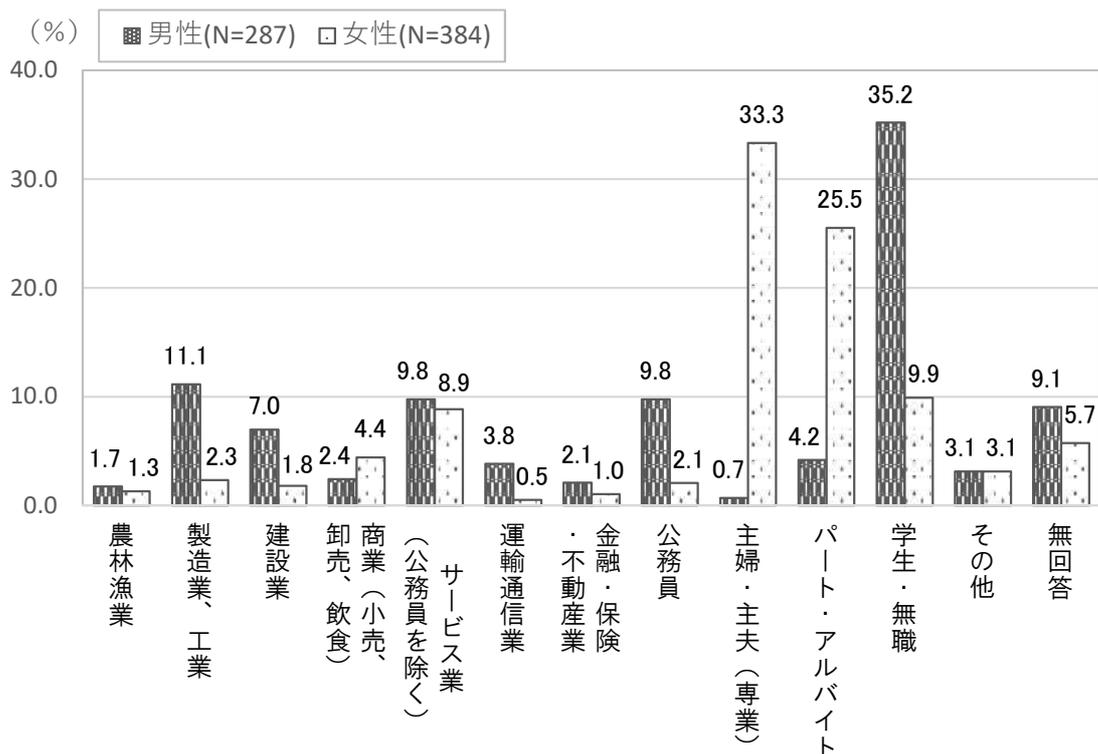
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	無回答
R1 (N=676)	10.7%	12.3%	12.9%	15.4%	23.1%	24.7%	1.0%
H26 (N=900)	10.8%	12.1%	15.8%	15.3%	22.9%	21.9%	1.2%
H21 (N=1,049)	11.2%	13.3%	15.9%	18.1%	21.1%	19.5%	0.9%

4. 職業別構成比（問4）

対象者の職業別構成比は、「学生・無職」が20.6%と最も高く、次いで「主婦・主夫（専業）」が19.2%、「パート・アルバイト」が16.3%となっています。



性別で見ると、男性は女性に比べ「学生・無職」「製造業、工業」の割合が高く、女性は「主婦・主夫（専業）」「パート・アルバイト」の割合が男性を大きく上回っています。



その他の意見	件数	その他の意見	件数	その他の意見	件数
医療関係	7	広告関係	1	清掃業	1
A型事業所	1	自由業	1	設備管理	1
IT	1	社会福祉法人	1	団体職員	1
イラスト関係	1	車関係	1	福祉関係	1
介護職	1	準公務員	1	物流	1

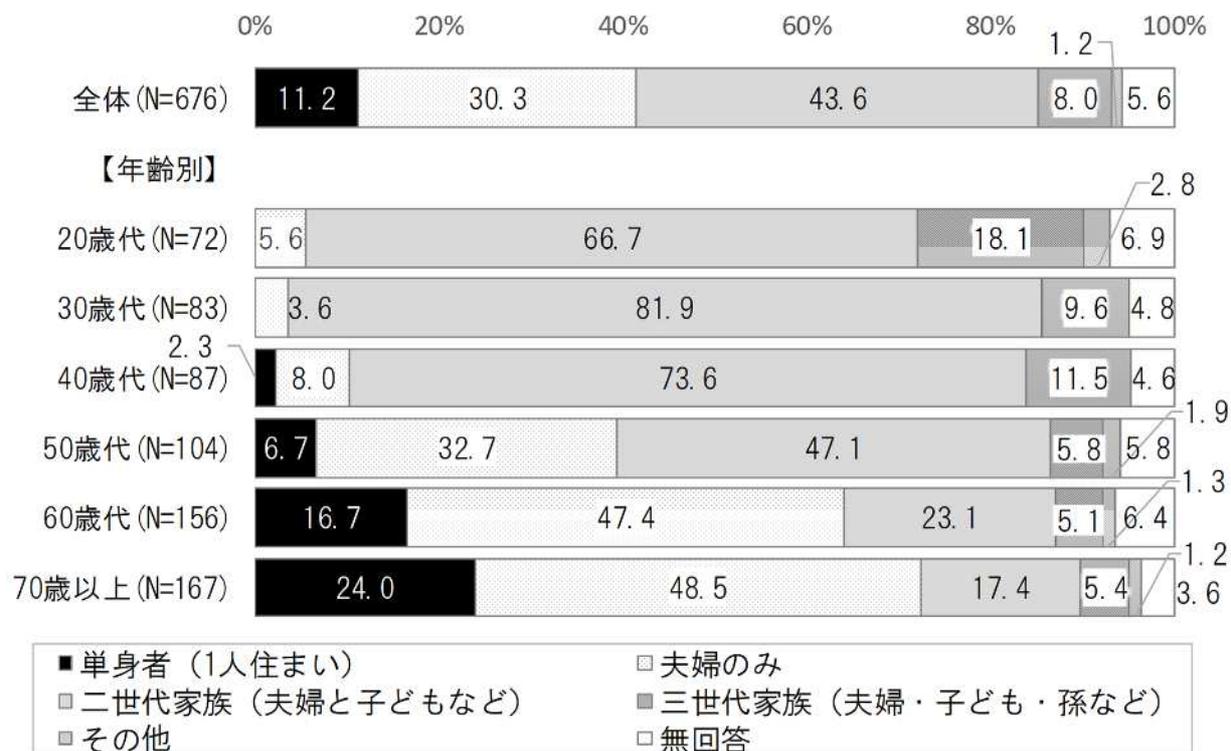
■過年度比較（前回比 3 ポイント以上増加：グレー、3 ポイント以上減少：黒）

	R1 (N=676)	H26 (N=900)	H21 (N=1, 049)
農林漁業	1.5%	1.3%	2.1%
製造業、工業	6.1%	7.4%	7.2%
建設業	4.0%	4.3%	5.0%
商業（小売、卸売、飲食）	3.6%	5.0%	4.3%
サービス業（公務員を除く）	9.3%	11.0%	9.3%
運輸通信業	1.9%	1.7%	1.8%
金融・保険・不動産業	1.5%	1.7%	1.3%
公務員	5.3%	4.5%	4.7%
主婦・主夫（専業）	19.2%	17.8%	18.0%
パート・アルバイト	16.3%	11.9%	13.2%
学生・無職	20.6%	18.8%	20.3%
その他	3.1%	11.3%	10.5%
無回答	7.7%	3.2%	2.3%

5. 同居家族構成（問5）

同居の家族構成をみると、「二世世代家族（夫婦と子どもなど）」が43.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が30.3%、「単身者（1人住まい）」が11.2%となっています。

年齢別でみると、20歳代から40歳代では「二世世代家族（夫婦と子どもなど）」がおよそ7割を占めています。また、年代が上がるほど「単身者（1人住まい）」や「夫婦のみ」の割合が高くなる傾向がみられます。



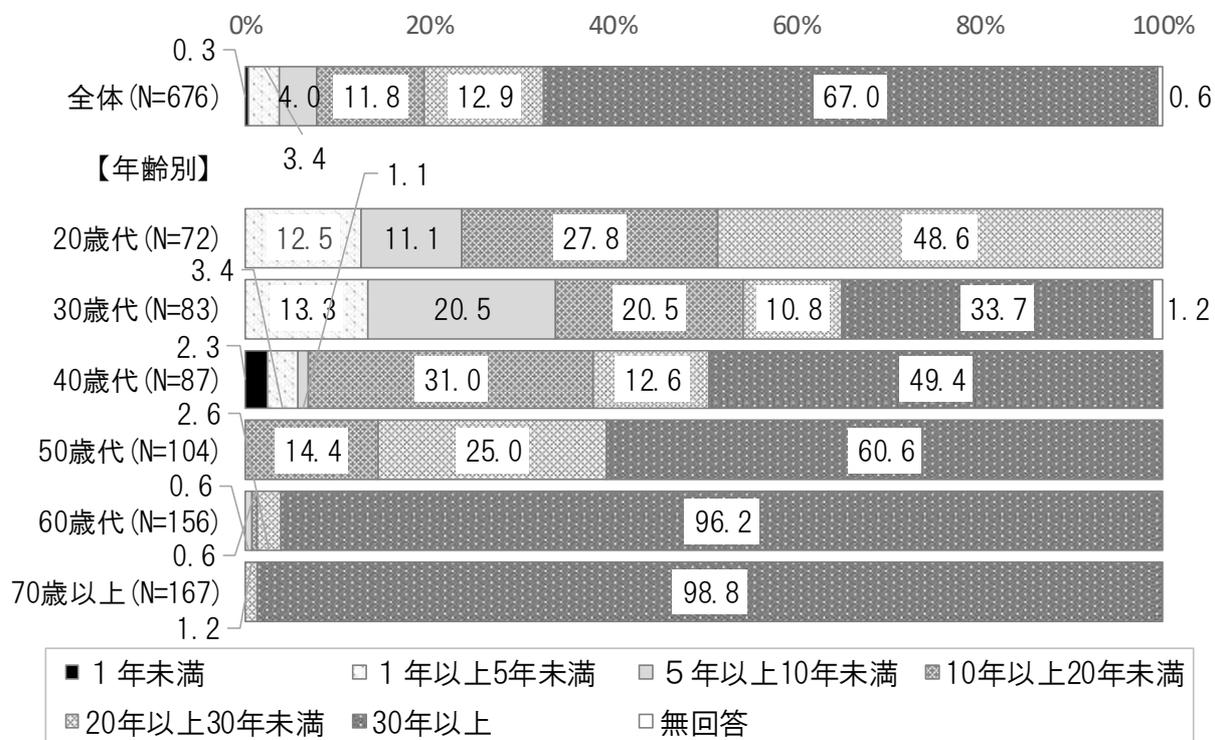
その他の意見
兄妹
姉妹
親、兄弟
祖父と同居
祖母と同居
夫婦、兄弟
夫婦と義弟
夫婦と姉

■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	単身者 (1人住まい)	夫婦のみ	二世世代家族 (夫婦と子どもなど)	三世世代家族 (夫婦・子ども・孫など)	その他	無回答
R1 (N=676)	11.2%	30.3%	43.6%	8.0%	1.2%	5.6%
H26 (N=900)	11.2%	26.9%	40.0%	9.1%	10.8%	2.0%
H21 (N=1,049)	10.5%	27.7%	42.6%	10.1%	8.4%	0.7%

6. 芦屋町での居住年数（問6）

芦屋町での居住年数をみると、「30年以上」が最も高く、およそ7割を占めています。
年齢別でみると、年齢が上がるほど居住年数が高くなる傾向がみられます。



■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	無回答
R1 (N=676)	0.3%	3.4%	4.0%	11.8%	12.9%	67.0%	0.6%
H26 (N=900)	0.3%	1.2%	3.7%	12.2%	18.6%	62.8%	1.2%
H21 (N=1,049)	0.4%	2.7%	4.7%	10.8%	17.8%	63.1%	0.6%

2. 町の暮らしやすさについて

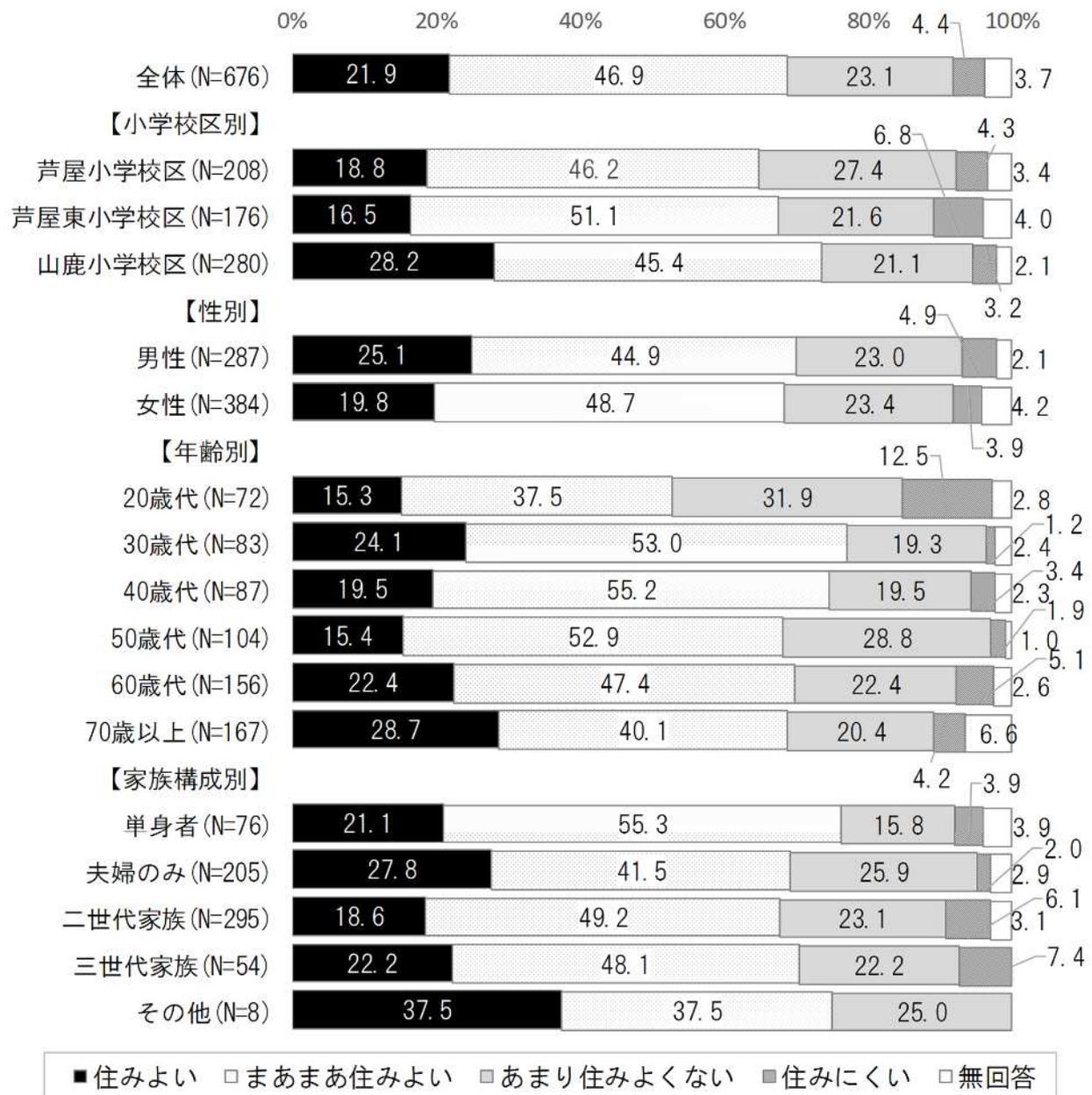
問7 芦屋町は住みよいと感じていますか。(1つに○)

芦屋町の住みやすさについてみると、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよい(以下「満足派」と表記)』と回答した人が68.8%とおよそ7割を占めています。

小学校区別でみると、山鹿小学校区の『満足派』の割合が高くなっています。

年齢別でみると、30歳代、40歳代の『満足派』の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、単身者、三世代家族の『満足派』の割合が高くなっています。



過年度で比較すると、『満足派』の割合はH26調査の70.3%から、今回は68.8%とやや低下しています。

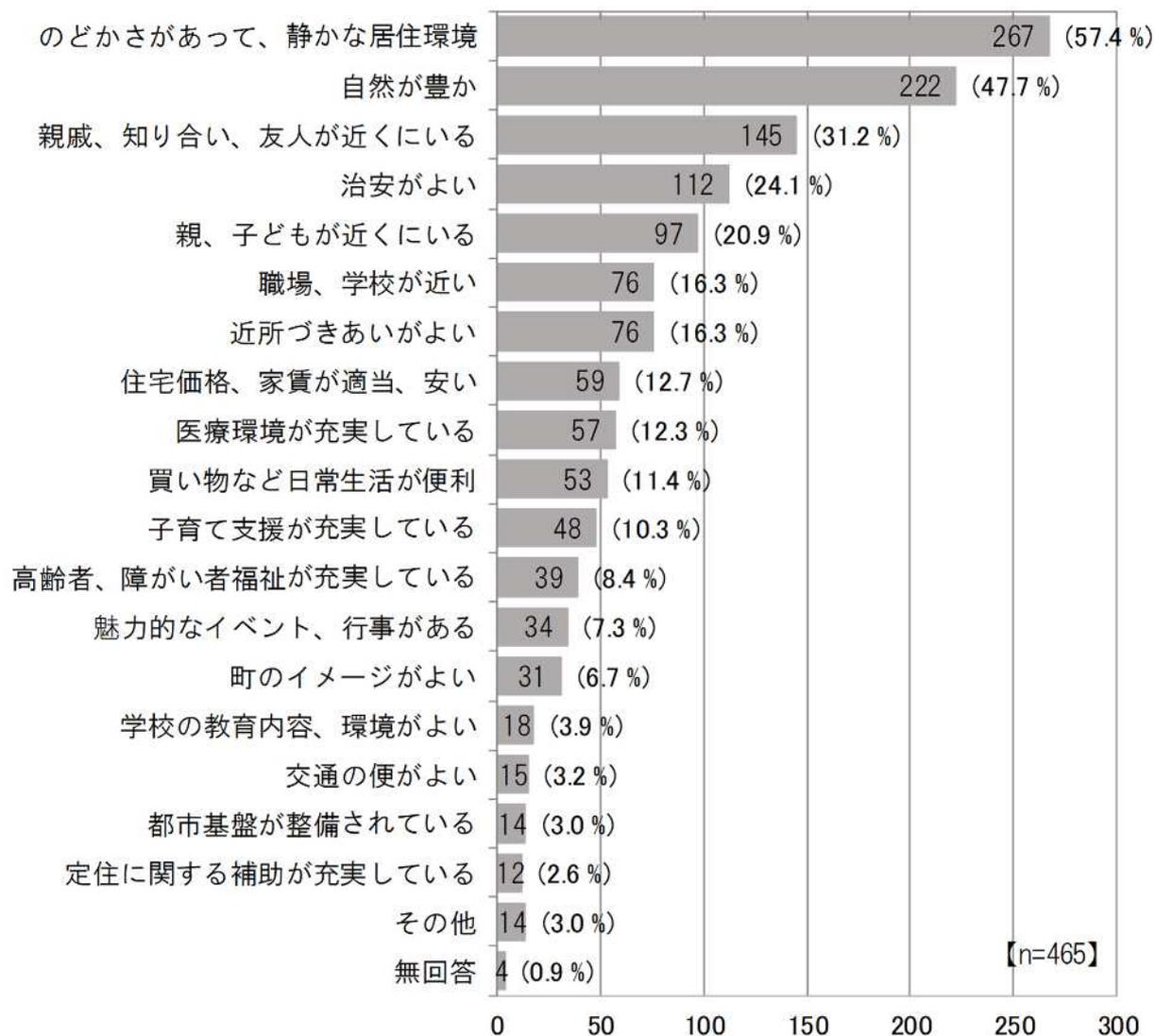
■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	住みよい	まあまあ 住みよい	あまり住み よくない	住みにくい	無回答	満足派 計	不満足派 計
R1 (N=676)	21.9%	46.9%	23.1%	4.4%	3.7%	68.8%	27.5%
H26 (N=900)	20.4%	49.9%	21.1%	6.1%	2.4%	70.3%	27.2%
H21 (N=1,049)	23.4%	44.6%	22.3%	5.3%	4.4%	68.0%	27.6%

※問7で「1」「2」を選んだ人におたずねします。

問7-1 どのような点で住みよと感じていますか。(複数回答)

住みよと感じる理由についてみると、「のどかさがある、静かな居住環境」が57.4%と最も高く、次いで「自然が豊か」が47.7%、「親戚、知り合い、友人が近くにいる」が31.2%となっています。

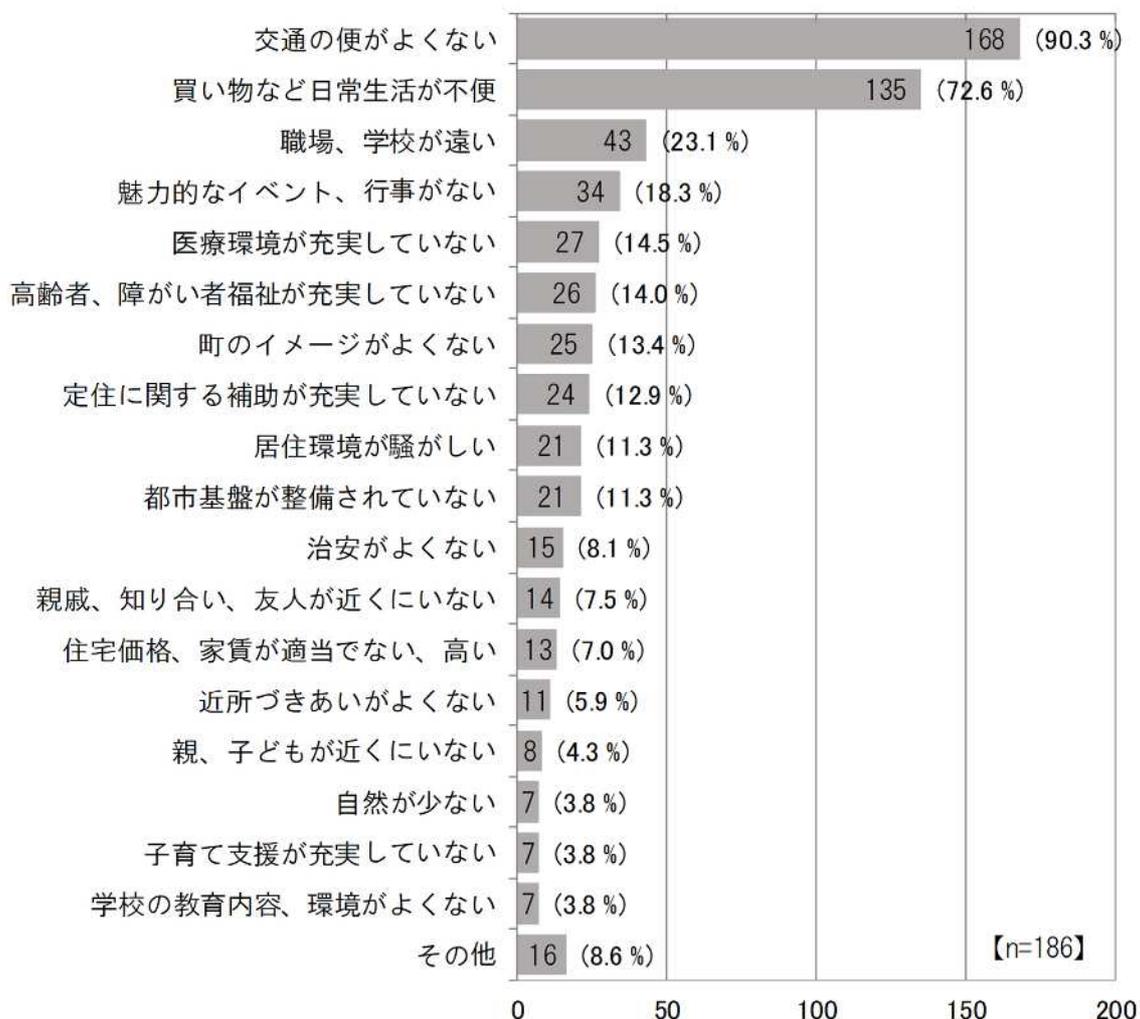


その他の意見	件数
昔から住んでいるから。	6
災害が少ない。	5
この年になれば住めば都で、大抵の人はそう思うのではないか。	1
災害(天災)が少ない環境。天候が年を通して安定している。	1
実家に住んでいるから。	1

※問7で「3」「4」を選んだ人におたずねします。

問7-2 どのような点で住みにくいと感じていますか。(複数回答)

住みにくと感じる理由についてみると、「交通の便がよくない」が90.3%と最も高く、次いで「買い物など日常生活が不便」が72.6%となっています。



その他の意見
スーパー等の品が高い。
スナック、バーなどばかりで、店が充実していない。
よそ者を邪魔者扱いする人が多い気がする。また、扱いが酷い。
芦屋商店街はシャッターが閉まっているのが目立つ。飲食店の人達が、店をオープンしたいと思うような魅力的なもうひと押しがあれば客も増え、少しは活気づく。
遠賀郡4町の中で一番衰退している気がするから。
海浜公園のイベントがとてもうるさい。毎年非常にストレスがかかる。外灯がまぶしすぎて眠れない(レジャープール、砂像展、はまゆうミュージックキャンプなど)。
学校施設が遠い。
健康維持のためにウォーキング等の運動をする環境が少ない(雨天や日没後)。
公共料金等、北九州に比べて高い。
行政区がおかしい。住民主導でない。視覚障害、点字ブロックがない。
住民税が割高。ゴミ代(袋)が割高。
水道料金が割高。ゴミ袋が高い。
道が狭い。
道路その他の都市計画が不十分。住みやすい町づくりの展望がない。
必ず車が必要なのに駐車場が少ない(スーパーなど)。
老人が多く、若者があまり目立たない(町中ではほとんど見かけない)。

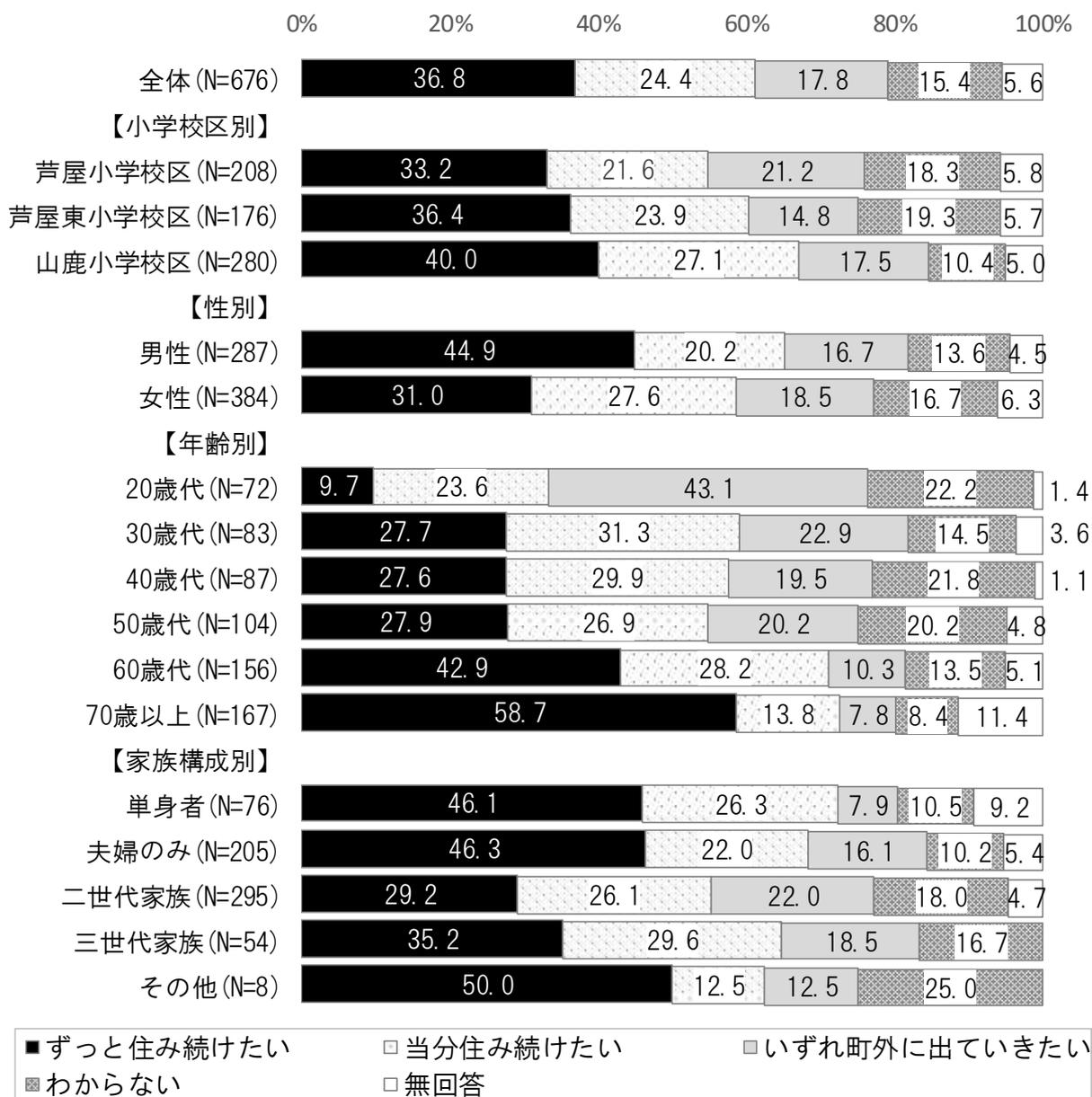
問8 今後も芦屋町に住み続けたいですか。(1つに○)

芦屋町の居住意向についてみると、「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』と回答した人が61.2%とおよそ6割を占めています。

小学校区別でみると、山鹿小学校区の『住み続けたい』の割合が高くなっています。

性別でみると、男性が女性に比べ『住み続けたい』の割合が高く、年齢別でみると、20歳代の『住み続けたい』の割合が低く、30歳代で高くなり、40歳代、50歳代で若干減少し、60歳代で再び『住み続けたい』の割合が高くなっています。

家族構成別でみると、単身者、夫婦のみで『住み続けたい』の割合が他と比較して高くなっています。



過年度で比較すると、『住み続けたい』の割合は、H21 調査の 69.3%、H26 調査の 63.7%から、今回は 61.2%と低下しています。「ずっと住み続けたい」の割合は、3ポイント以上減少し続け、「いずれ町外に出ていきたい」の割合は、H26 調査の 10.2%から今回は 17.8%と 7ポイント以上増加しています。

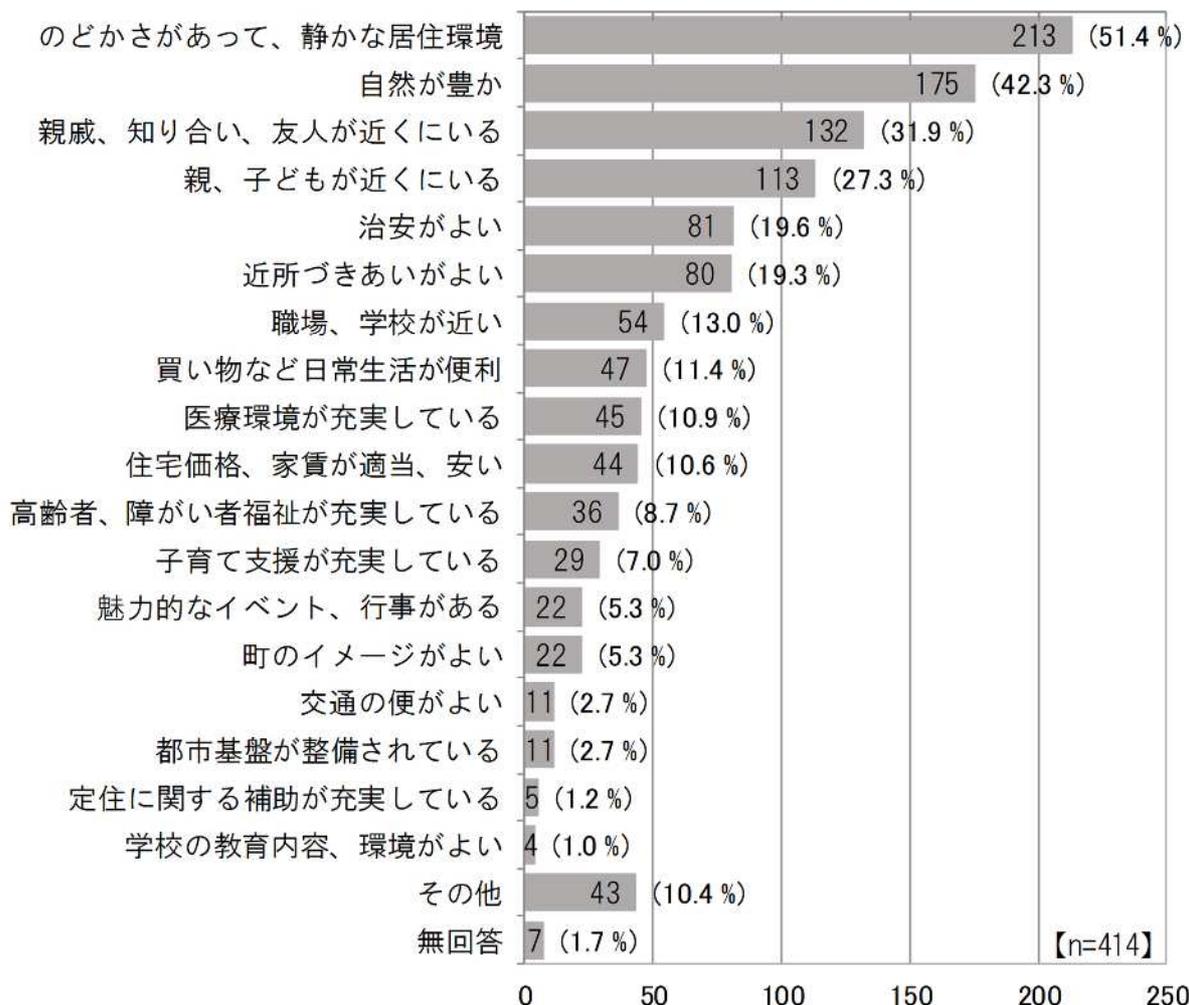
■過年度比較（前回比 3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	ずっと住み 続けたい	当分住み続 けたい	いずれ町外に 出ていきたい	わからない	無回答	住み続けたい 計
R1 (N=676)	36.8%	24.4%	17.8%	15.4%	5.6%	61.2%
H26 (N=900)	41.3%	22.4%	10.2%	23.4%	2.6%	63.7%
H21 (N=1,049)	45.0%	24.3%	11.7%	14.4%	4.6%	69.3%

※問8で「1」「2」を選んだ人におたずねします。

問8-1 どのような点で今後も住み続けたいと思いますか。(複数回答)

住み続けたい理由についてみると、「のどかさがある、静かな居住環境」が51.4%と最も高く、次いで「自然が豊か」が42.3%、「親戚、知り合い、友人が近くにいる」が31.9%となっています。

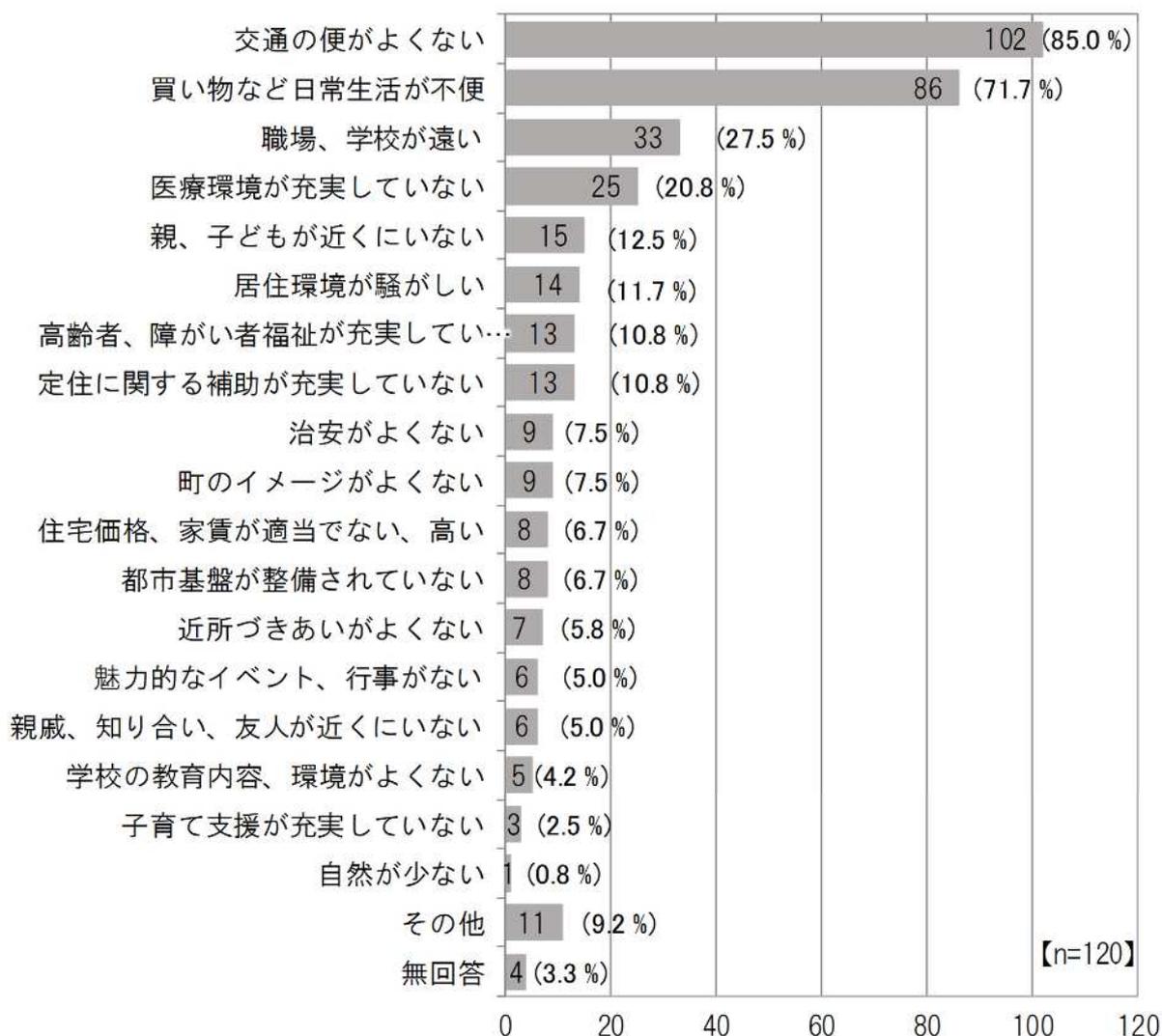


その他の意見		件数
家があるので。		14
家を建てたから		5
生まれ育った町だから。		2
今さらよそで暮らせない。		2
自然災害が少ない。		2
芦屋以外で生活したのは人生のうち2年くらいなので、他町との比較ができないから。		1
海が好きで、なみかけ大橋から見る水平線は個人的にNo.1の景色だから、ずっと見ていたい。		1
その他の各1件の意見		
引っ越しが面倒だから。	住まいが持ち家である、出る理由がない。	
希望するわけでないが、諸般の事情から終活の地となる。	住み慣れているから。	
高齢になり、他の場所へ行く気力、資力もない。	住居は持ち家なので、住居費用が不要だから。	
子どもが芦屋で育って、芦屋が大好きなので。	消防団の活動があるから。	
持ち家なので離れることができない。	親も高齢になっているから。	
持ち家のため住み続けざるを得ない。	人がいいから。	
自分の家だから仕方がない。	他に行く所がないから。	
実家があるから。	利点はないが移住の計画がない。	

※問 8 で「3」を選んだ人におたずねします。

問 8-2 どのような点でいずれ町外に出ていきたいと思えますか。(複数回答)

町外に出ていきたい理由についてみると、「交通の便がよくない」が 85.0%、「買い物など日常生活が不便」が 71.7%となっています。



その他の意見
いずれ 1 人暮らしをしたいから。親元を離れて自立するため。
仕事の都合上。
車がないと生活できないから。
将来的に海外に移住したいと思っているから。
他町に比べて生活用品が高い。
大雨の度に長時間トイレ(水回り)が使えない。生活が難しくなっている。
大学卒業後は福岡市の方で就職希望だから。
町外の親と同居するため。
町内居住者に対して、町内の施設の料金が安い。
転勤するから。
良い賃貸住宅がないから。

3. 町の取り組みに対する満足度・重要度について

問9 芦屋町のこれまでの取り組みについて、あなたはどのくらい満足し、また、重要とお考えですか。(各項目について、「満足度」、「重要度」からそれぞれ1つずつに○)

町の取り組みについて、39の項目を掲げ、それぞれの「満足度」「重要度」を4段階評価で回答を得ました。

■町の取り組み

	項目	代表的な事業など
1	公共交通機関の利便性	・町内を運行する北九州市営バス、芦屋タウンバスの路線や運行本数、巡回バスの運行など
2	道路網の利便性や生活道路の整備	・幹線道路、身近な生活道路の利便性、整備の状態など
3	交通安全の推進	・交通安全運動の実施、カーブミラーや道路照明などの交通安全施設の設置状況など
4	上水道の安定供給	・北九州市による水道の安全・安定供給など
5	下水道	・下水道施設の整備状況など
6	地震や風水害などの防災対策	・自主防災組織への支援、防災地図や防災訓練の実施、防災無線の整備や避難所の設置状況など
7	火事などの消防対策	・迅速な消火活動、消防団活動の支援など
8	犯罪などの防犯対策	・自治防犯組合などの町内巡回活動の支援、見回りの強化、防犯街灯や防犯カメラの設置など
9	町並み、景観の向上	・花壇の整備、街路樹の剪定、誘導看板や総合案内板などの整備状況など
10	公園や緑地の充実	・中央公園、海浜公園、夏井ヶ浜はまゆう公園などの維持や整備など
11	ごみの資源化や減量化	・自治区などによる資源物の集団回収奨励制度、生ごみ処理容器やダンボールコンポストなどの助成制度など
12	海や川などの自然環境の保全	・ラブアース活動（海岸線や河川の一斉清掃）など
13	生活環境の向上	・不法投棄防止パトロール、放置自転車対策、不法係留船対策など
14	農業の振興	・新規就農者への就農支援、用水路やため池などの維持や整備など
15	漁業の振興	・漁港や漁業施設の維持や整備など
16	商業の振興	・にこにこ商品券・高額商品券発行の補助、商工業者への運営や設備資金の借入支援など
17	商店街などの中心市街地の整備	・商業者への支援や企業誘致、空店舗活用の補助制度など
18	観光の振興	・国民宿舎・レジャープールアクアシアン・芦屋海水浴場の運営、観光情報の発信など
19	イベントの開催	・あしや砂像展の実施、花火大会や祭りあしやなどの開催支援など
20	地域医療の充実	・芦屋中央病院の医療機器の充実や町内の医院との連携など

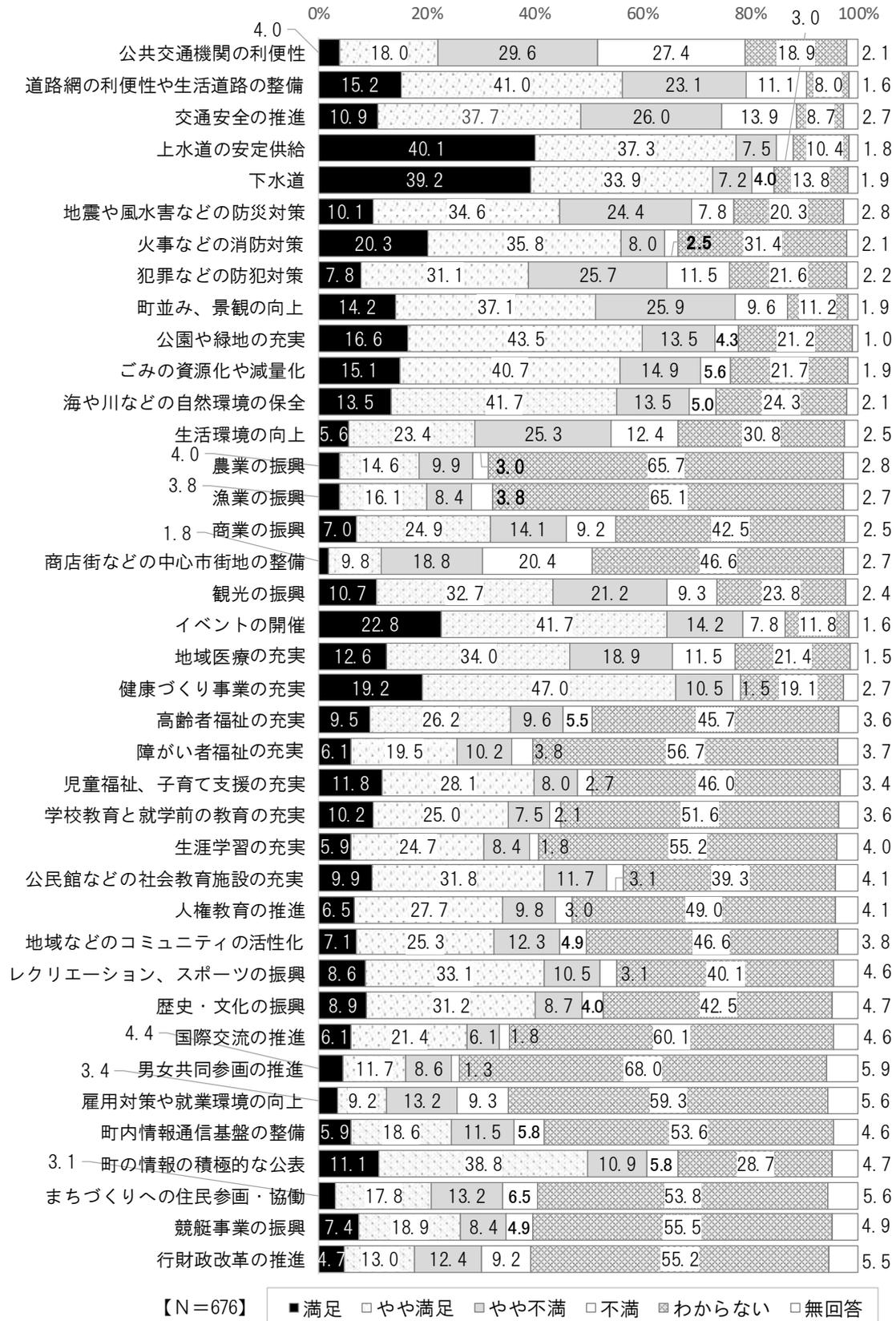
	項目	代表的な事業など
21	健康づくり事業の充実	・特定健診・がん検診・乳幼児健診の実施、健康・運動教室や保健指導・栄養指導の実施など
22	高齢者福祉の充実	・介護予防事業、地域交流サロン事業や配食サービスなどの在宅福祉サービスの実施など
23	障がい者福祉の充実	・公共施設のバリアフリー化、福祉タクシーチケット給付、手話通訳者の派遣、障がい児デイサービス「芦屋すてっぷくらぶ」の運営など
24	児童福祉、子育て支援の充実	・子ども医療費の助成、学童クラブの運営、保育所などの利用、子育て支援センターの運営や育児教室・相談の実施など
25	学校教育と就学前の教育の充実	・小学校4年生までの35人学級の実施や中学校3年生への放課後特別授業の実施など ・保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携など ・特別支援教育の推進など ・ICT教育（情報通信技術）の推進など
26	生涯学習の充実	・各公民館講座、祖父母学級、同好会活動などの推進、文化協会への活動支援など
27	公民館などの社会教育施設の充実	・中央公民館、東公民館、山鹿公民館、図書館、町民会館などの運営など
28	人権教育の推進	・人権まつり、人権講演会の実施、人権カレンダーの発行や人権啓発の実施など
29	地域などのコミュニティの活性化	・自治区活動への支援、自治区担当職員制度（職員が地域活動に参加し、町民による自主的な地域づくりのサポートを行う活動）の推進など
30	レクリエーション、スポーツの振興	・総合体育館・小体育館などの体育施設の管理運営、スロートレーニングなど健康づくり講座の開催、スポーツ大会や体育協会への支援など
31	歴史・文化の振興	・芦屋釜復興への取り組み、芦屋釜の里の運営やさくらコンサートなどの事業、歴史の里の運営や企画展の実施、ギャラリーあしやの運営など
32	国際交流の推進	・国際交流協会への支援、中学生のホームステイ事業など
33	男女共同参画の推進	・男女共同参画社会の実現に向けての啓発や講演会の実施など
34	雇用対策や就業環境の向上	・企業誘致を促進する条例、創業等促進支援事業補助金制度など
35	町内情報通信基盤の整備	・芦屋釜の里、レジャープールアクアシアン、マリントラスあしやへの無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備、インターネットを利用した情報提供など
36	町の情報の積極的な公表	・広報あしやの発行、出前町長室、出前講座、町のホームページ運営など
37	まちづくりへの住民参画・協働	・住民と行政との情報の共有、パブリックコメントの実施、計画などへの住民の意見の反映など
38	競艇事業の振興	・売上向上に向けた取り組み（電話投票の拡大、キャッシュレス投票の促進）、来場者増加に向けた取り組み（夏休みイベント、タレントショー）、施設改善（Wi-Fiの整備、分煙化の促進）など
39	行財政改革の推進	・自主財源の確保、効率的な行政運営の推進など

（1）満足度

満足度が高い取り組みは「上水道の安定供給（77.4%）」「下水道（73.1%）」「健康

づくり事業の充実(66.3%)」「イベントの開催(64.5%)」「公園や緑地の充実(60.1%)」
 となっています。

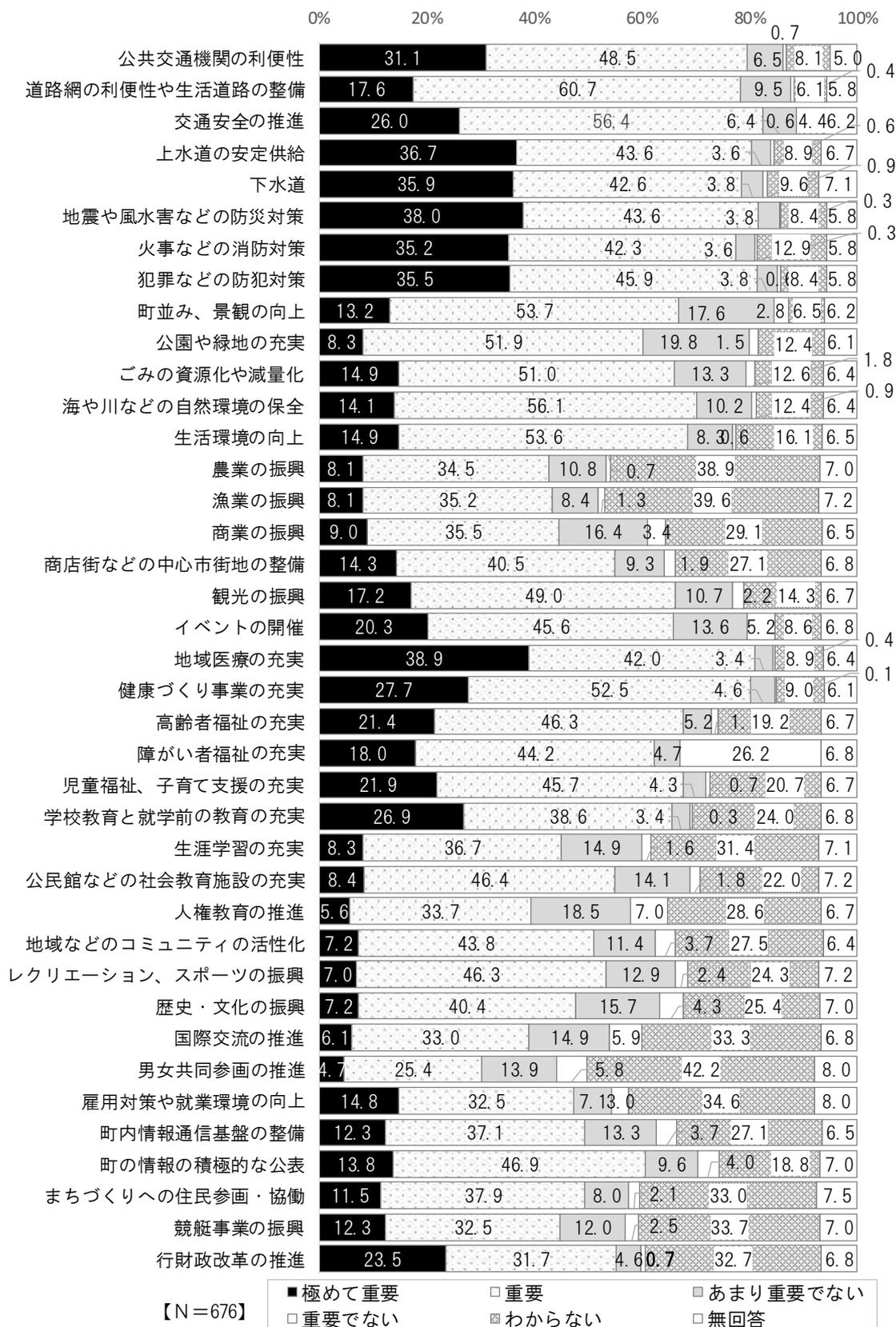
一方、満足度が低い取り組みは「公共交通機関の利便性(57.0%)」「交通安全の推進(39.9%)」「商店街などの中心市街地の整備(39.2%)」「生活環境の向上(37.7%)」「犯罪などの防犯対策(37.3%)」などがあげられます。



(2) 重要度

重要度が高い取り組みは「交通安全の推進 (82.4%)」「地震や風水害などの防災対策 (81.7%)」「犯罪などの防犯対策 (81.4%)」「地域医療の充実 (80.9%)」「上水道の安定供給 (80.3%)」となっています。

一方、重要度が低い取り組みは「障がい者福祉の充実 (30.9%)」「人権教育の推進 (25.4%)」「公園や緑地の充実 (21.3%)」「国際交流の推進 (20.9%)」「町並み、景観の向上 (20.4%)」などがあげられます。



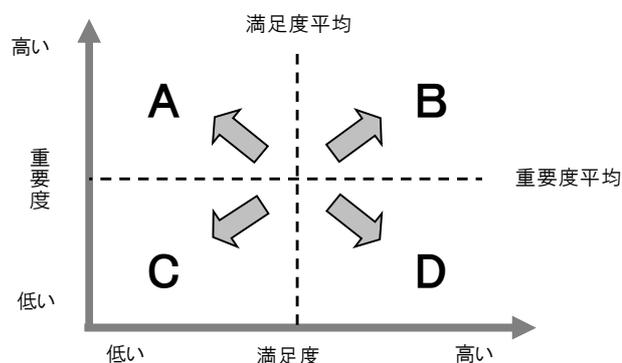
満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度は以下に示す平均評定値（加重平均値）を算出する方法で点数化しています。

- 「満足度」については「満足」「やや満足」への回答とともに、「やや不満」「不満」という選択肢もあります。このため、「満足度」をよりの確に分析するために、平均評定値による指標化を行いました。
- 平均評定値は、「満足」に4点、「やや満足」に3点、「やや不満」に2点、「不満」に1点の係数（ウエイト）を設定し、
【「満足」の回答件数×4点＋「やや満足」の回答件数×3点＋「やや不満」の回答件数×2点＋「不満」の回答件数×1点】÷【回答者件数－無回答件数－「わからない」の回答件数】の計算によって算出し、指標としています。
- この指標によって、「満足度」の強弱をより明確に分析することが可能です。
- 「重要度」についても、同様の算出方法で平均評定値を算出しています。

満足度と重要度それぞれの平均評定値に基づき、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、39の項目を散布図上に示したものが相関図です。

縦軸に重要度、横軸に満足度をとった相関図では、満足度と重要度を4つの区画上に示すことで、各項目の位置づけを整理します。満足度と重要度の各々の平均を示す点から左上（A）、右上（B）、左下（C）、右下（D）の4方向に進むに従い、以下の傾向を示しています。



A. 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、項目の重点化や抜本的な見直しなども含め満足度を高める必要のある領域です。

「地域医療の充実」「地震や風水害などの防災対策」「犯罪などの防犯対策」「行財政改革の推進」「公共交通機関の利便性」「交通安全の推進」「道路網の利便性や生活道路の整備」「生活環境の向上」が該当します。

B. 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域です。

「火事などの消防対策」「上水道の安定供給」「下水道」「学校教育と就学前の教育の充実」「健康づくり事業の充実」「児童福祉・子育て支援の充実」などが該当します。

C. 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、項目の目的やニーズを再確認するとともに、項目のあり方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域です。

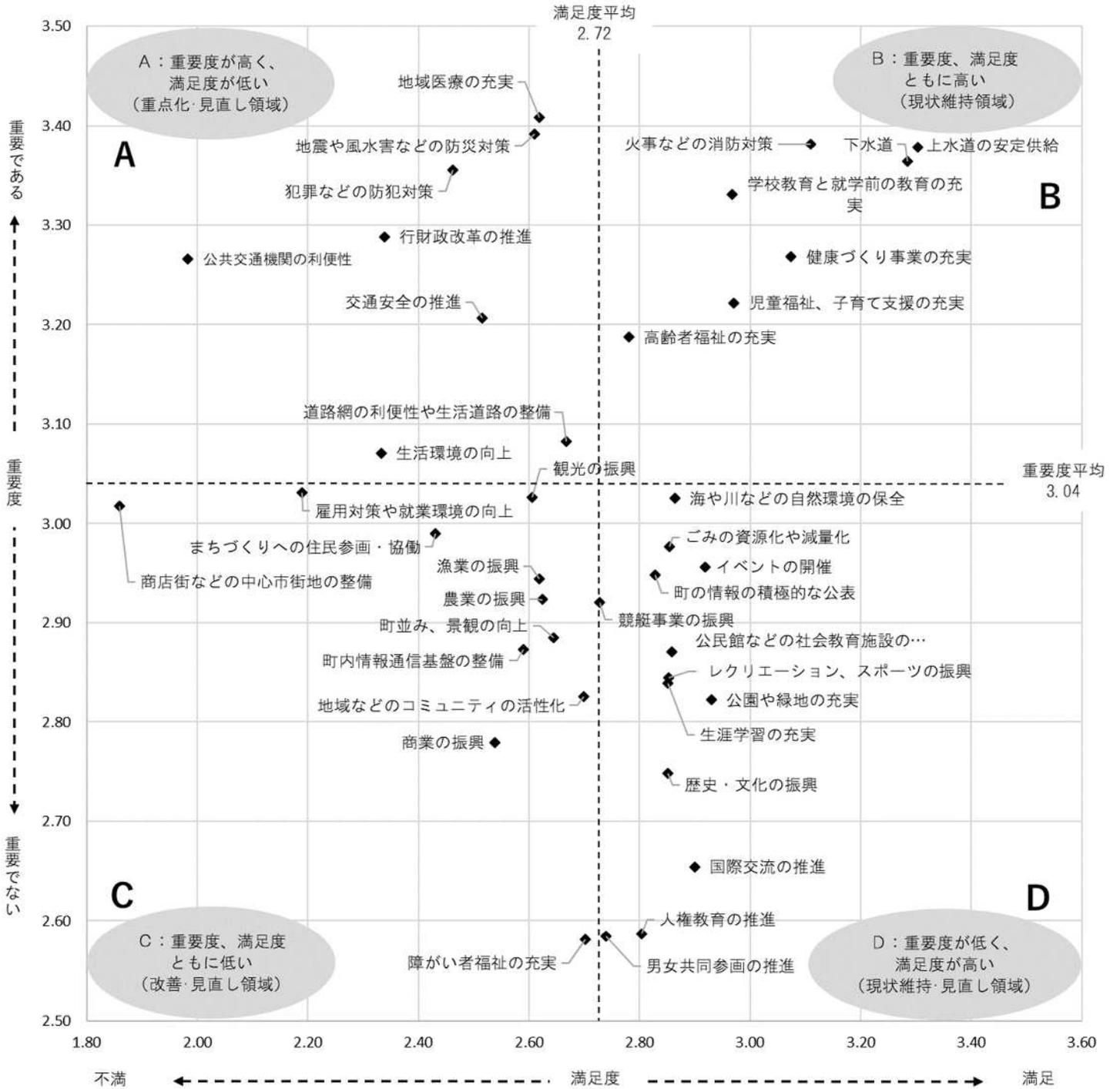
「商店街などの中心市街地の整備」「雇用対策や就業環境の向上」「観光の振興」「まちづくりへの住民参画・協同」「農業の振興」などが該当します。

D. 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは項目のあり方を含めて見直すべき必要のある領域です。

「男女共同参画の推進」「人権教育の推進」「国際交流の推進」「歴史・文化の振興」などが該当します。

◆満足度と重要度の相関図による分析◆



■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	満足度			重要度		
	R1	H26	H1	R1	H26	H1
公共交通機関の利便性	1.98	1.99	2.25	3.27	3.21	3.18
道路網の利便性や生活道路の整備	2.67	2.72	2.80	3.08	3.05	2.97
交通安全の推進	2.52	2.59	2.73	3.21	3.19	3.14
上水道の安定供給	3.30	3.22	3.25	3.38	3.26	3.25
下水道	3.28	3.23	3.27	3.36	3.27	3.28
地震や風水害などの防災対策	2.61	2.56	2.49	3.39	3.38	3.35
火事などの消防対策	3.11	3.06	3.02	3.38	3.34	3.31
犯罪などの防犯対策	2.46	2.58	2.53	3.36	3.32	3.33
町並み、景観の向上	2.64	2.74	2.58	2.88	2.82	2.80
公園や緑地の充実	2.93	2.61	2.40	2.82	2.81	2.97
ごみの資源化や減量化	2.85	2.93	2.76	2.98	2.90	3.21
海や川などの自然環境の保全	2.86	2.81	2.69	3.03	3.01	3.16
生活環境の向上	2.33	2.32	2.40	3.07	3.09	3.09
農業の振興	2.62	2.83	2.78	2.92	2.80	2.85
漁業の振興	2.62	2.78	2.74	2.94	2.82	2.83
商業の振興	2.54	2.63	2.46	2.78	2.76	2.90
商店街などの中心市街地の整備	1.86	2.08	2.05	3.02	3.02	3.08
観光の振興	2.61	2.49	2.62	3.03	3.00	2.95
イベントの開催	2.92	2.73	2.51	2.96	2.94	2.93
地域医療の充実	2.62	2.22	2.56	3.41	3.38	3.46
健康づくり事業の充実	3.07	2.98	2.82	3.27	3.20	3.24
高齢者福祉の充実	2.78	2.74	2.76	3.19	3.17	3.14
障がい者福祉の充実	2.70	2.79	2.75	2.58	3.14	3.06
児童福祉、子育て支援の充実	2.97	2.83	2.72	3.22	3.19	3.08
学校教育と就学前の教育の充実	2.97	2.86	2.85	3.33	3.26	3.06
生涯学習の充実	2.85	2.83	2.80	2.84	2.81	2.68
公民館などの社会教育施設の充実	2.86	2.86	2.72	2.87	2.88	2.73
人権教育の推進	2.80	2.83	2.80	2.59	2.60	2.62
地域などのコミュニティの活性化	2.70	2.71	2.64	2.83	2.72	2.57
レクリエーション、スポーツの振興	2.85	2.86	2.75	2.84	2.73	2.55
歴史・文化の振興	2.85	2.82	2.79	2.75	2.66	2.61
国際交流の推進	2.90	2.90	2.77	2.65	2.64	2.60
男女共同参画の推進	2.74	2.77	2.64	2.58	2.58	2.46
雇用対策や就業環境の向上	2.19	2.40	2.15	3.03	3.04	3.18
町内情報通信基盤の整備	2.59	2.55	2.44	2.87	2.80	2.87
町の情報の積極的な公表	2.83	2.78	2.80	2.95	2.93	2.98
まちづくりへの住民参画・協働	2.43	2.50	2.46	2.99	2.95	3.03
競艇事業の振興	2.73	2.67	2.38	2.92	2.78	2.79
行財政改革の推進	2.34	2.41	2.32	3.29	3.21	3.14

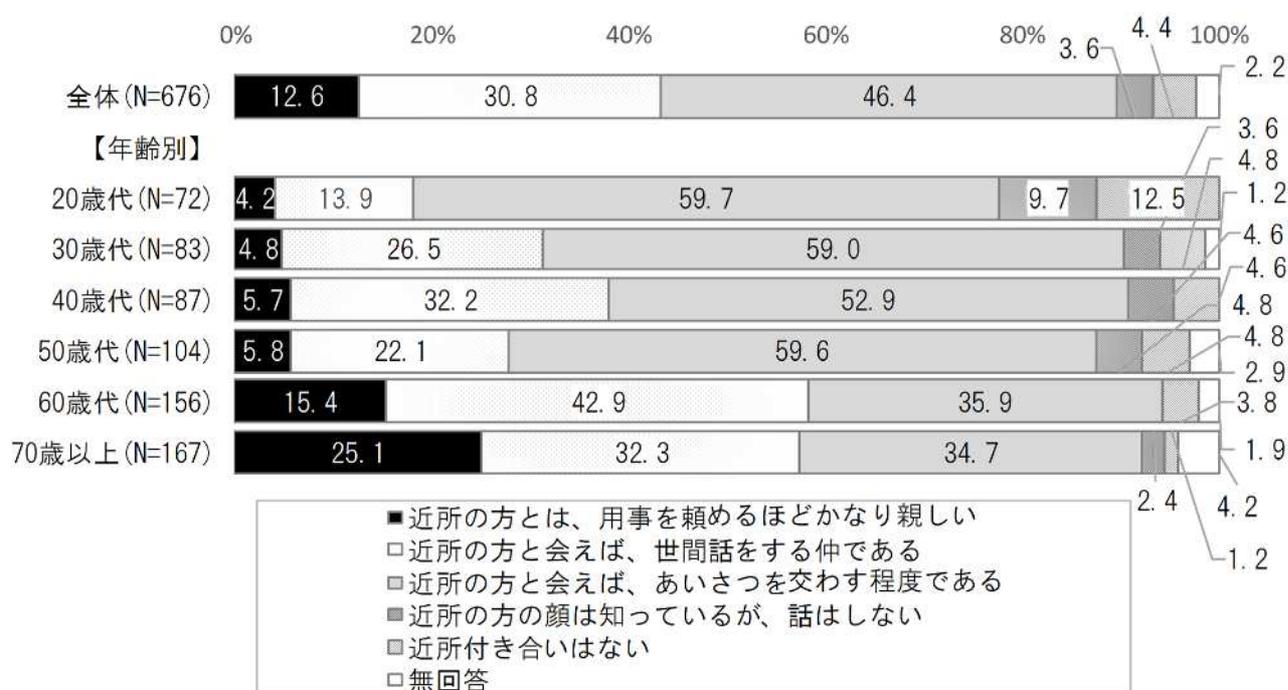
4. その他、まちの重点的な取り組みなどについて

◆地域について

問 10 ふだん近所の方とどの程度の付き合いをされていますか。(1つに○)

近所との付き合いの程度についてみると、「近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である」が46.4%と最も高く、次いで「近所の方と会えば、世間話をする仲である」が30.8%、「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」が12.6%となっています。

年齢別でみると、年齢が上がるほど「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」の割合が高くなる傾向がみられます。また、20歳代では「近所付き合いはない」の割合が他の年齢と比較してやや高くなっています。



過年度で比較すると、「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」の割合はH26調査では3ポイント以上減少していましたが、今回は大きな変化は見られません。

■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

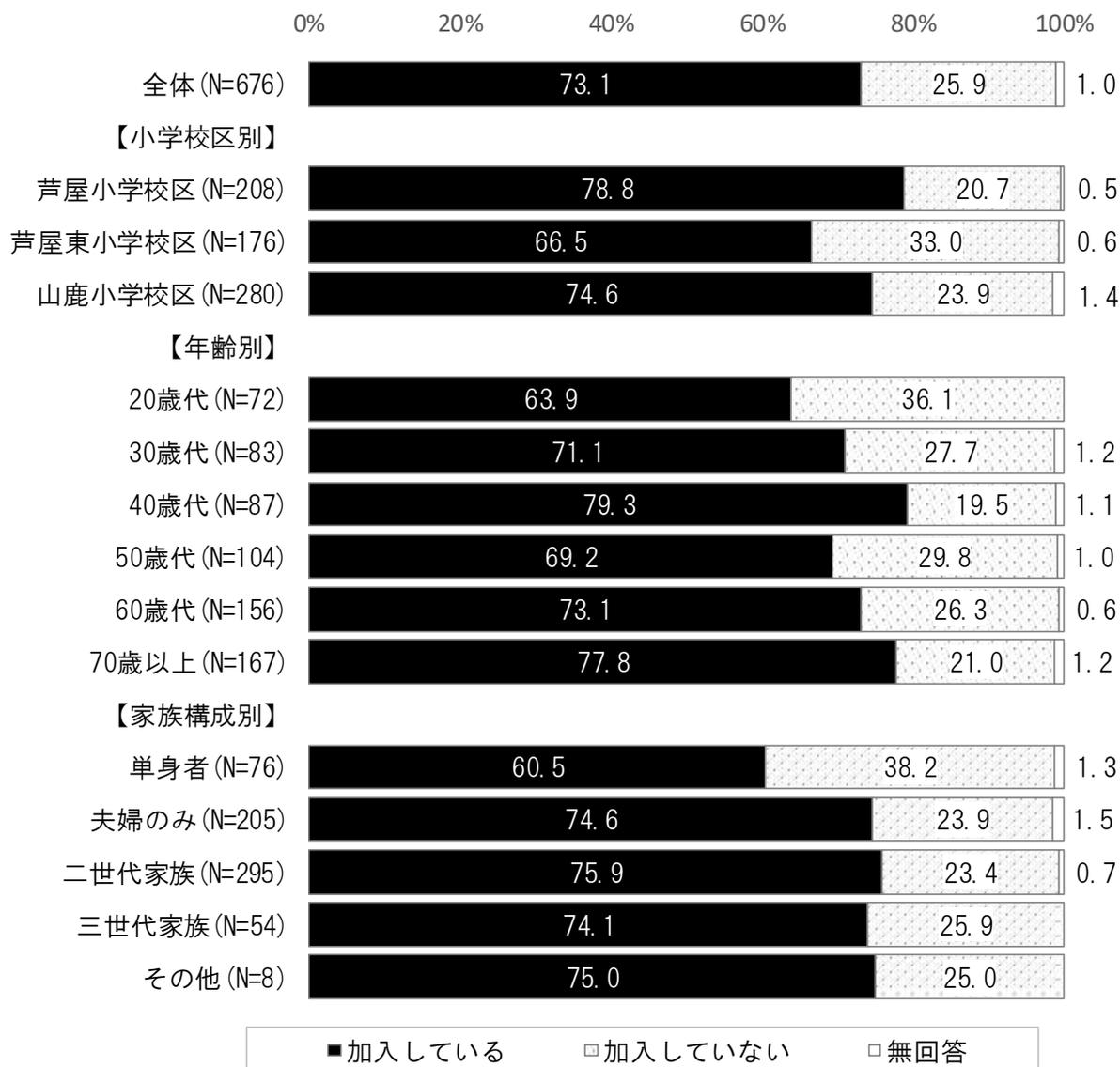
	近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい	近所の方と会えば、世間話をする仲である	近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である	近所の方の顔は知っているが、話さない	近所付き合いはない	無回答
R1 (N=676)	12.6%	30.8%	46.4%	3.6%	4.4%	2.2%
H26 (N=900)	12.4%	31.2%	46.0%	3.8%	3.0%	3.6%
H21 (N=1,049)	15.7%	32.1%	43.7%	3.1%	2.5%	2.9%

問 11 自治区に加入していますか。(1つに○)

自治区の加入状況についてみると、「加入している」(以下、「加入率」)が73.1%とおおよそ7割を占めています。

小学校別でみると、芦屋小学校区が78.8%、年齢別では、40歳代が79.3%と他と比較して高くなっています。

家族構成別でみると、単身者の加入率が60.5%と他と比べてやや低くなっています。



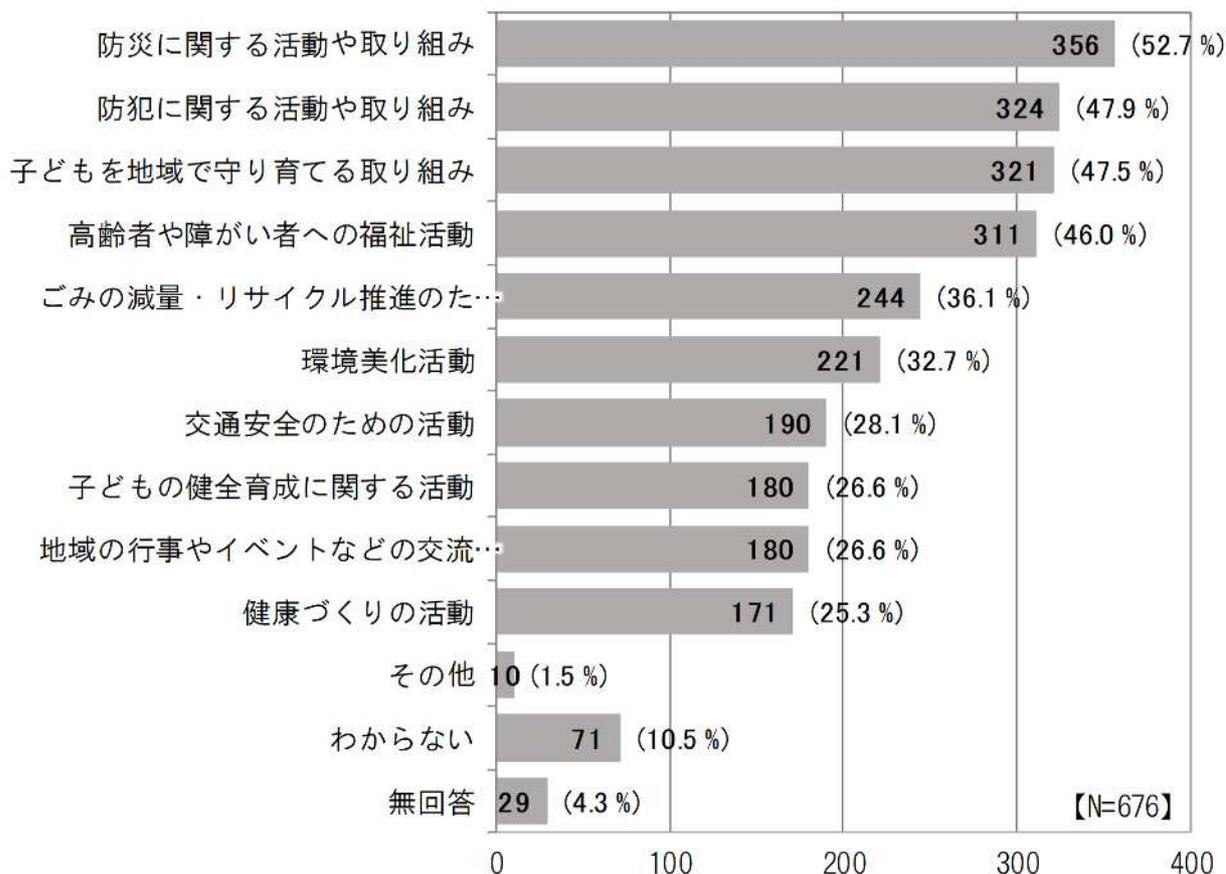
過年度で比較すると、「加入していない」の割合は、3ポイント以上増加し続けています。

■過年度比較 (前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒)

	加入している	加入していない	無回答
R1 (N=676)	73.1%	25.9%	1.0%
H26 (N=900)	75.7%	22.3%	2.0%
H21 (N=1,049)	78.5%	19.1%	2.5%

問 12 自治区の活動に今後どのような活動が必要だと思いますか。(複数回答)

自治区の活動に今度必要な活動についてみると、「防災に関する活動や取り組み」が 52.7%と最も高く、次いで「防犯に関する活動や取り組み」が 47.9%、「子どもを地域で守り育てる取り組み」が 47.5%、「高齢者や障がい者への福祉活動」が 46.0%となっています。



その他の意見
近所との交流、顔見知りになること。
自治区加入者の減少により今後の活動そのものが問題のため、自治区加入者の負担軽減が必要。
自治区参加者を増やす。
若者中心の活動。
住民の高齢化が進み、自治会が成り立たなくなるかもしれないという不安がある。そのために、町も対策を考えてもらいたい。
団地運営への協力、介入。
町民体育会は年配者ばかりになっているので、他のイベントに変えてはどうか。
電灯も含めて、町を明るくしてほしい。暗すぎる。
動物をかわいがるとは良いが、無責任にエサをやらない。地域全体で守っていくこと。
役場の人間が強いという人が多い。役場の人間と関係のない人にもやさしくしてほしい。

過年度と比較すると、「防災に関する活動や取り組み」「防犯に関する活動や取り組み」「子どもを地域で守り育てる取り組み」「環境美化活動」「交通安全のための活動」「子どもの健全育成に関する活動」「地域の行事やイベントなどの交流活動」は、H26 調査より 3 ポイント以上減少しています。

■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	R1 (N=676)	H26 (N=900)	H21 (N=1,049)
防災に関する活動や取り組み	52.7%	58.7%	—
防犯に関する活動や取り組み	47.9%	53.3%	—
子どもを地域で守り育てる取り組み	47.5%	52.3%	—
高齢者や障がい者への福祉活動	46.0%	48.4%	—
ごみの減量・リサイクル推進のための活動	36.1%	37.9%	—
環境美化活動	32.7%	37.7%	—
交通安全のための活動	28.1%	32.3%	—
子どもの健全育成に関する活動	26.6%	33.9%	—
地域の行事やイベントなどの交流活動	26.6%	34.4%	—
健康づくりの活動	25.3%	26.7%	—
その他	1.5%	4.2%	—
わからない	10.5%	8.0%	—
無回答	4.3%	3.2%	—

小学校区別、性別でみると、「防災に関する活動や取り組み」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、20歳代は「防犯に関する活動や取り組み」、30歳代、40歳代は「子どもを地域で守り育てる取り組み」、50歳代、60歳代は「防災に関する活動や取り組み」、70歳以上は「高齢者や障がい者への福祉活動」の割合が高くなっています。

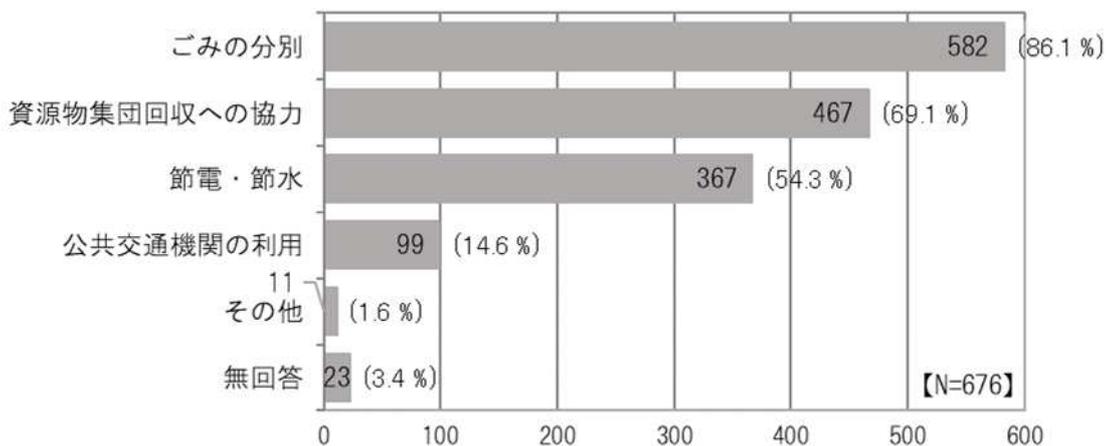
単位：%

		り防 組災 み関 する 活 動 や 取 組 み	り防 組犯 み関 する 活 動 や 取 組 み	交 通 安 全 の た め の 活 動	て る 子 ど も を 地 域 で 守 り 育 て る 取 組 み	す 子 ど も の 健 全 育 成 に 関 する 活 動	環 境 美 化 活 動	ル ご み の 減 量 の た め の リ サ イ ク ル 活 動	健 康 づ く り の 活 動	な 地 域 の 交 流 活 動 な ど の 交 流 活 動	福 祉 活 動 高 齢 者 や 障 が い 者 へ の 活 動	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体 (N=676)		52.7	47.9	28.1	47.5	26.6	32.7	36.1	25.3	26.6	46.0	1.5	10.5	4.3
小 学 校 区 別	芦屋小学校区 (N=208)	55.3	47.6	26.4	51.4	31.7	36.1	41.3	26.9	29.3	50.0	1.4	11.1	1.9
	芦屋東小学校区 (N=176)	51.1	47.7	28.4	46.0	30.1	29.0	31.8	22.7	26.1	42.6	1.7	10.8	5.7
	山鹿小学校区 (N=280)	52.5	49.3	28.9	46.1	21.4	33.6	35.7	26.4	25.0	44.6	1.4	9.6	4.3
性 別	男性 (N=287)	54.0	47.4	28.2	47.7	28.9	33.8	37.6	26.1	28.2	48.1	1.7	9.8	3.1
	女性 (N=384)	51.8	48.4	28.1	47.7	25.3	32.0	35.2	25.0	25.5	44.3	1.3	11.2	4.7
年 齢 別	20歳代 (N=72)	44.4	45.8	29.2	40.3	13.9	25.0	30.6	18.1	23.6	36.1	1.4	16.7	4.2
	30歳代 (N=83)	50.6	54.2	33.7	59.0	30.1	22.9	30.1	18.1	37.3	34.9	1.2	9.6	3.6
	40歳代 (N=87)	44.8	42.5	24.1	54.0	31.0	28.7	33.3	18.4	26.4	41.4	1.1	14.9	0.0
	50歳代 (N=104)	53.8	39.4	26.9	44.2	19.2	28.8	32.7	20.2	12.5	47.1	2.9	5.8	3.8
	60歳代 (N=156)	59.6	50.6	31.4	44.9	32.7	40.4	37.2	27.6	28.2	45.5	1.9	7.7	7.1
	70歳以上 (N=167)	53.3	50.9	24.6	45.5	27.5	37.7	44.3	37.7	30.5	57.5	0.6	12.0	4.2

◆環境問題への取り組みについて

問 13 日ごろから環境問題について、どのような取り組みをされていますか。(複数回答)

環境問題への取り組みについては、「ごみの分別」が 86.1%と最も高く、次いで「資源物集団回収への協力」が 69.1%「節電・節水」が 54.3%となっています。



その他の意見	
クリーンキャンペーンに参加。	
家の周囲の環境。	
近所の子供達と会話する。	
古紙は回収業者へ出している。	
自転車通勤。	
自動車をできるだけ使わず通勤。	
清掃個人ボランティア。	
側溝内の土砂の排除。	
段ボールコンポスト。	
落ちているゴミを拾う。	

過年度で比較すると、「節電・節水」は H26 調査より 3 ポイント以上減少していますが、その他は大きな変化は見られません。

■過年度比較（前回比 3 ポイント以上増加：グレー、3 ポイント以上減少：黒）

	R1 (N=676)	H26 (N=900)	H21 (N=1,049)
ごみの分別	86.1%	83.9%	—
資源物集団回収への協力	69.1%	69.4%	—
節電・節水	54.3%	64.9%	—
公共交通機関の利用	14.6%	16.7%	—
その他	1.6%	2.0%	—
無回答	3.4%	2.2%	—

小学校区別、性別でみると、「ごみの分別」の割合が最も高く、次いで「資源物集団回収への協力」となっています。

年齢別でみると、「ごみの分別」がいずれの年齢においても最も高く、次いで、20歳代は「節電・節水」、それ以外の年齢は「資源物集団回収への協力」の割合が高くなっています。

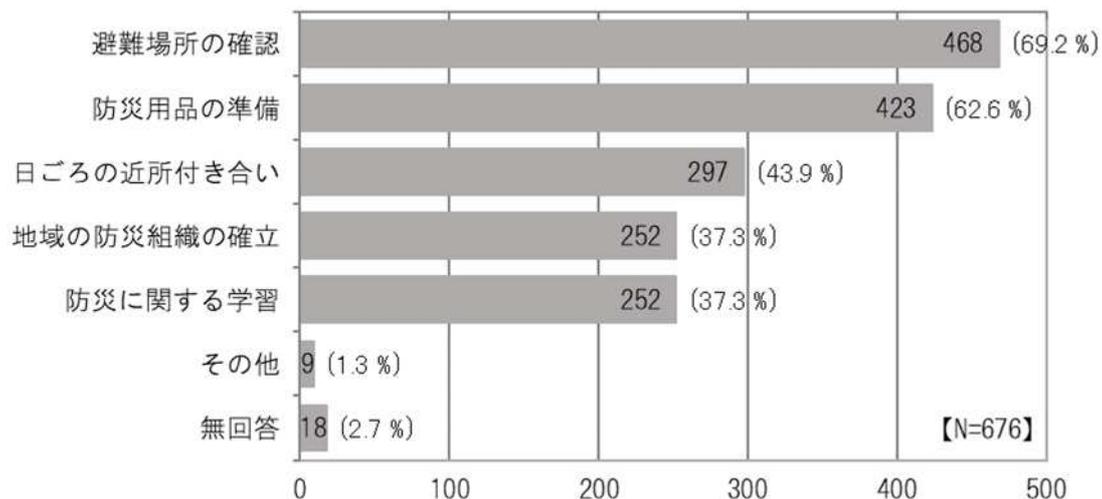
単位：％

		資源物 集団 回収への 協	ご み の 分 別	節 電 ・ 節 水	公 共 交 通 機 関 の 利 用	そ の 他	無 回 答
全体 (N=676)		69.1	86.1	54.3	14.6	1.6	3.4
小 学 校 区 別	芦屋小学校区 (N=208)	67.8	86.5	54.8	15.4	1.4	1.9
	芦屋東小学校区 (N=176)	66.5	85.8	56.8	21.0	2.3	1.1
	山鹿小学校区 (N=280)	73.2	86.4	53.2	10.4	1.4	5.4
性 別	男性 (N=287)	68.3	85.4	56.1	11.1	1.7	3.1
	女性 (N=384)	70.1	86.7	53.1	17.4	1.6	3.4
年 齢 別	20歳代 (N=72)	41.7	75.0	51.4	23.6	1.4	2.8
	30歳代 (N=83)	55.4	79.5	50.6	7.2	1.2	7.2
	40歳代 (N=87)	71.3	79.3	46.0	13.8	2.3	2.3
	50歳代 (N=104)	74.0	89.4	52.9	6.7	1.9	1.0
	60歳代 (N=156)	75.0	92.3	56.4	14.1	1.3	3.8
	70歳以上 (N=167)	77.8	89.8	62.3	21.0	1.8	3.0

◆防災について

問 14 地震や洪水に備えてどのようなことが必要と考えていますか。(複数回答)

防災についてみると、「避難場所の確認」が69.2%と最も高く、次いで「防災用品の準備」が62.6%、「日ごろの近所付き合い」が43.9%となっています。



その他の意見
いろいろな災害を予測できるようにすること。
芦屋町は海拔が低すぎて、逃げる場所がない。
家族がバラバラになった時の連絡方法の確立。
近所付き合い。
迅速な避難指示の確立。
西川不法保留船の撤去。
地区ごとに避難所体験を実施する。
日常的に会話をする。
予測雨量が何mmを上回ると強制的に避難させるなどの取り組み。誰もがすぐに避難してくれるだけでなく周りを見て行動し出すため、最初に避難する人、団体を決め、周りを誘導するようにまでしなければ「今大丈夫だから」と思う人が多く、なかなか避難してくれる傾向にない。

過年度で比較すると、「防災用品の準備」はH26調査より3ポイント以上増加し「避難場所の確認」「日ごろの近所付き合い」「地域の防災組織の確立」は3ポイント以上減少しています。

■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	R1 (N=676)	H26 (N=900)	H21 (N=1,049)
避難場所の確認	69.2%	73.8%	—
防災用品の準備	62.6%	56.0%	—
日ごろの近所付き合い	43.9%	49.8%	—
地域の防災組織の確立	37.3%	41.9%	—
防災に関する学習	37.3%	39.8%	—
その他	1.3%	3.8%	—
無回答	2.7%	2.9%	—

小学校区別、性別でみると、「避難場所の確認」が最も高くなっています。

年齢別でみると、20歳代は「防災用品の準備」、それ以外の年齢は「避難場所の確認」が最も高くなっています。また、70歳以上は「日ごろの近所付き合い」が他の年齢と比較してやや高くなっています。

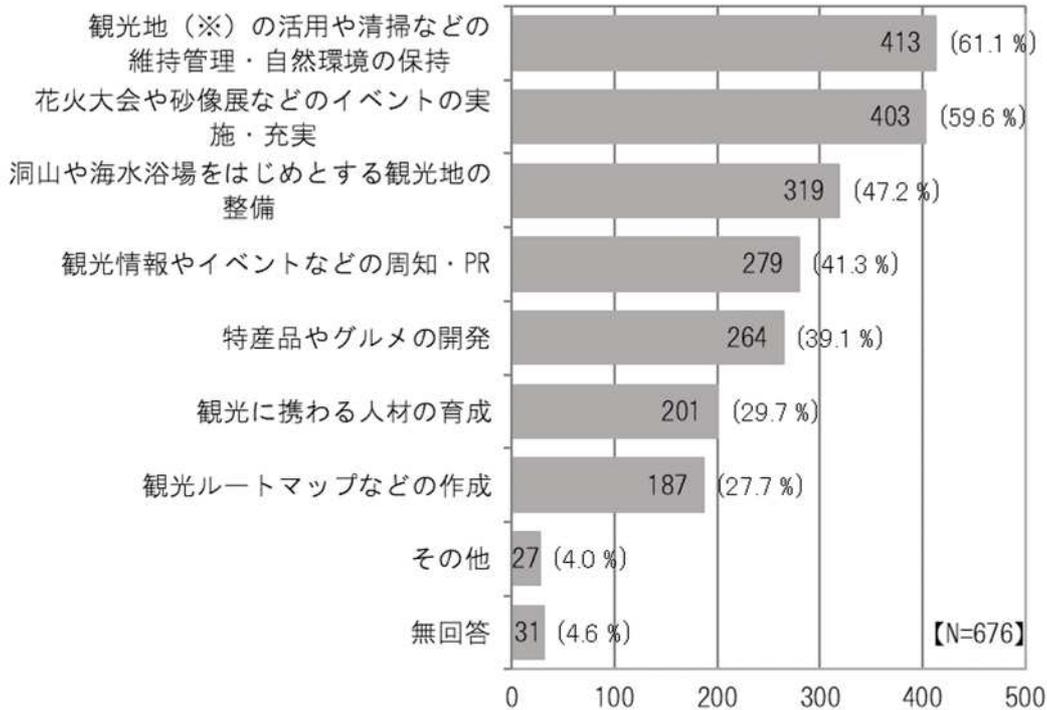
単位：％

		地域の 防災組織 の確立	日 ごろ の 近 所 付 き 合 い	避 難 場 所 の 確 認	防 災 に 関 する 学 習	防 災 用 品 の 準 備	そ の 他	無 回 答
全体 (N=676)		37.3	43.9	69.2	37.3	62.6	1.3	2.7
小 学 校 区 別	芦屋小学校区 (N=208)	40.4	43.8	72.6	36.1	62.5	1.4	2.4
	芦屋東小学校区 (N=176)	34.7	41.5	69.3	35.2	62.5	1.7	1.7
	山鹿小学校区 (N=280)	37.1	45.7	67.5	39.6	64.6	1.1	2.9
性 別	男性 (N=287)	40.8	50.2	65.2	39.0	60.3	1.4	2.1
	女性 (N=384)	34.9	39.3	72.9	35.9	64.6	1.3	2.9
年 齢 別	20歳代 (N=72)	30.6	33.3	70.8	51.4	79.2	1.4	1.4
	30歳代 (N=83)	32.5	36.1	71.1	47.0	68.7	0.0	0.0
	40歳代 (N=87)	27.6	23.0	77.0	40.2	71.3	0.0	1.1
	50歳代 (N=104)	38.5	43.3	72.1	35.6	64.4	1.9	1.0
	60歳代 (N=156)	42.3	50.6	67.3	36.5	53.8	1.9	3.2
	70歳以上 (N=167)	43.1	57.5	64.7	26.9	55.7	1.8	5.4

◆観光の活性化について

問 15 町の観光をより推進するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)

観光の活性化についてみると、「観光地(※)の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」が61.1%、次いで「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」が59.6%、「洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備」が47.2%となっています。



(※) 夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など

その他の意見		件数
公共交通機関の充実。		2
花火大会は橋の上で見られないのが残念である。車道でなければ良いのではないか。警備担当者のマイクが大きい。		1
今までのイベント等に依存しすぎている。新しいものを柔軟に取り入れる姿勢が必要。役場の人も、無難にことを進めようとしすぎているように感じる。		1
アクアシアンは冬も開設できるように、温水工事をしたら良い。大型温泉施設をつくった方が良い。		1
糸島と自然は変わらないのに、なぜ芦屋は人気がないのか。雑貨店、カフェなどがあればいい。		1
城山公園の整備と花見のシーズンのイベント設定。夜の花見と花火大会。普段は入園禁止とする。		1
町内料金、町外料金を設けるべき。洞山などを観光地にしているならば、ゴミや治安の改善をすべき。		1
夏以外でも芦屋へ行ってみたいと思える場所づくり(福津や糸島のように)。		1
その他の各1件の意見		
アクセスをもっと良くする。	商店街のシャッターが気になる。	
フリーWi-Fiの整備など。	新たな観光名所、見所の発掘。	
芦屋の歴史を発信する。	専門家に依頼する。	
飲食店の充実。	他にない魅力づくり。	
海岸線に隣接した土地の町有化、公園化。	地域住民が意識を持つようにすること。	
釜の里がPR不足でもったいない。広くPRを行ってほしい。	町にインスタスポットをつくる。	
観光ガイドを育成し、活動する。	同じイベントを何年も続けたいではない。	
写真を撮りたくなるようなものや瞬間を増やす。	道の駅がほしい。	
若者向けの施設の設置。	特産品のPR。	

過年度で比較すると、「観光地（※）の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」「洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備」はH26 調査より 3 ポイント以上増加し、「特産品やグルメの開発」は 3 ポイント以上減少しています。

■過年度比較（前回比 3 ポイント以上増加：グレー、3 ポイント以上減少：黒）

	R1 (N=676)	H26 (N=900)	H21 (N=1, 049)
観光地（※）の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持	61.1%	56.1%	61.7%
花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実	59.6%	61.4%	59.9%
洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備	47.2%	35.7%	53.0%
観光情報やイベントなどの周知・PR	41.3%	40.0%	42.3%
特産品やグルメの開発	39.1%	50.9%	—
観光に携わる人材の育成	29.7%	30.7%	—
観光ルートマップなどの作成	27.7%	25.8%	30.1%
その他	4.0%	9.4%	6.5%
無回答	4.6%	4.2%	5.6%

（※）夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など

小学校区別でみると、芦屋小学校区と山鹿小学校区は「観光地（※）の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」、芦屋東小学校区は「観光地（※）の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」が最も高くなっています。

性別でみると、男性は「観光地（※）の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」、女性は「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」が最も高くなっています。

年齢別でみると、20歳代から40歳代は「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」が、50歳代以上は「観光地（※）の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」が最も高くなっています。

単位：％

	実の花火大会や砂像展など	洞とすやる海観水浴場の整備	自然環境の保持	観光地（※）の活用や	観光情報やPRイベントなど	特産品やグルメの開発	観光に携わる人材の育成	観光ルートマップなど	その他	無回答
全体 (N=676)	59.6	47.2	61.1	41.3	39.1	29.7	27.7	4.0	4.6	
小学校区別	芦屋小学校区 (N=208)	59.1	48.1	59.6	45.2	38.0	32.2	24.5	6.3	5.8
	芦屋東小学校区 (N=176)	60.2	44.9	60.2	32.4	43.8	30.7	28.4	4.0	3.4
	山鹿小学校区 (N=280)	59.6	47.9	62.9	44.6	37.1	27.1	30.0	2.5	4.6
性別	男性 (N=287)	58.9	49.5	62.4	41.1	41.8	32.1	29.3	4.9	3.1
	女性 (N=384)	60.4	45.6	60.2	41.9	37.2	27.3	26.8	3.4	5.7
年齢別	20歳代 (N=72)	76.4	52.8	62.5	47.2	33.3	20.8	29.2	9.7	2.8
	30歳代 (N=83)	77.1	51.8	71.1	44.6	49.4	25.3	22.9	2.4	1.2
	40歳代 (N=87)	62.1	47.1	54.0	41.4	37.9	31.0	24.1	3.4	0.0
	50歳代 (N=104)	50.0	51.0	65.4	43.3	37.5	30.8	30.8	4.8	4.8
	60歳代 (N=156)	55.1	42.3	63.5	39.7	39.7	32.1	28.2	2.6	5.1
	70歳以上 (N=167)	52.7	44.9	53.9	37.7	38.9	31.7	29.9	3.6	9.0

(※) 夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など

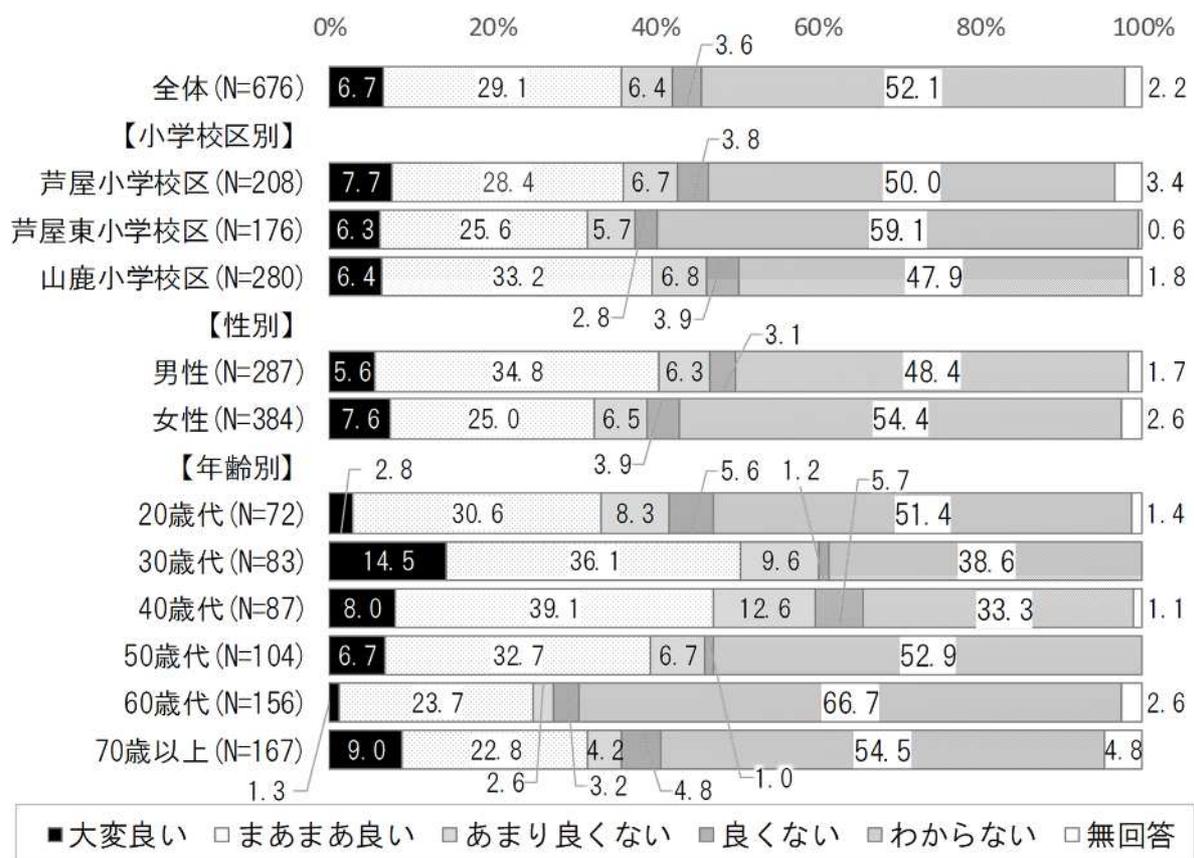
◆教育について

問 16 町の小中学校の教育についてどう評価しますか。(1つに〇)

町の小中学校の教育に対する評価についてみると、「大変良い」が6.7%、「まあまあ良い」が29.1%で合計35.8%が『良い』と回答しています。一方、「あまり良くない」が6.4%、「良くない」が3.6%と合わせて9.9%が『良くない』と回答しています。また、52.1%が「わからない」と回答しています。

小学校区別でみると、山鹿小学校区は『良い』の割合が39.6%と他と比較してやや高く、性別でみると、男性は女性より『良い』の割合が高く40.4%となっています。

年齢別でみると、30歳代は『良い』の割合が50.6%と他と比較して高くなっています。



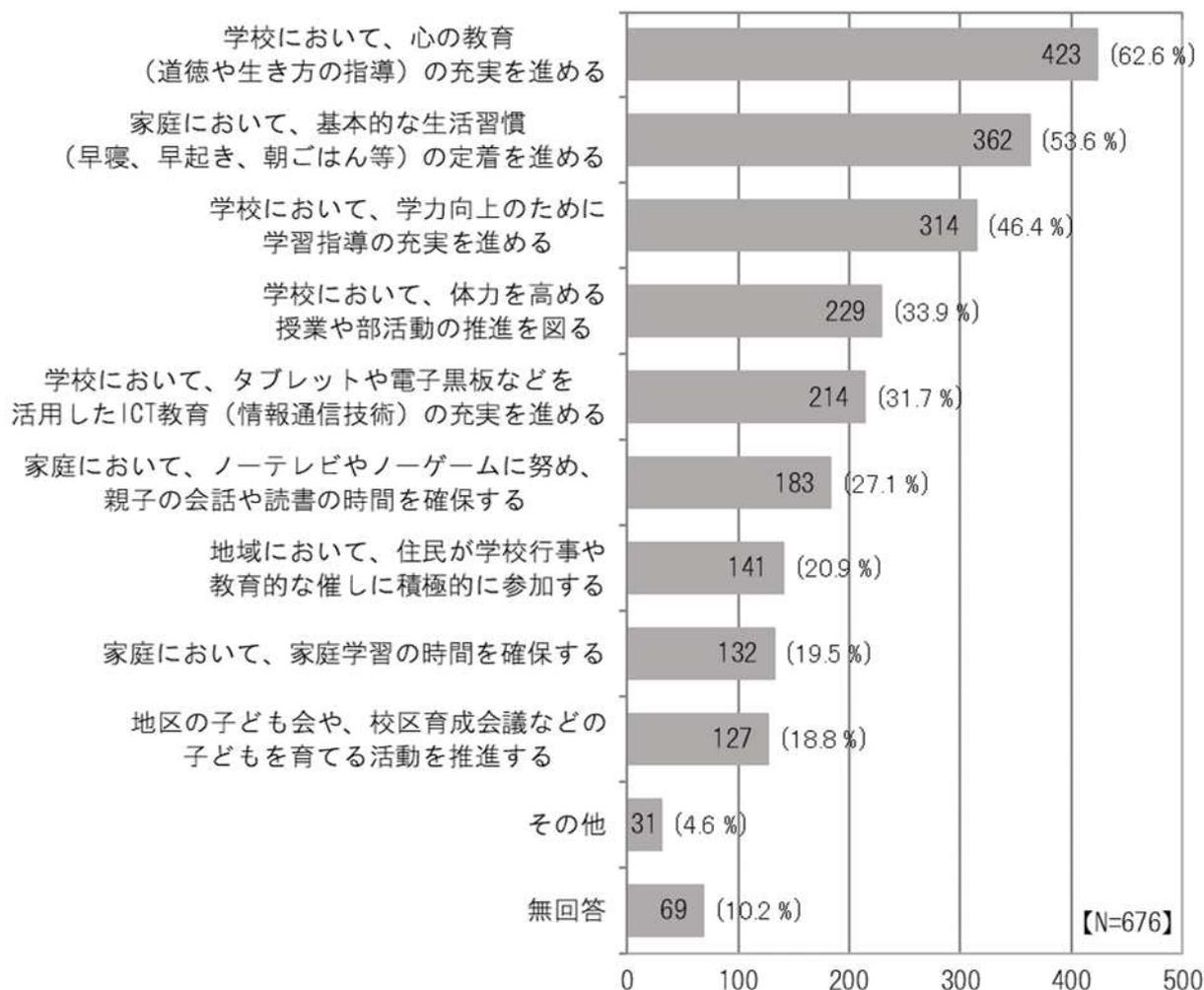
過年度で比較すると、『良くない』の割合は、減少し続けています。「わからない」は3ポイント以上増加し続けていますが、「あまり良くない」はH26調査より3ポイント以上減少しています。

■過年度比較 (前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒)

	大変良い	まあまあ良い	あまり良くない	良くない	わからない	無回答	良い計	良くない計
R1 (N=676)	6.7%	29.1%	6.4%	3.6%	52.1%	2.2%	35.8%	9.9%
H26 (N=900)	6.3%	29.4%	9.8%	4.6%	45.8%	4.1%	35.7%	14.4%
H21 (N=1,049)	6.1%	31.8%	11.1%	5.3%	40.6%	5.1%	37.9%	16.4%

問 17 町の小中学生等に対する教育を向上するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)

小中学生の教育向上のために力を入れることについてみると、「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」が62.6%と最も高く、次いで「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」が53.6%、「学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める」が46.4%となっています。



その他の意見
給食で牛乳(お茶にする。ご飯に合わない)と小麦粉(米粉にする等)を減らしてみる。小麦粉はイライラを起こす原因とも言われるので、減らすことで落ち着いて学習もできる。
小学生の頃からスポーツの推奨で、健全な精神と礼儀作法を身に付け、常識ある大人へと導く(野球やバレーなど)。勝敗で喜び、悔しがる。
芦屋砂像展は小中学生を無償で見学させ、将来的に後継の育成をはかるように推進する。
秋田県東成瀬村の学習法のように、挙手方法や探求型授業などを小中一貫して取り入れていく。
障がい(視覚、聴覚、身体)を持っている人を招いた授業(日常で困っていたら手助けできるから)。
いろんな講演会等が様々開催されるが、保護者の参加がない。ここに焦点を当てないと無駄である。
やる気のある教育で、校長がいればよい。競争(遠賀郡内)。
芦屋は子どもがよく挨拶をするので良いと思う。これからも続けてほしい。
以前に比べて子ども達が挨拶をしなくなった。指導してほしい。
いじめ問題について話し合う場を設ける。大人自身も勉強する場を設ける。
昔ながらの型にはまりすぎず、いろいろな意見を聞いたり取り入れるべき。
学校において音楽で癒されて、楽しめる時間をつくってほしい。

その他の意見
地域住民で子どもを守るために、地域と学校との情報共有。
「ノーテレビ、ノーゲーム」という古い考えをなくすこと。
いじめ等を減らす。
お金についての学習。
スポーツ活動に参加し、心身を鍛える。
スマホの勉強、扱い方をしっかり教えた方がいい。
ノースマホ。
マスコミの嘘を教えない。日本の正史を教える。
まず教員の質の向上が必要だと思う。
みんなで考える必要があると思う。
家庭にてしつけを徹底させる。
外国との交流等。
学校と家庭の連携。
交通のマナーを教える。
自転車等の運転ルール、マナーの教育。
質のいい先生の採用。
集団登校の実施。
大人がもっと勉強すべき。
礼儀、言葉使い、生活態度を厳しく指導する。

過年度で比較すると、「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」はH26 調査より3ポイント以上減少しています。

■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	R1 (N=676)	H26 (N=900)	H21 (N=1,049)
学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める	62.6%	67.4%	70.1%
家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める	53.6%	56.6%	63.1%
学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める	46.4%	46.1%	47.3%
学校において、体力を高める授業や部活動の推進を図る	33.9%	36.1%	40.0%
学校において、タブレットや電子黒板などを活用したICT教育（情報通信技術）の充実を進める	31.7%	—	—
家庭において、ノーテレビやノーゲームに努め、親子の会話や読書の時間を確保する	27.1%	28.9%	34.9%
地域において、住民が学校行事や教育的な催しに積極的に参加する	20.9%	21.8%	26.7%
家庭において、家庭学習の時間を確保する	19.5%	22.1%	22.2%
地区の子ども会や、校区育成会議などの子どもを育てる活動を推進する	18.8%	—	—
その他	4.6%	8.1%	5.8%
無回答	10.2%	6.9%	7.1%

小学校区別、性別でみると、「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」が最も高く、次いで「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」となっています。

年齢別でみると、いずれの年齢においても「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」の割合が最も高く、次いで20歳代、40歳代は「学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める」、30歳代では「学校において、体力を高める授業や部活動の推進を図る」、50歳代以上は「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」の割合が高くなっています。

単位：％

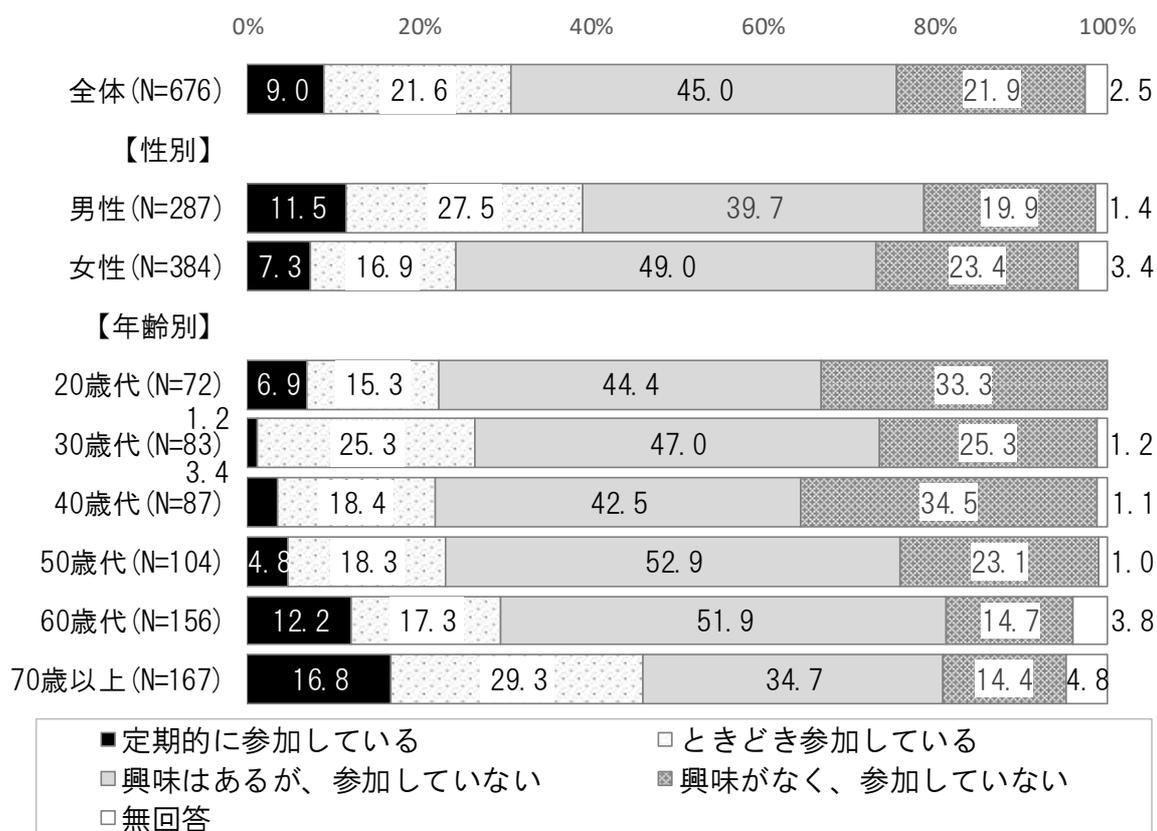
	学校指導において、学力向上のために	学校生活（心の教育）の充実を進める	学校活動の推進を図る	学校に活用したICTや電子黒板など（情報技術）の充実を進める	家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める	家庭において、家庭学習の時間を確保する	ゲームに努めて、親子の会話や読書の時間を確保する	地域において、住民が積極的に参加する	子どもの会や、校区育成会などの子どもを育てる	その他	無回答	
全体 (N=676)	46.4	62.6	33.9	31.7	53.6	19.5	27.1	20.9	18.8	4.6	10.2	
小学校区別	芦屋小学校区 (N=208)	43.8	62.0	32.2	36.5	53.4	20.7	31.3	21.2	19.2	6.3	12.0
	芦屋東小学校区 (N=176)	46.0	65.9	33.5	26.7	54.0	17.6	23.9	19.9	16.5	3.4	9.1
	山鹿小学校区 (N=280)	50.7	61.4	36.4	31.8	53.9	20.0	26.4	21.8	20.0	4.3	8.9
性別	男性 (N=287)	44.6	63.1	37.3	37.3	55.1	19.2	26.1	23.0	20.9	6.3	9.1
	女性 (N=384)	48.2	62.2	31.8	27.6	52.3	19.8	28.1	19.3	17.2	3.4	10.9
年齢別	20歳代 (N=72)	47.2	63.9	34.7	30.6	38.9	18.1	20.8	27.8	15.3	6.9	0.0
	30歳代 (N=83)	48.2	66.3	50.6	32.5	44.6	22.9	25.3	20.5	19.3	8.4	3.6
	40歳代 (N=87)	58.6	64.4	36.8	34.5	50.6	17.2	23.0	16.1	12.6	4.6	6.9
	50歳代 (N=104)	48.1	63.5	26.0	27.9	59.6	20.2	26.9	21.2	18.3	5.8	3.8
	60歳代 (N=156)	39.7	65.4	32.1	33.3	63.5	21.8	32.7	18.6	19.9	2.6	14.1
	70歳以上 (N=167)	45.5	56.3	31.7	31.7	53.9	18.0	28.7	22.8	23.4	3.0	19.2

◆協働のまちづくりについて

問 18 ボランティア活動に参加していますか。(1つに〇)

ボランティア活動への参加状況についてみると、「定期的に参加している」が9.0%、「ときどき参加している」が21.6%と合わせて30.6%が『参加している』と回答しています。一方、「興味はあるが、参加していない」が45.0%、「興味がなく、参加していない」が21.9%と合わせて66.9%が『参加していない』と回答しており、『参加している』を大きく上回っています。

性別でみると、男性は女性と比較して『参加している』の割合が高く、年齢別でみると、70歳以上は『参加している』の割合が高くなっています。



過年度で比較すると、『参加している』割合は、減少し続けています。「興味がなく、参加していない」はH26調査より3ポイント以上増加し、「興味はあるが、参加していない」は3ポイント以上減少しています。

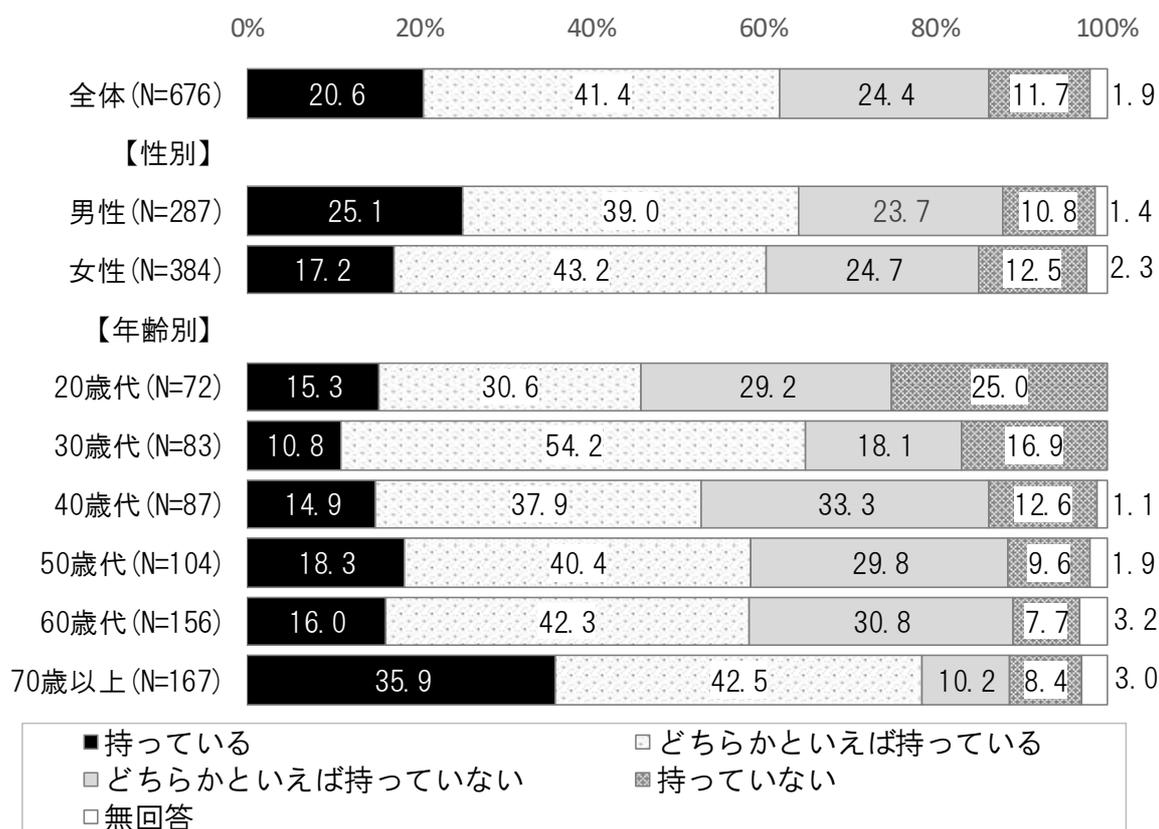
■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	定期的に参加している	ときどき参加している	興味はあるが、参加していない	興味がなく、参加していない	無回答	参加している計	参加していない計
R1 (N=676)	9.0%	21.6%	45.0%	21.9%	2.5%	30.6%	66.9%
H26 (N=900)	10.0%	23.7%	48.9%	13.7%	3.8%	33.7%	62.6%
H21 (N=1,049)	10.3%	24.8%	48.1%	13.2%	3.6%	35.1%	61.3%

問 19 町の計画や取り組みについて関心を持っていますか。(1つに〇)

町の計画や取り組みに対する関心についてみると、「持っている」が20.6%、「どちらかといえば持っている」が41.4%と合わせて62.0%が『持っている』と回答しています。

性別でみると、男性は女性と比較して「持っている」の割合が高く、年齢別でみると、70歳以上は「持っている」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。



過年度で比較すると、『持っている』割合は、減少し続けています。「持っていない」はH26調査より3ポイント以上増加し、「持っている」は3ポイント以上減少しています。

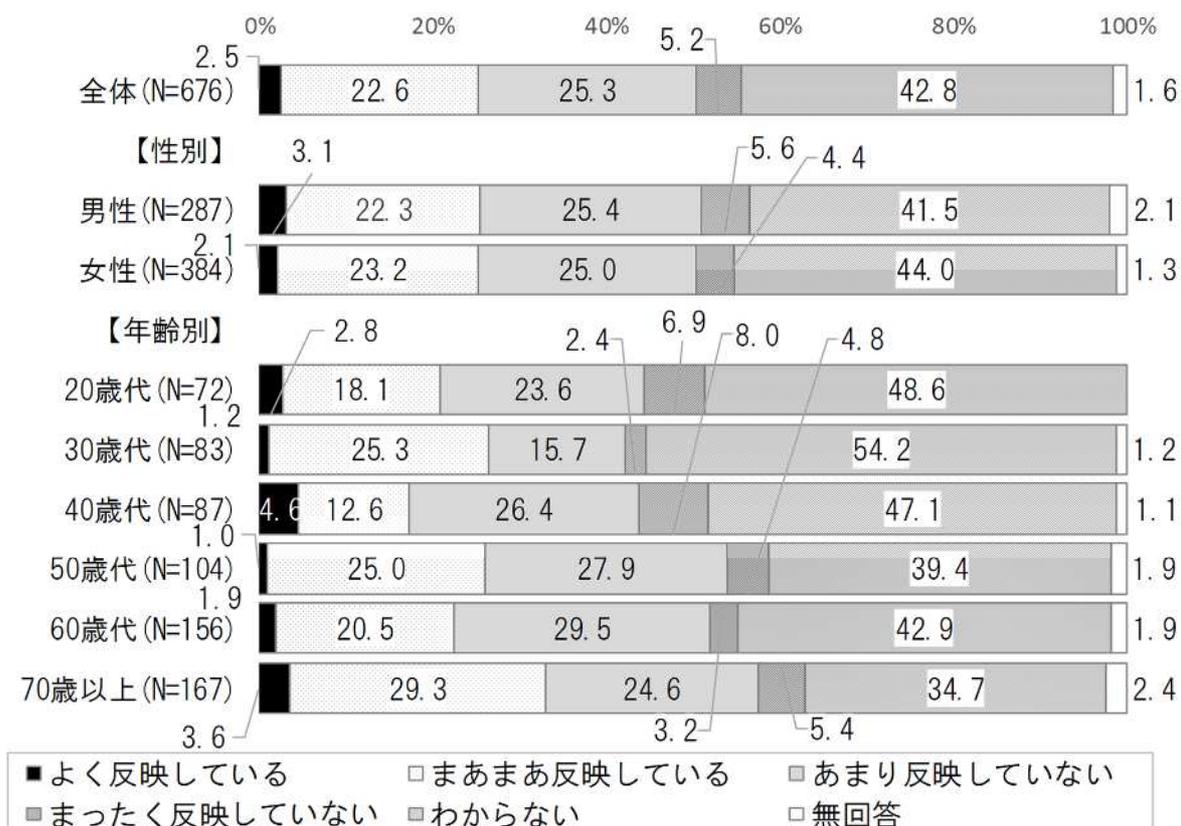
■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	持っている	どちらかとい えば持っ ている	どちらかとい えば持っ ていない	持っ て い ない	無回答	持っ て い る 計	持っ て い ない 計
R1 (N=676)	20.6%	41.4%	24.4%	11.7%	1.9%	62.0%	36.1%
H26 (N=900)	24.8%	42.2%	23.1%	6.4%	3.4%	67.0%	29.5%
H21 (N=1,049)	27.6%	39.9%	23.7%	4.9%	3.8%	67.5%	28.6%

問 20 町は、住民の意見をまちづくりに反映していると思いますか。(1つに〇)

まちづくりへの住民意見の反映についてみると、「よく反映している」が2.5%、「まあまあ反映している」が22.6%と合わせて25.1%が『反映している』と回答しています。

年齢別でみると、70歳以上は『反映している』の割合が、他と比較してやや高くなっています。一方、40歳代では「あまり反映していない」と「まったく反映していない」を合わせた『反映していない』が34.5%と他と比較して高くなっています。



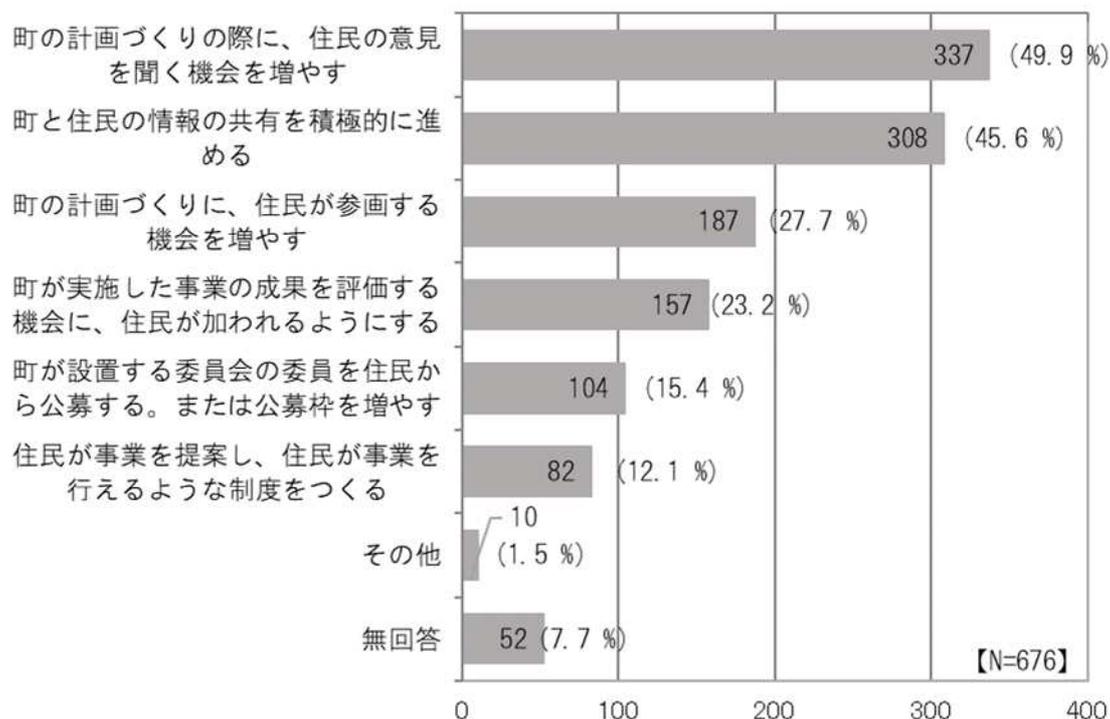
過年度で比較すると、『反映している』割合は、減少し続けています。「わからない」はH26調査より3ポイント以上増加し、「あまり反映していない」「まったく反映していない」は3ポイント以上減少しています。

■過年度比較（前回比3ポイント以上増加：グレー、3ポイント以上減少：黒）

	よく反映している	まあまあ反映している	あまり反映していない	まったく反映していない	わからない	無回答	反映している計	反映していない計
R1 (N=676)	2.5%	22.6%	25.3%	5.2%	42.8%	1.6%	25.1%	30.5%
H26 (N=900)	1.9%	24.6%	28.9%	9.9%	31.3%	3.4%	26.5%	38.8%
H21 (N=1,049)	2.1%	25.5%	31.2%	6.9%	31.2%	3.1%	27.6%	38.1%

問 21 住民の意見をもっと反映するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)

住民の意見を反映するために力を入れることについてみると、「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」が 49.9%と最も高く、次いで「町と住民の情報の共有を積極的に進める」が 45.6%、「町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす」が 27.7%となっています。



その他の意見
IT を用いたアンケート。
意見箱の設置。
議員、議会の質の向上。
若い子育て世代に寄り添い、様々な支援を実行する。
住民の意見を聞くための機会を設ける(アンケート)。
町議会の質の向上。
町長をはじめ、役場の人達皆が住民目線で事業に取り組むこと。
同じ人がいろんな委員会に関わっているのはいかがなものか。
幅広い対象から、アンケートでも良いので意見を聞くこと。
夜間の開催(若者への耳)。

過年度で比較すると、「町と住民の情報の共有を積極的に進める」はH26 調査より 3 ポイント以上増加し、「町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加わるようにする」は 3 ポイント以上減少しています。

■過年度比較（前回比 3 ポイント以上増加：グレー、3 ポイント以上減少：黒）

	R1 (N=676)	H26 (N=900)	H21 (N=1,049)
町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす	49.9%	50.2%	58.2%
町と住民の情報の共有を積極的に進める	45.6%	37.0%	—
町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす	27.7%	27.7%	30.5%
町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加わるようにする	23.2%	27.4%	34.1%
町が設置する委員会の委員を住民から公募する。または公募枠を増やす	15.4%	15.6%	17.2%
住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる	12.1%	14.4%	15.4%
その他	1.5%	4.3%	2.2%
無回答	7.7%	8.0%	8.0%

小学校区別でみると、山鹿小学校区は「町と住民の情報の共有を積極的に進める」、それ以外の校区は「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」が、最も高くなっています。

性別でみると、どちらも「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」が最も高く、次いで「町と住民の情報の共有を積極的に進める」となっています。

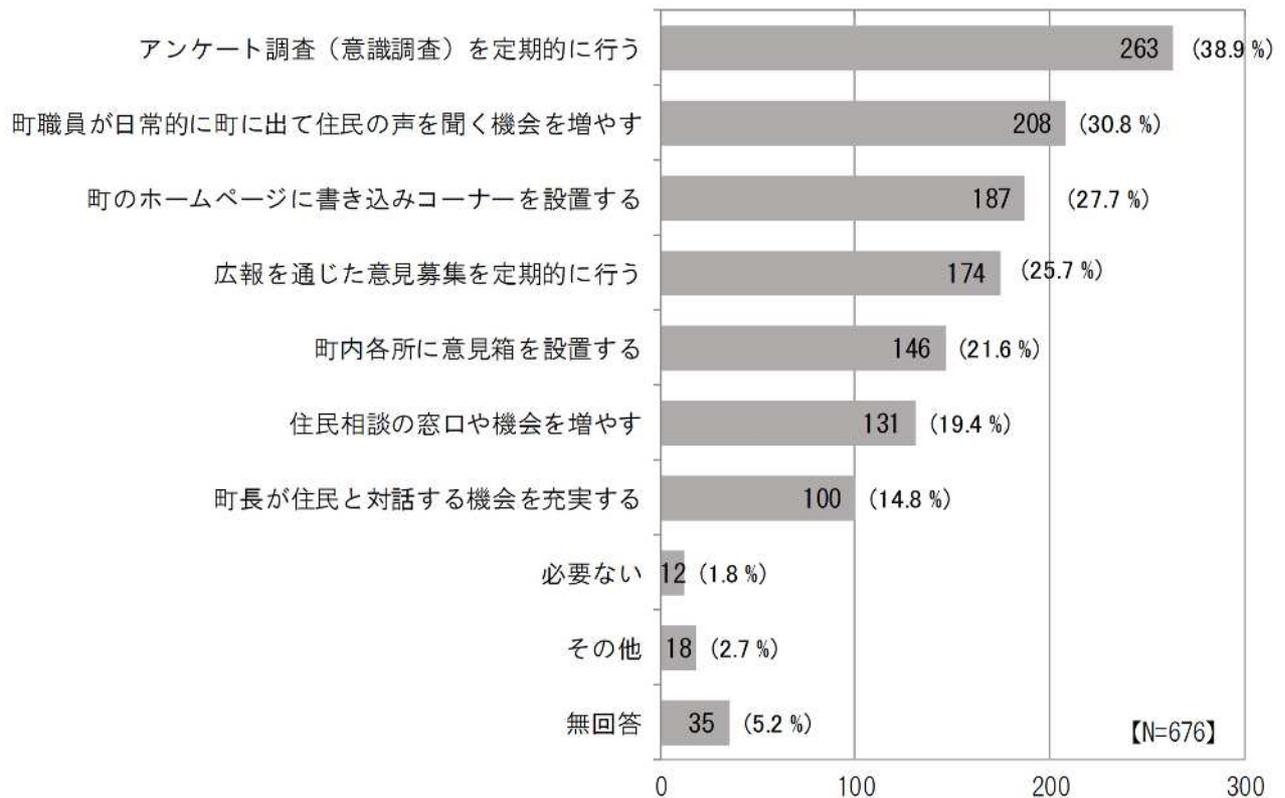
年齢別でみると、30歳代、40歳代は「町と住民の情報の共有を積極的に進める」、それ以外は「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」が最も高くなっています。

単位：％

		町と住民の情報の共有を積極的に進める	町の計画づくりの際に、住民が参画する機会を増やす	町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす	町が設置する委員会や公募する委員を増やす	町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加わるよう評価する	住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる	その他	無回答
全体 (N=676)		45.6	27.7	49.9	15.4	23.2	12.1	1.5	7.7
小学校区別	芦屋小学校区 (N=208)	42.3	26.4	55.3	17.8	22.1	15.4	1.0	6.7
	芦屋東小学校区 (N=176)	46.0	28.4	51.1	13.1	22.2	9.1	1.7	9.1
	山鹿小学校区 (N=280)	48.6	27.1	46.4	15.7	24.6	11.4	1.8	6.8
性別	男性 (N=287)	48.1	24.7	53.7	13.6	23.3	13.6	2.4	7.7
	女性 (N=384)	44.3	29.4	47.1	16.9	23.2	10.9	0.8	7.6
年齢別	20歳代 (N=72)	48.6	40.3	55.6	18.1	18.1	11.1	2.8	0.0
	30歳代 (N=83)	63.9	27.7	49.4	12.0	15.7	14.5	2.4	1.2
	40歳代 (N=87)	47.1	27.6	43.7	18.4	24.1	17.2	2.3	5.7
	50歳代 (N=104)	43.3	28.8	51.0	13.5	26.9	14.4	2.9	3.8
	60歳代 (N=156)	42.3	21.2	51.3	14.7	27.6	9.6	0.6	12.2
	70歳以上 (N=167)	39.5	25.7	50.3	15.6	23.4	10.2	0.0	13.2

問 22 まちづくりを行う際、住民の意見を集めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

住民の意見を集めるために力を入れるべきことについてみると、「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」が 38.9%と最も高く、次いで「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」が 30.8%、「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」が 27.7%となっています。



その他の意見	
アンケートでは何にも発展等がないと思う。他の町等の取り組みをもっと取り入れてほしい。守りの姿勢だけでことを進めず、新しいものに目を向けてほしい。身内だけが楽しければ良いと考えていては、何も変わらない。	
財政面もあるが、住民の意見を実際に実行しても良いと思う。	
仕事をしている人の意見を反映するには、休日に町長や執行部、町議が出張して住民の声を直接聞く必要がある。	
町民がよく集まりそうな所へ町職員が1人の町民として足を運び、間接的に町民同士の話に耳を傾ける。	
町民参加の会議等に議員も参加する。町の計画をわかりやすくYouTube等で配信する。	
自治区の区長に、区民が要望を積極的に言える機会を増やす。	
小中学校のPTAとの連携を強化し、若い世代の意見を集約する。	
町職員に相談しやすい環境づくり(やわらかい言動を心掛けるなど)。	
無記名での意見の収集。行政によるできないという決めつけをやめる。	
SNSでも声を聞く。	情報公開をしてほしい。
紙媒体ではなく、SNS上でのアンケートの実施。	必ず意見を出せるような環境をつくる。
若い世代の意見を聞く場を設ける。	無記名の意見も取り入れる姿勢。
住民の代表として適した人材の確保。	役場の部署にきちんと知識を持っている人間を置く。
商店街の活性化。	

過年度で比較すると、「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」「広報を通じた意見募集を定期的に行う」は H26 調査より 3 ポイント以上増加し、「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」は 3 ポイント以上減少しています。

■過年度比較（前回比 3 ポイント以上増加：グレー、3 ポイント以上減少：黒）

	R1 (N=676)	H26 (N=900)	H21 (N=1,049)
アンケート調査（意識調査）を定期的に行う	38.9%	34.7%	37.5%
町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす	30.8%	36.3%	32.6%
町のホームページに書き込みコーナーを設置する	27.7%	20.0%	18.2%
広報を通じた意見募集を定期的に行う	25.7%	21.7%	23.7%
町内各所に意見箱を設置する	21.6%	21.1%	20.6%
住民相談の窓口や機会を増やす	19.4%	21.6%	19.9%
町長が住民と対話する機会を充実する	14.8%	17.3%	15.9%
必要ない	1.8%	1.0%	0.8%
その他	2.7%	3.6%	1.4%
無回答	5.2%	6.2%	6.2%

小学校区別、性別、年齢別すべてにおいて「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」が最も高くなっています。

次いで小学校区別でみると、芦屋小学校区、芦屋東小学校区は「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」、山鹿小学校区は「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」が高くなっています。

次いで性別でみると、男性は「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」、女性は「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」が高くなっています。

次いで年齢別でみると、20歳代から50歳代は「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」、60歳代は「広報を通じた意見募集を定期的に行う」、70歳以上は「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」が高くなっています。

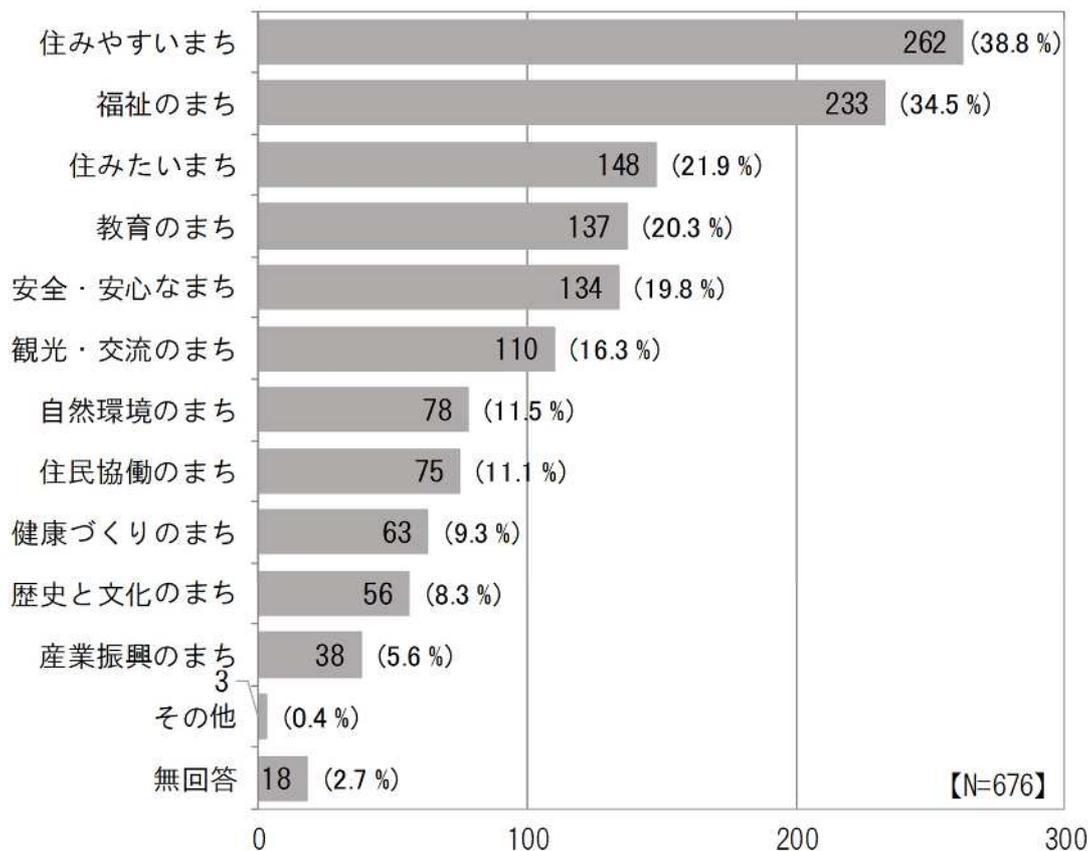
単位：%

		をアンケート 定期的に行 う調査（意 識調査）	的広報を通 じた意見募 集を定期	町のホーム ページに書 き込み	町内各所に 意見箱を設 置する	住民相談の 窓口や機会 を増やす	町長が住民 と対話する 機会を	町の職員が 日常的に町 に出て住	必要ない	その他	無回答
全体 (N=676)		38.9	25.7	27.7	21.6	19.4	14.8	30.8	1.8	2.7	5.2
小学校区別	芦屋小学校区 (N=208)	37.5	21.6	27.9	20.7	21.2	17.3	36.5	2.9	3.8	3.4
	芦屋東小学校区 (N=176)	34.7	27.8	27.3	22.7	18.2	13.6	30.1	1.7	2.8	6.3
	山鹿小学校区 (N=280)	43.6	27.5	27.9	21.4	19.3	13.9	27.5	0.7	1.8	5.4
性別	男性 (N=287)	42.5	24.4	27.2	18.8	17.8	17.8	34.5	1.0	3.5	5.2
	女性 (N=384)	36.5	26.8	28.1	23.7	20.8	12.5	28.1	2.3	2.1	4.9
年齢別	20歳代 (N=72)	47.2	19.4	43.1	18.1	15.3	20.8	25.0	2.8	8.3	0.0
	30歳代 (N=83)	41.0	25.3	38.6	22.9	15.7	13.3	31.3	1.2	1.2	1.2
	40歳代 (N=87)	36.8	25.3	34.5	21.8	17.2	16.1	31.0	1.1	2.3	4.6
	50歳代 (N=104)	41.3	30.8	35.6	17.3	19.2	8.7	27.9	1.9	4.8	3.8
	60歳代 (N=156)	34.0	32.1	21.2	23.1	23.7	14.1	30.1	0.6	1.3	5.1
	70歳以上 (N=167)	38.3	21.0	13.8	22.2	21.0	16.8	36.5	3.0	1.2	10.2

5. 第6次芦屋町総合振興計画策定について

問 23 芦屋町が今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことはどれだと思いますか。(複数回答)

今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことについてみると、「住みやすいまち」が 38.8%と最も高く、次いで「福祉のまち」が 34.5%、「住みたいまち」が 21.9%となっています。



その他の意見
芦屋町の県議会議員が県とのパイプをつくり、県から金を持ってくる。
企業誘致・人口増。
子育て支援、子育てをしやすい町にすることで定住を促進する。

小学校区別でみると、芦屋小学校区、山鹿小学校区は「住みやすいまち」、芦屋東小学校区は「福祉のまち」が、最も高くなっています。

性別でみると、男性は「福祉のまち」、女性は「住みやすいまち」が最も高くなっています。

年齢別でみると、20歳代、40歳代は「住みやすいまち」、30歳代は「教育のまち」、50歳代、70歳以上は「福祉のまち」が60歳代は「福祉のまち」「住みやすいまち」が最も高くなっています。

単位：％

		住民協働のまち	安全・安心なまち	教育のまち	福祉のまち	健康づくりのまち	産業振興のまち	観光・交流のまち	歴史と文化のまち	自然環境のまち	住みやすいまち	住みたいまち	その他	無回答
全体 (N=676)		11.1	19.8	20.3	34.5	9.3	5.6	16.3	8.3	11.5	38.8	21.9	0.4	2.7
小学校区別	芦屋小学校区 (N=208)	9.1	17.8	15.4	38.9	6.7	6.3	15.4	8.7	10.1	46.6	18.3	0.5	2.9
	芦屋東小学校区 (N=176)	11.9	21.0	24.4	34.1	9.7	6.3	17.0	5.1	10.8	30.1	29.0	0.6	1.7
	山鹿小学校区 (N=280)	11.8	20.7	21.4	30.0	10.4	5.0	16.8	9.6	12.9	39.6	19.6	0.4	3.2
性別	男性 (N=287)	12.5	20.9	17.1	37.6	9.1	5.6	15.7	10.5	13.9	35.5	22.6	0.7	1.7
	女性 (N=384)	10.2	19.0	22.9	31.3	9.6	5.7	16.9	6.5	9.6	41.4	21.6	0.3	3.4
年齢別	20歳代 (N=72)	5.6	20.8	26.4	27.8	6.9	1.4	19.4	8.3	9.7	41.7	27.8	0.0	1.4
	30歳代 (N=83)	6.0	21.7	51.8	14.5	4.8	7.2	19.3	13.3	6.0	30.1	25.3	1.2	1.2
	40歳代 (N=87)	2.3	18.4	23.0	28.7	8.0	4.6	21.8	13.8	9.2	43.7	18.4	0.0	1.1
	50歳代 (N=104)	9.6	20.2	15.4	35.6	8.7	6.7	17.3	6.7	15.4	33.7	28.8	0.0	2.9
	60歳代 (N=156)	13.5	25.6	9.6	38.5	13.5	3.8	12.8	4.5	16.0	38.5	19.9	0.0	1.9
	70歳以上 (N=167)	19.8	14.4	13.8	44.9	10.2	8.4	13.2	7.2	9.6	41.9	17.4	1.2	5.4

問 24 あなたが芦屋町らしさを感じるキーワードについて、3つまでご記入ください。

芦屋町らしさを感じるキーワードについて、最も多いキーワードは、「海（343件）」、次いで「花火大会（193件）」「ボートレース芦屋（89件）」「芦屋釜・芦屋釜の里（74件）」となっています。

キーワード（10件以上のみ）	件数
海	344
花火大会	193
ボートレース芦屋	89
芦屋釜・芦屋釜の里	75
自然	64
航空自衛隊	55
あしや砂像展	54
海産物（魚、イカ、みりん干しなど）	50
海岸・海岸線	28
芦屋基地	26
神社・寺	24
歴史と文化	24
航空祭	21
はまゆう	17
洞山	16
アクアシアン	14
のどか	14
遠賀川	13
夕焼け	12
アウトドア	10
川	10

6. 自由回答

最後に、芦屋町のまちづくりについて、ご意見等ご自由にお書きください。

芦屋町のまちづくりについての意見等について、自由記述（フリーアンサー）形式によって尋ねたところ、次のように回答を得ました。

20 歳代<32 件>
子どもを持つ身としては、芦屋中央病院に夜間救急ができると安心だと思うことがある。
芦屋町を使った街コンなど（20代～40代）を行ってほしい。ムナカタフェス（ライブ）、マリントラス等を使ったディナーショー、のど自慢などを行ってほしい。
お金を持っているから偉いというわけではないということを子どもに教える。
生まれた時から芦屋で、20代になった今も芦屋にいて、たまに中学の時の同級生とも会ったりする。友人達も何だかんだで芦屋が好きで、「交通の便が悪い」などと文句を言ったりするが、地元芦屋町での思い出話をしだすとあっという間に時間が経ってしまう。今は不明だが、幼稚園や小中学校の行事で釜の里に行くなどして芦屋の文化にふれる機会があったり、東・芦屋・山鹿小学校が芦屋中学校で合同合唱会を行うなど、学校同士の交流を行ったことなどがとても印象に残っており、良い取り組みだと今では思う。私が20代になった今、親も年を取り、少しずつ腰痛の訴えなどが増えてきている。どうか子どもにとっても高齢者にとっても、より住みやすい町になりますように。
海の町であり、新鮮な海産物も豊富にあるのでよりPRに力を入れ、町内外から人を集めることが可能であると思う。芦屋町の経済発展が町民の生活に反映すると考えるので、官民協力して芦屋町の魅力をもっと発信してみたいと思う。
役場の人達の対応、接客態度が悪い時が多い。その部所なのにわからず、マニュアル本を見る人もいる。担当の部所のことくらいきちんと学んでほしい。町民が不安になる。
道の整備。芦屋町ではないのかもしれないが、芦屋町に帰ってくる道を安全に通れるように整備してほしい。坂道に街灯もミラーもない。コンクリートもガタガタである。
大学生が芦屋町に対して思っていることがたくさんあると思う。より外部から客や住民を増やしたいと考えるのなら、映画の時のようにもっと若い人材を取り入れたイベント等を企画すべきなのではないかと考える（例、インスタ映え、カフェ（有名店）の配置、時給が高いアルバイトの店など）。
海をいかした写真スポット、ブランコ、親しみやすい店などがあれば良い。
町立病院の薬局をわざわざ1階につくったのはなぜだろうか。病人にとっては大変なことである。今からでも薬局は病院横などに移設してほしい。
いろんな委員は1人が受け持つものではなく、もう少しいろんな人、多くの人に声掛けしてほしい。どの委員会にしても同じ人がいたら、いろんな意見は出ない。
若い人達が都市に移住する時代で、芦屋から若い人がいなくなっていくことで、町の活性化が損なわれてしまうと考えられる。若い人の目を引くような取り組みをしていくべきだと考えられる。
駅をつくってもらえると利便性が高くなり、芦屋町に住む人が増えると思う。頑張してほしい。
治安改善に力を入れるべき。特に緑ヶ丘の町の団地のマナー、ゴミは酷い。アクアシアンや芦屋釜等で町内を利用する時、町外の料金とは別にすべき。これでは使用しない。自衛隊への理解を街全体が勧めるべき。寄付金などの金額などもしっかり公表すべき。芦屋釜資料館に公共料金を使いすぎている。もっと身近な公園や施設、パトロールなどに税金を使うべき。
交通網を駅のない町なりにしっかりとすると、外からの観光客も来られると思う。映画を撮影してPRをするのは良いが、交通が遠いと聖地巡礼などがしにくいとも思われる。頑張れ芦屋町。
子育て中でいろいろなイベントに参加したいが、情報をどこで知ったら良いかわからない。住みやすい町ではあると思う。
頑張してほしい。
交通の便が悪いので、タウンバスの本数を増やしてほしい。コインパーキングをつくってほしい。スーパーを増やしてほしい。保育園に芦屋の人を優先的に入れてほしい。

20 歳代<32 件>続き
最近 LGBT という言葉を聞く。私もその内の 1 人である。FTM で心は男性だが、体は女性である。私が小中学生の頃はまだそういう言葉もあまり認知されていなかったので、授業で取り入れられることもなかった。その時に非常につらい思いをした。いじめまではいかなかったが、不登校気味になった。自ら言えない LGBT の子はいると思うので、その子達への配慮をお願いしたい。制服などもつらいと思う（トイレなども）。
観光に力を入れてほしい。とと市場周辺や海岸沿いなどに旅館やおしゃれなカフェや雑貨屋さん、食べ物屋さんなどをつくってほしい。せっかく海が近いので、そこをいかしてもらいたい。商店街に店を増やしてほしい。
交通の便が悪く、車の免許を所持していないと外出しづらいため改善してほしい。旧中央病院を早急に取り壊し、新たな施設を誘致して町の活性化に努めてほしい。今後ともよろしく願いたい。
ホームページがとても見づらい。デザインが古く、必要な情報が見つげにくい。観光資源は多くあるはずなのに、手入れの不行き届きのため全然いかせていない。
交通の便を良くしてほしい。何もないので、外に行かなければならない。
コミュニティバスは、昼間の時間帯の本数を増やしてほしい。障がい者用（コミュニティバス）の回数券を作してほしい。
偽装離婚が多いので、子どもへの補助などの不正受給かもしれない。職員の皆さんは頑張ってもらいたい。
教育に力を入れることも大事だとは思いますが、高齢者がもっと住みやすい環境になれば良いと思う。近くに店がないのに、交通の便が凄く悪い。
バスの本数を増やしてほしい。終電に乗っても帰宅できるように、終電に合わせたバスがほしい。
イベントが多いような気がするのですが、もう少し絞ってもいいと思う。外から来た人が町の中で買い物や食事をする所がないので、イベントばかりより、そちらを整備する方が先ではないかと思う。
砂像や花火大会などは季節によるものなので、糸島のように年中通して海を利用した観光などができるようになればいいと思う。
小中学生に総合学習の時間を活用して、障がい者に来てもらって勉強する機会があればいいと思う（日常で困っている人を見かけたら助けて、手を差し伸べてあげられるように）。助け合い、支え合いの町になってほしい。介護職の賃金をアップした方がいいと思う。体力がいる割に賃金が安すぎる（凄く体力がいる仕事で、肉体的にも精神的にも大変だから）。地域で夜や朝早くからゴミを燃やしている人がいる。非常に迷惑である。
芦屋町に住むことによって、自分の子どもにメリットがあるかどうか全てである。

30 歳代<37 件>
狩尾神社跡地をもっときれいに整備してほしい。とと市場から鐘の所に観光に行く人（夕日を見に）が増えている。なので、狩尾神社跡地やあの周辺を整備して観光地化すると、もっと観光客が増えると思う。神社跡地がある森にもハイキングコースや散策コースの看板を立てたり、もう少し人が入れるような整備をすると必ず観光の人が増えると思う。
自治会に加入していないため、少しコミュニケーションが不足している。加入方法の案内をしてもらいたい。
夏の間、海浜公園やアクアシアムへ行くのに駐車場代がかかるので、行くのを控えている。町民は無料にしてほしい。あしや広報に夏井ヶ浜、はまゆう公園への行き方を詳しく載せてほしい。行き方がわからず、一度も行ったことがなくて残念である。芦屋町の良い所をもっと PR してほしい。悪いイメージがまだある。
城山公園を昔のように整備して、お花見や子どもを遊ばせる等ができると嬉しい。釜ろんやひょうたん型のチョコ等、手土産にしたいおしゃれな地元らしいお菓子が増えてきて嬉しい。いろいろなイベントもあるので、他地域の友人も遊びに来てくれることもあり、いい地域だと思う。
のんびりとした雰囲気がとても好きである。あまり現代化しすぎない方が芦屋町らしいと思う。そこは守っていききたい。

30 歳代<37 件>続き

スーパーはまゆうの値段が高い。浜口公民館で夜 9 時をすぎてもカラオケをしていて、音がうるさい。道路側の伸びている雑草で車が来ているか見にくいので、早めに草刈りをお願いしたい。

子ども達が食べられる子ども食堂をつくってほしい。

芦屋町は公共交通機関が少ないので、観光を整備しても車で来てそのまま帰る人が多い（例、夏井ヶ浜公園や海浜公園など）。芦屋町の振興まで考えていくなれば、併設した商業施設や他の観光情報がわかるような PR 等を力を入れて行い、芦屋の内部まで人が来てもらえるような取り組みが必要だと思う。

この町に数年前に引っ越して来た。役場で転入届を出すも、受け入れられたと感じなかった。昔住んでいた所は「ようこそ〇〇市へ」と書かれた紙と共に、その市で使えるゴミ袋やゴミ分別表など、すぐに使える物をくれて受け入れてもらえたと感じたので、もう少し引っ越して来た人にやさしいものを取り入れてほしい。

毎週のように朝からジェットスキーの騒音に悩まされてきたが、最近は少し減ってきた気がする。ジェットスキーに乗るのはいいが、音を小さくしてほしい。町内の店のクーポン等を発行してくれたら、利用しやすくなる。

砂像展やプール等、イベントがあるのは凄く素敵なことだが、町内・町外で利用料金、入場料等が全て同じだったりすることがあるので、少し町民に得があるといいと思った。

映画製作は新しい試みで、とても良かった。映画も凄くおもしろかった。公開後、たくさんの方が訪れたらいい。また新たなワクワクするような試みを期待する。

子どもが安心して外で遊べる環境がほしい。不登校、いじめ、小中学生の生活態度の改め。

山鹿地区に公園を作ってほしい。

火事の時に鳴るサイレンがうるさい。昼間ならまだ許せるが深夜になることもあり、本当にうるさい。せめて鳴らす時間を昼間のみにして、30 秒くらいに短くしてほしい。緊急避難場所を高い所に変えた方がいいと思う。大雨や津波の時は逆に危ないと思う。

高齢化が進んでいるにも関わらず、子どもの対策に力を入れすぎ。

住民の意見を聞くための町長への手紙があるが、いきなりトップへ自分の思っていることを伝えるのはちょっと敷居が高い。芦屋町へ思うところはいろいろあるが、いきなり町長ではなく、役場への手紙等、ハードルを下げてもらえれば出しやすい。理不尽なお願いや個人のお願いではなく、自治区への考え方等で悩んでいるので、どうぞ検討してほしい。

芦屋でのイベントはたくさんあるが、芦屋の特産品などがもっとたくさんできたら芦屋に来る人も増えると思う。それと、高齢者の人達のためにも安いスーパーなどができたら助かると思う。車の免許がないと住みにくい町だと思う。

遠賀 4 町の中で発展の遅れを感じるが、イベント等で巻き返してほしい。花火大会の規模の拡大をお願いしたい。

交通の便が良くないので、高校以上になると毎日の通学、通勤が凄く不便になると思う。子育ては中学までで終了ではない。その後が大変になるのは目に見えているので、その先のことも何かいいところがないと定住は厳しいと思う。中学までは本当に手厚く、感謝している。

老人ホームやデイサービスが多いので、高齢者や足の不自由な人でも気軽に行ける所（景色がいい、買い物できる等、外出レクリエーション的なもの）を作ってほしい（車をすぐそばにつけられる。トイレが広い等）。キャンプ場を作ってほしい。

催しに参加する余裕がないそうだが、イベントや祭りの応援している。

芦屋町は花火大会、プール（アクアシアン）、航空祭など 1 年を通していろいろなイベントがあり、たくさんの方が集まる観光源があると思う。イベントを増やすことも大切だが、1 つ 1 つのイベントをより充実させ、より多くの人に芦屋町に来てもらい、住みたいと思えるまちづくりがより重要になる気がする。

街の活性化のために、観光事業に力を入れてほしい。海などの自然が近くにあるのに活かしていない。福間海岸のように、海の家などを整備してみるのはいかがでしょうか。

黒崎までの特急バスがなくなったのが残念である。ペットボトルのゴミの回収もしてほしい（月 1 回でもいいので）。

職員の動員ボランティアを前提としたイベント運営は間違っている。支払うべきコストは負担すべき。無理な住民参画は不要。住民の大半は積極的に参加することを望んでいない（日常が忙しいため）。砂浜のトラクター等、機械による清掃、松林の下草刈りなどを行い、美観の向上をはかってもらいたい。

30 歳代<37 件>続き
大きなディスカウントストアもなく、駅もない。隣の水巻町はかなり充実している。イベントも水巻町に劣っている気がする。
毎年、夏にアクアシアンへ行く車の渋滞を見る。車線を増やすなどは難しいと思うが、どうにかできないのかと思う。アクアシアンもロッカーのお金が返金されたり、中の売店の価格が安いと購買意欲を刺激するし、リピーターも増えるのではないかと思う（田川の市民プールが有名である）。交通の便が悪いので、車で来やすい環境にしてほしい（駐車場の確保等）。
教育環境（学びあいルーム、ICT 活用等）が良く、子どもが楽しめる公園、プールがあり、子育てしやすい町だと感じる。もう少し人口が増え、店等も増え、町が活性化すると良いと思う。
「芦屋といたらこれ」と誰にでもわかるものを、何か1つでも作ったらいいと思う。
住んでいる地域は交通の便（バス）が不便だと思う。町内循環するバスがあればいいと思う（高齢者向けだけのバスでなく、若い世代向けのバス）。車が通行できる細い道に電灯がなく、夜歩く時に暗くて危ないと感じる。中央公園や海浜公園はきれいだと思うが、小さな公園はもう少し整備されていたら良いと思う。
子どもの健診時に待ち時間が長く、受付時間を設定する等の対策を取ってほしいと前回も書いたが、久々に行ったらやはり待ち時間が長かった。毎回気が滅入る。就学時健診も、学校ごとに受付時間を分けるなどできないのか。赤ちゃん健診も受付時間は変えてあったが、1時間半くらい間を空けても良いのではないか。発達障害の子など、待ち時間が長いときついのではないかと思った。
マリントラスのサウナ、地下1階のトイレの故障が全く直っていない。
問23の10に記載の「住みやすいまち」、11に記載の「住みたいまち」、この2つがとても大切ではないかと思えます。そのためには、人が増える事、子どもが増える事だと思えます。子育て世代が得する町とか、どうですか。子育ての時期だけでも住みたいまちになっては、どうですか。
北九州市からの水道ではなく、遠賀郡は1つにして安くして下さい。水道代、高すぎます（芦屋は高いと聞きました。同じ遠賀郡で岡垣と違うのは、なぜ？納得できない）。インフルエンザの予防接種。子どもは無料にするか、1回、1,000円にして下さい。2回も打つのに1回分が高すぎ。他の地区はすでに実行しています。しかもだいぶん前からです。安くしたり無料にすることで子どもの命が救えます。合併症、脳症も軽減できます。学級閉鎖も防げます。貧困な家庭ほど補助が必要です。子どもたちの命を守る町にして下さい。
芦屋は少子高齢化しているため、もっと子育て世代を取り入れるべく力を入れてほしい。出産祝金はもちろん、医療費（子どもの時）も無料なので、すごく助かります。しかし、このことがあまり知られていないように感じます。他の市町の人に教えると「芦屋はいい町だね」と言ってくれますよ。
田舎なので夜は暗く感じます。街灯でもう少し明かりがほしいです。
子育てやイベントなど、観光やレジャー、グルメを充実させて人がいっぱい集まるような。パワー集まる町になればいいと思えます。

40 歳代<27 件>
一部（山鹿）の方ばかりに施設が集中している。商店街を元気にしてほしい。
空気がきれいで、自然がいっぱいで、海があり、ゴミが落ちてなくて町がきれいでとてもいい。
芦屋の公共等は、イメージとして縁故関係が拭えない。クリーンなまちづくりを心掛けてほしい。誰もが自由に発言でき、正しい人が追いやられない環境を作ってほしい。
移住、定住支援が甘すぎる。移住してくる人が住み良い場所を作ることがポイント。参考として、岡垣町大規模住宅開発補助と定住補助、若宮市分譲光陵ワンダーガーデンと定住補助等。
まちづくりに必要な財源は、芦屋ボートのナイターレースを行い集客を増やす他はないと思われる。
市営バスは鶴松団地発着が多い。粟屋発着にしてもらえよう働きかけてもらいたい。
「訪れたいまちづくり」「オンリーワンのまちづくり」を目指して、誇れる芦屋町にしていきたい。
住み続けられる町へ変えてほしい。駅までのアクセス改善。移転して、不便極まりない中央病院へのアクセスの改善を願う。町民を苦しめないでほしい。

40 歳代<27 件>続き
町の中で見かける人のほとんどが高齢者で、若い世代を見かけない。もっと町内に大きな事業を行う会社、特に IT 関連の仕事を充実させるべきである。これからの主役である若い世代にもっと力を注いでほしい。
遠賀郡の中で、芦屋が全体的にバランス良く都市開発ができていると思う。これで公共の交通機関が充実し、アクセスが良くなればいいことはないと思う。
結婚して、芦屋町に越して来た。まだ慣れないことばかりだが、とても静かで落ち着く。これからもよろしくお願ひしたい。
自然豊かな町で歴史、伝統文化などを大切にしていきたいと思うし、町外の人がどんどん訪れてくれるような町にしたいと思う。そのためにも町内の公衆トイレを清潔に保ったり、子どもから大人まで礼儀や言葉使い、生活態度をきちんとして、町外の多くの人達から「芦屋って良い町だな。このような町に住みたいな」と思われるようなまちづくりをしていくべきだと思う。
観光に力を入れて、町民も働ける所を増やす。町外から来やすいように交通の便を良くする。そうしないと陸の孤島になってしまう。水巻のイオン跡地に店が多く建つが、芦屋からは車がないと行けない。
芦屋町は海と街並みが美しい町である。町外からたくさんの観光客に訪れてもらいたい。人気の御朱印集めで、友人が遠方から岡湊神社に来ていることを知り、日本書紀や古事記にも記載のある神社が近くにあることを知り、誇りに思った。
何はともあれ交通の便が悪い。車が必要な生活になる。
福津、宗像市民は楽しみにアクシアンに来ている。正門通が寂れているので、チャレンジショップを誘致してほしい。せつかく農産、水産物もあるので、道の駅のような産直ショップをつくってほしい。
芦屋町に 20 年以上住んでいるが、ほとんど芦屋町のことは知らず、最近知ったことが多くある。テレビ等でこんな所があると気づくことが多い。お年寄りの人達が町の清掃や花壇の手入れをしてくれている気がする。若い人がもう少し協力してくれる何かが必要である。
芦屋町を良くするためには、何がストロングポイントなのか。市場として、とと市場なんかは素晴らしいと思うが、芦屋町として応援しているとは思えない。昔からの地元民を優遇するだけなら、芦屋の未来はない。
新たな施設やイベントを始める前に、環境を美しく保つことや住民への影響を考慮してほしい。
アンケートに答えない人、広報を見ない人、ホームページを見ない人、いろいろな「〇〇ない人」に対して細やかな情報発信、対応をすることで、多くの人にいろいろなことを知ってもらうことが大切だと思う。
人口減少が気になる。住みやすい町だと思うのでその良さをたくさんの人が知って、もっと人が増えていく町になったらいいと思う。
このような調査をして、何かに反映されているのだろうか。
洞山を整備してほしい。小中の子どもがいる人への支援をもっとしてほしい。乳児・幼児よりお金がかかる。子どもが 1 人の所より、2 人・3 人と子どもが多いとお金がかかる。生活保護の見直しをしてほしい。若い人でもらっている人は、パチンコに行ったり遊んだりしている人が多い。税金を払っている人、きちんと働いている人がバカを見る。本当に必要な人に出してほしい。
町の行事などに参加する人としらない人が、偏りすぎているような気がする。多分、区への加入・未加入などと同じではないかと思う。そのような問題が解消されれば、もっと楽しい町になると思う。
スーパーはまゆうの所の道路と、緑ヶ丘団地からファミリーマートの所の道路をお年寄りがよく横切って渡っているの、危ないと思う。
マリントラスが地元でせつかくあるのに、入浴代が高くて減多に行けないのがもったいないと思う。他の町では温泉で 200~300 円と安く、行きやすく、人とのふれあひも多い。地元住民が行きやすく、ふれあえる場にしてほしい。たまに行っても人が少ない。
ずっと住み続けていたい大好きな町です。もっとたくさんの人にこの町の良さを知って訪れて欲しいし、住んで欲しいです。子育て支援を充実させて、子どもが小さい時は芦屋に住むのが 1 番など、特化したサービスがあると良いなと思います。

50 歳代<40 件>
歩道の草がとても気になる（ファミマの通り）。まちづくりとは離れるが、私の家の前はゴミ収集場になっている。他の地域の人だと思いが、自分の所ではないからか、プラの日に白のビニール袋にペットボトルを入れて出し、燃えないゴミの日に白のビニールに缶を出している。どうして守れないのか。カメラを設置してほしい（ゴミの場所の近くに）。無理だとは思いますが、「守りましょう」の言葉だけでは大人は守らない。
夏の花火大会、砂像以外でも町外から人が集まる町にしてほしい。芦屋に住みたいと思うような町にしてほしい。
過疎化が進む芦屋町にとって、防犯が大切な時代となっていると思う。詐欺も拡がっているのので、人気の少ない住宅地等への防犯カメラの設置、事件等の情報の共有化等、予算の許す限り努力してもらいたい。
健康のために、毎日ウォーキングをしている。仕事上夜が多いが、たくさんの方がウォーキング、ランニングをしている。芦屋町は街灯が少なすぎる。暗い。もっと街灯を設置してほしい。「芦屋町は夜も明るいまちづくり」はどうだろうか。
メインストリートである正門通りの商店街が暗い（明るさと雰囲気）。通る時に怖い感じがするので、もっと明るくしてほしい（照明等）。道幅を広くしてほしい。
「のらネコにえさをやるな」とよく目にするが、地域猫のような取り組みはできないものだろうか（相島などの）。のらネコも住めない町はとても住みにくいように思う。あの看板を見る度に不人情、冷たいと思う。ネコの住めない町にすればきれいだと思うのだろうか。
団地の空室増加、経営者の変更、老朽化のために早晩出て行かざるを得ないことは事実。その時、町内に代替物件があるとは考えにくいので、町外が検討候補となっている。
移住、転居してきた人達だけでなく、芦屋町にずっと住み続けている人達にも住みやすい芦屋町となれば良い。子育て世帯には有り難い支援が多いが、この子ども達が大きくなっても住み続けたいと思える芦屋町となれば、親としても安心である。
とにかく交通の便が悪すぎる。ボート開催時のマナーが悪すぎる。航空祭の時、外出しても入ってこられない。
人数の少ない自治区では高齢化が進み、自治区の組長等が短い周期でくることに凄く負担を感じる。
日本書紀にも出てくる歴史、神武東征、神功皇后、他の町にはない神話の町をもっとアピールした方が良い。不法駐車について、城山はヨットハーバーと近所の人々の駐車場か。
街灯を増やしてほしい。防災無線が聞こえません。また、車で放送していても早く通過するので、何を言っているのか全くわからない。
交通アクセスを今よりも便利にする。商店街の活性化。人口の増加。家族の移住計画（定住化）。
海がやはり町のシンボル。海を利用しての観光づくりをするべきだと思う。また、高齢化社会になり、高齢者のために中央病院に長期入院ができるような設備の充実。そういう部屋が少なすぎると思う。
今現在は自分で車を運転して病院、買い物等に行くことができるが、「10年後はどうだろうか」と思うことがある。生活面や体力面、不安はいっぱいあるが、その都度役場の窓口や芦屋中央病院などに相談しながら乗り越えていけたら良いと思っている。
芦屋町にはおいしい食べ物や自然豊かな観光地がたくさんあるのに、広く知られていないように感じ、残念に思う。イベントがある時だけでなく、多くの方が訪れ、賑わいのある町になるようにもっとアピールしてほしい。交通ルールを知らない子どもが多い。車を運転していてヒヤッとすることがあるので、幼稚園・小中学校や家庭でも交通ルールを守れるように教えてほしい。税金を無駄遣いせず、有効に使ってほしい。
高齢者が車の免許を返納した後も、買い物、通院等がしやすい、通いやすい環境を整えてほしい。
食べ物もおいしくロケーションも抜群だが、それを集客にいかせていないのが残念である。映画の誘致にも成功し多くの人に芦屋町を知ってもらおうチャンスなので、糸島市などを参考に活気のある元気な町にできれば良いと思う。
ゴミ回収を祝日もしてほしい。プラゴミは毎週回収してほしい。月曜は祝日が多く、第5も来ないので3週間以上来ないことがあって困る。たまるのが嫌で、分別せずに燃えるゴミで出す人が多い。人口減少対策をしっかりやってほしい。大ホールがある施設がほしい（コンサート、演劇など。岡垣や宗像、中間のような）
砂浜を利用して、宗像フェスのようなイベントをやってはどうだろうか。

50 歳代<40 件>続き
車さえあれば買い物にこと欠かず、生活環境にも申し分ない土地柄。しかし、そればかりでは将来性はない。高齢化に向けて、インフラ、アクセス（公的）、医療、福祉（町内の福祉施設に入りやすいなど）、単身世帯でも住み良いまちづくりのモデル都市を目指すべき。他地域より潤っている財源をいかしてほしい。
もう少し町外の人に来てやすいまちづくりを行ってほしい。
私が最近思うことは、城山公園の整備の必要性。昔は桜がきれいで、多くの人が花見を楽しみにしていた。ゴミなどの環境問題もあると思うが、充実した城山公園で多くの人々が花見をする姿をもう一度見たい。
遠賀川での水上スキー及びジェットスキー（水上バイク）がほぼ1日中、数艇で走り回るので非常に音がうるさい。何とかしてほしい。騒音のない静かな町にしてほしい。
働く場所をつくって人口を増やすか、ベッドタウン化して人口を増やすか、人がずっと住んでいられる町を目指してほしい。
アウトドアブームなので、海浜公園にデイキャンプ場を整備してほしいと思う。
スーパーが1つしかないのが良くない。商店が少なく、シャッターが閉まっている所が多すぎる。かじやがあった所がどうにかならないのか気になる（危なそう）。
町外に働きに出ており、地区活動は両親が行っているためあまり関わり合いがない。独身のため芦屋に住んではいるが、当事者感が薄い気がする。どう関われば良いのかよくわからない。また、退職した後のことは多少なりとも気がかりである。
夏井ヶ浜のはまゆう公園やなみかけ遊歩道等、芦屋町には美しい場所があるが知名度が低く、あまり知られていない。積極的にPRしてほしいと思う。
移住、定住する人が増えるにはどうすれば良いか考えてほしい。生活しやすい町、活気のある町になってほしい。商店街やショッピングセンターなど、もっと前向きに考えてほしい。
交通の便を良くしてほしい。学生が登校するのにバスの数が少なすぎて困る。早急な改善をよろしく願いたい。安心・安全なまちづくりについて6年以上前に町長にお願いしたが（外灯がついていない）、まだついていない。子どもが暗くなって帰ってくるので、心配である。よろしく願いたい（花美坂）。
公共交通機関を重要だと考えてほしい。病院はあるが町外に行くことが多いので、そこも重要だと考えてほしい。
漁港があるにも関わらず地元産の魚を買う場所がないので、魚と農産物を買える施設があればいいと思う。
住民がいろいろなことに関われる環境づくりが必要。自然、ボランティア、趣味、スポーツなど町外の人でも参加でき、交流ができる環境がほしい。仕事等をしている人も参加できる時間がほしい。町で買い物ができる、また、町外から買い物のために立ち寄ってもらえるまちづくり。小さな町でも温かい町になってほしい。
町の予算は無駄のない使い方をしてほしい。スーパーはまゆうは、町内の自営業を疲弊させていると思う。
議員の数を減らして、少数精鋭にするべき。その財源で廃止路線を復活させてほしい。市営バスの乗り入れを増やしてほしい。
正門通りの商店街を利用してイベントをする。健康のためにウォーキングをする人が増えているので、自然や歴史を回るウォーキングコースをつくって、ウォーキングイベントをする。
私には子どもがいなく、年老いた母と同居していますが、介護をする年になり将来の不安を感じています。芦屋は、交通の便も悪く、車がないととても不便です。年をとってもここで住みたいと思えるような町であってほしいと思います。
前回も他のアンケートを書いたが、防災無線を各家庭に設置してほしい。火災などがあつた場合、サイレンは鳴るがどこが火災なのか分からない。他の地方自治体を参考にしてほしい。
イオンなど大きなショッピングセンターがあればいい。

60 歳代<46 件>
JR の駅に接続するモノレールか地下鉄か交通が便利になると、病院もあり自然豊かで、水産物も農産物も新鮮な物が手に入る町の人口が増えていくのではないだろうか。
60 年以上住んでいるが、いい町だと思う。
整備されたきれいな町だと思う。高浜に住んでいるが、お盆前に「街灯が消えています」と連絡した。「わかりました。修理します」とのことだが、どうなっているんだろうか。バスの運転手さんは、とても怖い人がいる。
駐車場を確保してほしい（イベントの時）。自治区の活動、防災訓練など、自治区未加入者はどうするのか。自治区未加入者を減らすことを考えなければならないと思うが、加入者の負担が大きい。加入者のメリットが見えない。アンケート調査も、ここ 2~3 年で芦屋に引っ越して来た人に、どうして芦屋に住んだのか逆に意見を聞いてほしい。
せつかくの恵まれた自然環境をもっと活用して、活気ある町にしてほしい。
タウンバスのバス停が遠いので利用できない。防犯カメラがどこにあるかわからない。
正門町辺りに大型 100 円ショップ、ドラッグイレブンのような薬屋などがあったら便利。
町内には古くて誰も住んでいない家屋がたくさんある。私の隣もそうだが、台風等がくるといつもヒヤヒヤしている。早急に撤去する方向に持って行ってもらいたいと思う。ネコに無責任にエサをあげている人がいる。私の庭はフンをされて臭くて仕方なく、思い余って何十万円もかけて庭をコンクリートにして防いだ。人の迷惑を考える住民であってほしいと思う。
芦屋海岸、マリンテラスからの風景（夕日）、夏井ヶ浜、遠賀川など本当にきれいだと思う。糸島に何度も行って思うことは、芦屋と変わらないのになぜ人気があるのか考えてほしい。マリンテラスももったいないと思う。料理、カフェ、特に若い人が行ってみたいと思うような所にしてほしいと思う。
山鹿の城山をもっときれいにしてほしい。桜の花見は、安全に夜もお花見ができるようにしてほしい。
交通機関の利便性の向上を希望する。
福祉は充実してきているが、なかなか反映されていない面がありもったいない。自治区加入促進を町全体で強力に推し進めることを切望する。
毎日の天気予報に出てくる九州地図の中に、芦屋町がどこにあるか小学生のみんなに○をしてもらおうと、どこに○をするだろうか。果たして九州の最上端部に○をする人が何人いるだろうか。考えようによっては、芦屋町は毎日いつの時も新聞、テレビ、iPhone、PC、その他いろいろなもので PR してもらっているようなものである。芦屋町は地政学上、九州最上端すぐの西の町である。マリンテラスの右側の展望台から左後ろに遠賀川河口、海の方を見ると左手に地の島、大島、右手に白島（男島、女島）、その右側に蓋井島。そこで、小学生の社会の勉強で地図と実際の見分が一致するのか、展望台に行って方位（東西南北）を教える（特に正面が北、直角左手が西）。家に帰っても北と西を両親に教えてもらい、西空の雲行きが悪くなってきたら雨が近いということの日頃から体験的に覚えておくと、お母さんよりも先に洗濯物を入れたりすることもできる。また、台風の進路が右半円に入るか、左半円に入るかで考えることができる。このように日頃から地上天気図に関心を持っておいて、空の天気が異様に黒くなってヒョウやアラレが降れば、すぐに頑丈な建物に逃げ込むことを日頃から知っていることが大切で、多くの人の命を救うことになる。最後に天気を見るのが上手な漁師さん達に、小学生に 1 時間の講習をしてもらい、天気予報を参考にして数時間後の天気を予想し、長年漁師をやってきた知識を参考にして、次々とやってくる自然災害に対処してもらいたい。
自然、イベント、うまい物等のアピールをメディアを通じてうまく宣伝すべき。糸島よりも良い所がいっぱいあると思うのに、コマーシャル下手なのではないか。
今、車の運転ができていますが、できなくなった時のことを考えると不安になる。
まちづくりには住民の力等が欠かせないが、特に若い人達の提案や意見等が大切である。各種計画の策定等に、若い人達（50 歳未満）を多く参画させるようお願いしたい。
夏井ヶ浜はまゆう公園の近くに海が見渡せるガラス張りの喫茶店ができると、訪れたカップルや家族連れが楽しいひと時を過ごせると思う。
町民と役場との情報共有として、例えば粕屋町のように「わかりやすい予算書」（予算概要書）等を作成し、町民にどこで、どれだけ、どういう理由で、予算が付けられたのか知らしめる義務があると思う。それによって町がどこに力を入れているかわかるし、方向性も見えてくる。町のホームページ、または小冊子等に予算書と予算査定書を載せて、町民に対してより一層の情報の透明化をはかり、町民に行政に対する信頼と理解を深めてもらうことが重要だと考える。

60 歳代<46 件>続き
狭い芦屋町には大きな企業も入りそうにないし、高齢者も増えるので、高齢者向けの施設を増やし、老人の町（いい意味で）にしたらどうだろうか。山や海もあり自然な所で余生を過ごし、また働く場所を若い人達につくことで維持していければ良い。交通の便からいうといいのは町の中だけで、山鹿や大城栗屋などは本当に動きにくい。車を運転しなくなるとちょっと不安である（ずっと住めるのかと）。中央病院には期待している。安心してかかれるようお願いしたい。
芦屋町の入口である正門町を整備する。若い者が来るようなイベント開催。芦屋中央病院跡の早期利用。機会があれば、いろいろな所を見学すると良い。
税金が高いので、税金を下げしてほしい。町会議員の報酬が他の地域より高い。
いろいろな地区の行事にも役場の人に参加して、私は今のままで十分満足している。これからもお世話になる。よろしくをお願いしたい。
毎回何らかのアンケートには回答しているが、役に立っているのだろうか。
町外から多くの人を訪れてくれるような芦屋町とは何か。
芦屋町は町全体に活気がないように感じる。商店街もシーンとしていて、人の行き交う声がない。地場産業の農業や漁業も同じだ。町に元気を取り戻すために（簡単ではないが）、若手の定住を促す基盤づくりが急務だと思う。また、女性の社会的進出を促す条件づくり、環境の整備も重要だと思う。
道路整備のことで役場に電話した際によく話を聞いてくれて、早く行動も起してくれた。そんな対応をこれからも町民のためによりしくお願いしたい。
町外に勤務しており、町の行事や行政についてわからない。退職後には、町のために少しは関わっていきたいと思っている。町内で中高齢者が活躍、または仕事ができるまちづくりを希望する。
車を所有していないため、どこに行くにも公共交通の便がなく困る。コミュニティバスも60歳以上は無料と聞いているが、路線の経路など、行きたい場所に行って帰るにも便利が悪い。使ったことはない。いろんな人に聞いて役場、買い物、銀行など、行き帰りの路線等を考えてほしい。
町中（正門町）に薬局（処方箋を扱ってくれる）があるといい。保育料完全無料化した方が良い（大切な子ども達だ）。空家が多いので雑草が生え、景観が悪い。
もう少し元気な町であってほしい。産業がないので、これといって友人等と呼ばない。
歩道が歩きやすい。きれいな町にしてほしい。
町の人口増の対策。中央病院の眼科や皮膚科は毎日の診察を希望。町営バスは回送しないで、客を乗せる。
昔のような活気のある町に戻れたら良いと思う。シャッターばかりの町を改善できたら良い。若い人に住んでもらえることが良いと思う。人が増えない限りは難しいことだと思う。
巡回バスを利用しているが、買い物がとても不便。移動販売車等があったら便利である。
「自治区の活動」については高齢化と意識の変化により、大きく求めることは不可能。その結果、行政への期待、依存が大きくなる。競艇の収益増により、いろいろな行政サービスが考えられているのは有り難い。今後、計画性を高め、持続可能なサービスの提供をお願いしたい。収益がダウンしたからサービスを低下、カットするのでは過去の芦屋町に戻ってしまう。
公共施設のWi-Fi整備状況がわからない。広報紙に整備状況を記載してほしい。国、県、町道の振り替えは今後どのような計画なのか。
観光を推進する目的は何か、産業振興と一体に考えるべきではないか。
最近、地区の自治会から脱退する住居が増えていると思われる。隣家→自治体→町の行政のようなまちづくりが望まれるのではないか。行政はもっと自治体にも介入してはどうなのか。
山鹿地区の方に野菜畑のような店ができるといいと思う。水道代が高額なので、北九州市のように安い所に人が移住していくように思う。安くなるように努力をしてほしい。
商業、店舗が栄えないと、町の繁栄は無理。そのための集客力（人）が必要。自衛隊員へのアプローチ、若い人が集まれる施設、近隣都市からも来てもらえる施設など、それを企画・開発できる若い知恵と感性と実行力が必要。
井の中の蛙になっていないか。外部からの意見（他市町村等）、過疎地が復活した例等を参考にしたらいかがか。目先のことではなくて、広い範囲で見てほしい。
日常生活が不便で、交通の便が良くない。
近年災害が多いので、特に防災に力を入れてほしい。そして、安全・安心な町になるように力を入れてほしい。お互い頑張りましょう。

60 歳代<46 件>続き
がんばれ町長。
意見を言っても言い訳から始まり、煙たがられ、権力のある人の意見が通る。役場の若い人の意見も聞くようにして、のびのびできる環境にしてほしい。
町並みを整えて景観を良くし、移住したくなるような魅力ある町づくりを。芦屋町には、海という財産を最大限引き出し、町の統一した魅力作りなど行う。糸島や津屋崎、湘南等を参考に。奄美市の笠利町など、何も無いが住んでみたいと思った。

70 歳以上<53 件>
町会議員を減らし、新しい議員の参加を望む。高齢者をいかし、働く場を増やす。
芦屋町の町の道路を全てきれいにしてほしいと思う。バイクで通る時に、ガタガタしてとても危ないと思う。
子育て支援については、飯塚市を参考にしても良いかもしれない。箱物行政からの脱却。特に中央病院の新設の運営が心配。町内を散歩していると、空き家が非常に多く目に入ってくる。このような状況は、芦屋町に住む魅力がなくなりつつあるのではないかな。
アパートの乱立を防止すべき。数年で空き家になっているケースがある。中途半端な観光開発は大きなマイナス。のんびりした田舎町こそ町民の求める姿。変な開発をされると、田舎に住む価値がなくなる。
交通の便が悪い。特に北九州までの直行便がなく不便。議会の透明感が見えない。他の町民の目から、議会の派閥がもの凄いらしいとの印象がある。
東北、北陸の人でも、お茶をしている人は芦屋釜を知っていたし、県内の人には「釜の里に行ったことがある」と言っていた。もう少しそれを前面に出したらどうか。
芦屋町の自然を主体にした観光づくり。
はまゆうの周りに薬局がない。薬局が必要。
今後、高齢化に伴う認知症に関する支援に力を入れる。
町の人口をもう少し増やす工夫を考えてほしい。行く先町が小さくなる。
芦屋町中央病院の薬局を駐車場の隅でもいいから、病院前につくってほしい。雨、雪時は下まで降りて行くのは危ないし、つらい。ぜひお願いしたい。近所の病院通いの人も言っている。
私は縁あって芦屋に住み着いて 53 年になる。その間に子どもも成長し、良い日々を過ごした。町から田舎に来たという感じだったが、今は、芦屋に住み着いて本当に良かったと思っている。ただ、交通の便が悪い（例えば、前は黒崎に行く直行便があった）。今は近所に空き地、空き家が多くある。どうか年寄りの町でなく、活気ある住みやすい町にしてほしい。希望する。
住み続けたいとは思わないが、家がある以上住まねばならない。高齢者でもあるし。
政策を実行する前に効果を示し、後で費用対効果を数字で説明する。
巡回バスのコースをもう一度考え直してほしい。利用者の意見も聞いてほしい。西浜の方は寂れて店もバス停も不便で、行きはいいけど帰りが悪くて身動きが取れない。もう一度町を見直して、店などをつくってほしい。
公共交通機関は利用者が少ないので、これ以上の増便などは無理だと思われる。通学路等にはカメラが必要ではないか。高齢者が多い町なので活気がないし大変だと思うが、芦屋町らしいまちづくりができたらいと思う。
皆に平等に同じように幸せを与えることはできない。年金も環境も、その他家庭の事情も違う。その中で、少しずつでも良かったと思えるまちづくりをしてもらいたいと思う。
人口減少の昨今、芦屋町職員、議員を減らす予定はないのか。町役場の職員はあんなにたくさん必要か。
教員の育成と質の向上。
県と町の違いを早く話し合いをして、芦屋港を整備してほしい。楽しい町になるようにしてほしい。
中心商店街区の活性化を役場、住民、議会、商業者全員で議論できる委員会をつくり、できることから一つずつ実行していくことが大切ではないか。個々で考えても何もできない。町民一体となって考え、実行すべき。
中・大型企業に、地震、水害が少ない芦屋に来てほしい。
今の自然を守るまちづくりに力を入れてほしい。
芦屋町の位置、立地の視点からもっと観光事業を充実させるべきである。

70 歳以上<53 件>続き
商店街は寂れっぱなし、イベントは長々と同じイベントで変化がない。芦屋町に行ってみたい、住んでみたいと感じられるような町にしてみたい。
洞山のトイレを早く整備して、車止めを開放してほしい。堂山前に奥の洞山のわかりやすい案内板を設置してほしい。洞山前の駐車とトイレの早い整備をお願いしたい。
芦屋町の自然とグルメ等を推進する。明るいまちづくりをしてほしい。地域と話を（町の要望、自治区の要望）。
空き地利用（畑等、ミニ公園）。
役場周辺から山鹿に通じる道路はよく整備されているが、鑄鍛鋼から浜口に通じる並木下はいつも草が生い茂っているので、定期的に除草してもらいたい。景観が悪い。
正門通が寂しすぎる。
今後、施設を考える時には駐車場も考えてほしい。福祉バスの件、昼の時間も車を出してほしい。病院（中央）が終わっても屋すぎはバスがないので、タクシーを頼まなければならない。また、会議後、12 時すぎにバスが動かない。よそから「芦屋に来て良かった」と思われるような芦屋になるようお願いしたい。
遠賀町のタウンバスは値上げがない。芦屋町はよく値上げする。バス車内での PR など（ゴミの処理方法など。他町はある）、芦屋町の宣伝がない。マリンテラス芦屋の運営の改善。
いろいろと企画して活動されているが、高齢者がとても多くなっているのもっと底辺に目を向けて、「イベントが多いからいい町」というのではないようにしてほしい（うまく言えないが）。まず、交通の便が悪い。町の福祉協議会が 2 つあり、まぎらわしい。わかりにくい。
高齢者が多い町なのに、買い物をする場所がスーパーはまゆうしかない。歩いていくには 30 分かかかる。近くにコンビニでも良いのでほしい。車が運転できない人達の困った状況をもっと把握してほしい。
働きたくても働く場所がない。芦屋町に住みたくない理由について、町民の意見が実現されない。町内で買い物したくても下着すら売っていない。食料品等についても品数が少なく、バスに乗って町外で買い求めなければならず、とても不便。芦屋町の商店はだんだん少なくなり、寂しい限り。これにて芦屋町も収入（税）が減り大変だ。一過性の催し物をするのではなく、芦屋町に住みたくする町にしてほしい。芦屋湾活性化の計画が考えられているが、このような計画こそ町民の賛否を問う必要があるのではないだろうか。今の芦屋浜海岸の現状を見る限り、これ以上美しい砂浜をダメにしないでほしい。皆さん、外の海岸、砂浜を見てほしい。こんなに美しい砂浜は数少ない。また、この計画が実現しても、1 年中客が来てくれるのか。せいぜい夏休みの 1~2 ヶ月である。そのために自然を壊し、大金を使ってまでする事業には私は反対である。自然は子ども達からの預かりもの。大切にしたいものである。港湾をつくったのがそもそもの間違いだった。子ども時代に芦屋の海に行くのがとっても楽しかった。ハマグリを取ったり、自然の恵みにとても感謝していた。ぜひこれからの子ども達にも子の恵みを味わわせたい。
中央公園の芝刈りは土まで切っている。雑草を先に除去してから作業してほしい。中央公園のトイレの前や休み所に雨除けがないのはなぜか。中央公園の芝生に犬のフンがある。街灯が LED になったのは良いが、向きに不良がある（松露の裏通り）。役場の職員は自分のミスを絶対に謝らないのはプライドか。
意見などわからないが、これからもっと住み良い町になれば良いと思う。
健康で安全に楽しく長生きできる町がいい。そのための町の経済基盤として、観光や充実した健康づくりの資源（医療や施設）を売りにしてはどうか（外国人向け、人間ドックなど）。せつかくの新しい病院が整理の対象となるのは悲しい。
どんどん良い町になっていると思う。しかし、気になっていることもある。狩尾岬の磯、夏井ヶ浜の磯に老人が孫を遊びに連れて行って、磯のものを手に取って孫にその名前を教えている所に、見回りの人から咎められ始末書を取られた、少しばかりのびーなを子どもが持っていたのを取り上げられたなど、子どもを磯遊びに連れて行っては悪いのか。自然環境のまちに反することが起こっていて心配である。
基地、ボート事業はまちづくりには欠かせない要素であり、これらとコラボしたレジャー港湾活性化により、町外者の流入をはかると共に芦屋の自然、歴史をいかした施策で、芦屋町は憩いの町（町外者にとっても）というイメージをつくることを望む。
陸の孤島という人もいるが、空気が澄んでいて、静かで気持ち良い面がある。隣近所は皆仲良く、挨拶、声もかけたりして幸せである。

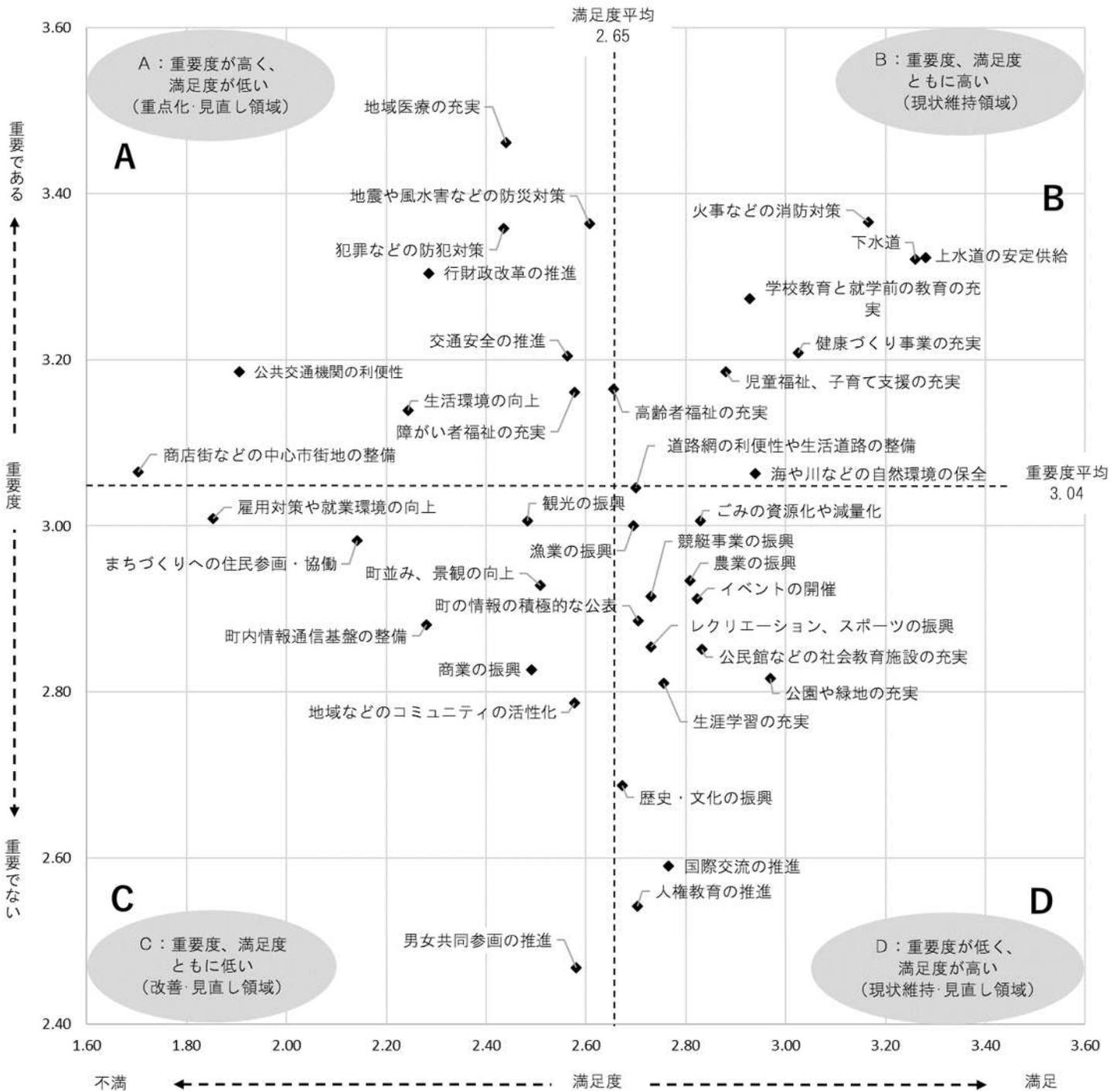
70 歳以上<53 件>続き
私は区に加入して組に入っているが、1/3 は加入していない。入っている人は区費組費を4月に1万円近く収めているが、区費・組費、募金や寄付等では足りないので、預金から毎年不足分を出している。預金も少ないので、なくなると毎年1軒が1万円以上納めないやっつけいけないと思う。加入していない人はお金も出さない。区や組の掃除も全然出ない。こういう状況は、何か町としてもぜひ考えてもらいたいと思う。
町外に出るのにバスが少ないし、貧弱。バスくらいは目立って多くないと、寂れるばかり。特に高校生がかわいそう。企業誘致もやらないと人が出て行くばかり。素晴らしい芦屋釜があるのに、知られていない。ここ何十年も宣伝不足（ボートの宣伝ばかりではないか）だが、他町の人々からは羨ましがられている。
文化祭の開催日など、特に駐車場がなく大変困っている。どこの公民館や施設にも満足な駐車場がない。もう少し拡大すべきである。夜間、照明が少ないので危険を感じる。
今からのまちづくりは病院を町の中心に持ってきて、学校を郊外につくるという考えはどうか。交通の利便性を考えてほしい（遠賀川までのバスは無料にするなど）。
柏原海岸は、もっと自由に海遊びができるようにしてほしい。今やビナやワカメを拾っただけで漁師がやって来て、海上保安庁に電話する。今は誰も磯遊びができない。自由に開かれた海に戻してほしい。
10月1日の広報で芦屋港活性化が考えられているようだが、ぜひ実現してほしいものである。また、競艇場の横を通る時に（島津側）開催日でも駐車場が常に空いている時があるが、いろいろ難しい問題もあると思うが、人を集めることのできる施設等を考えたら良いと思っている。
芦屋町は若い人がどんどん減っている。特に正門通りに人の姿が見られない。もっと商工会、役場の人などがいろんなイベントをして魅力的な町にしないと、人口はどんどん減るのではないだろうか。
最近、想定外の事件、事故が起きているので、城山の上に避難所をつくってもらいたい。今まで何度もお願いしたが、全く無視されている。大津波が来た場合、体育館まで行くのは間に合わない。
観光地を整備して、芦屋の美しさをもっとPRしてほしい。
昔は城山の桜見学に家族などと弁当などを持参していたが、今はどうか。
町外から来る観光客に、一目でわかる案内板を各所に設置してほしい。
農林水産業や商工業の担い手、新しい産業が育つよう願う。若者が芦屋町で働くことができるように望む。

年齢無回答<3 件>
散歩で1時間かけて芦屋の町を歩いているが、廃屋が多数見られ、ゴミが散乱、公園も草がいっぱい。山鹿の橋の下などは道が見えないくらいあり、河口堰の公園も凄い。もっと税金を大事に使ってもらいたい。高浜町営の廃屋はどうするのだろうか。
自然をいかしたあまり金のかからないまちづくりが必要だと考える。今後、人口が減少したら税収が少なくなるが、これからの子ども達に負担をかけないようにしたい。
芦屋に住んでいると、ほとんどの人は車で移動する。子どもや友達と天気のいい日はウォーキングで散歩するには適当に狭い町だと思うので、密集している寺をポイントにしたウォーキングマップがほしい。バス通りの道幅を広く、圧迫感のない道路にできないだろうか。時間とコストはかかると思うが、空き家や古い家は魅力半減である。移動してもらって美しい街並みをつくってほしい。

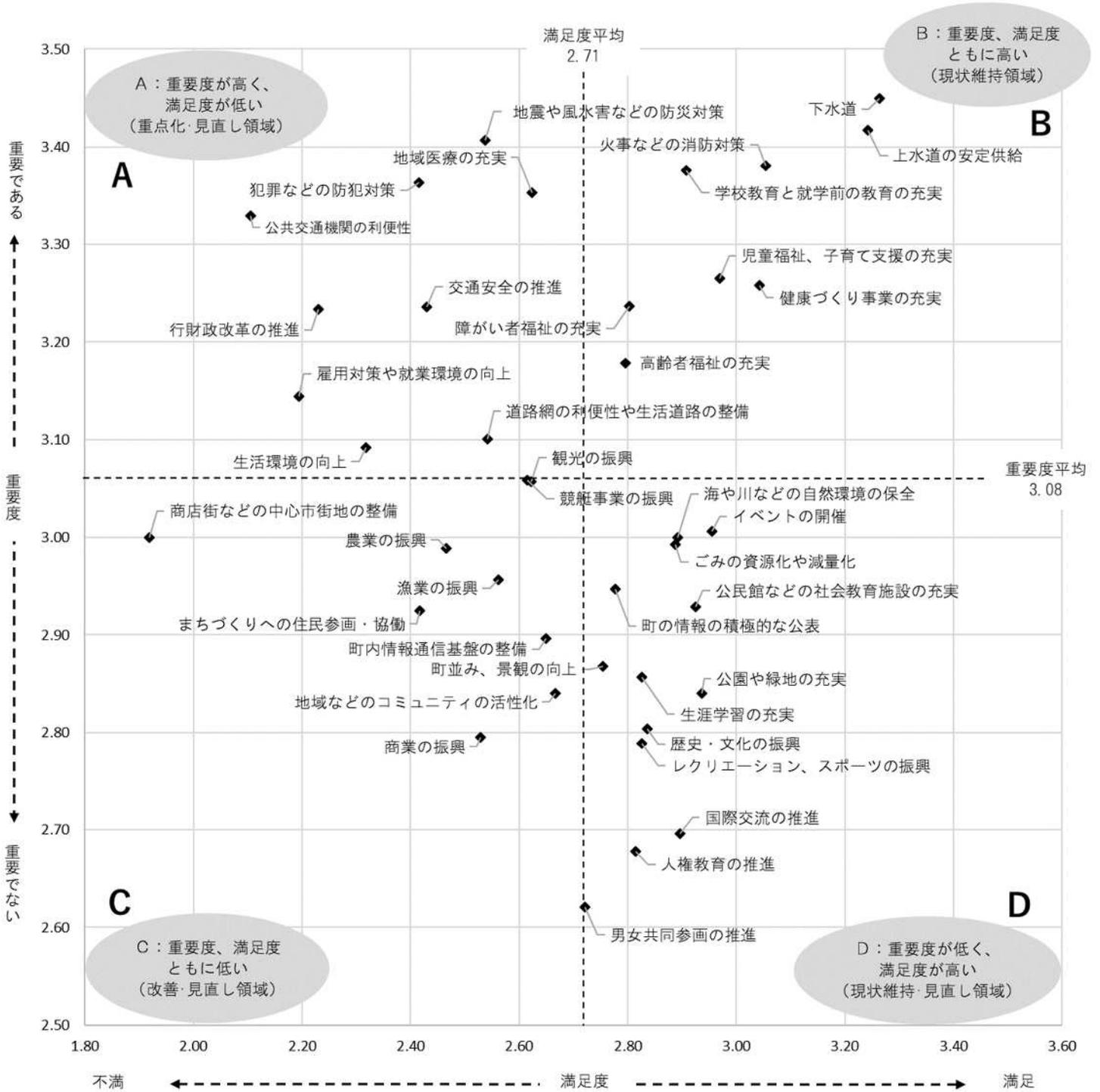
7. 資料編

1. 満足度と重要度の相関図による分析(クロス集計:小学校区別・性別・年齢別)

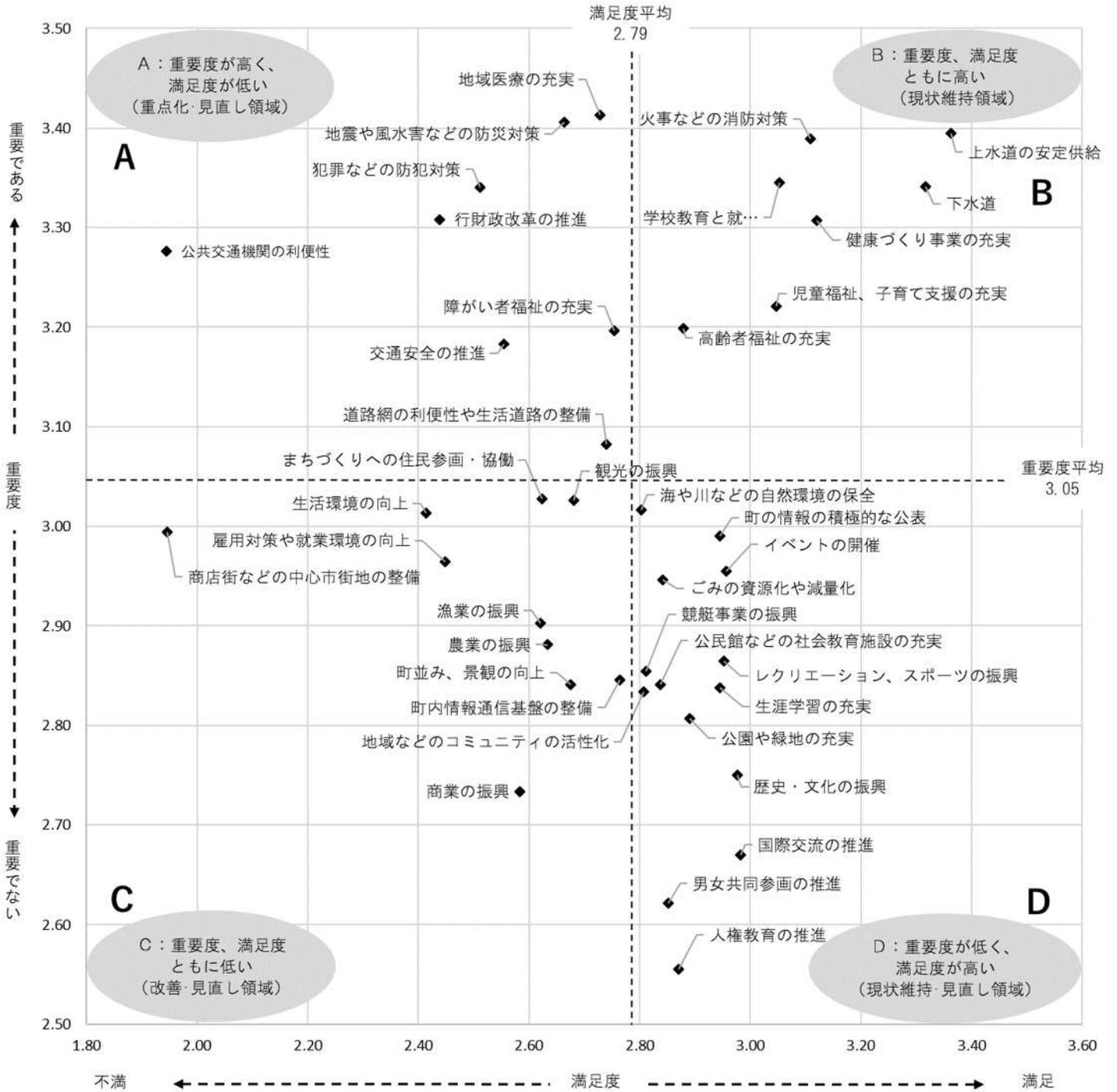
◆ 芦屋小学校区 ◆



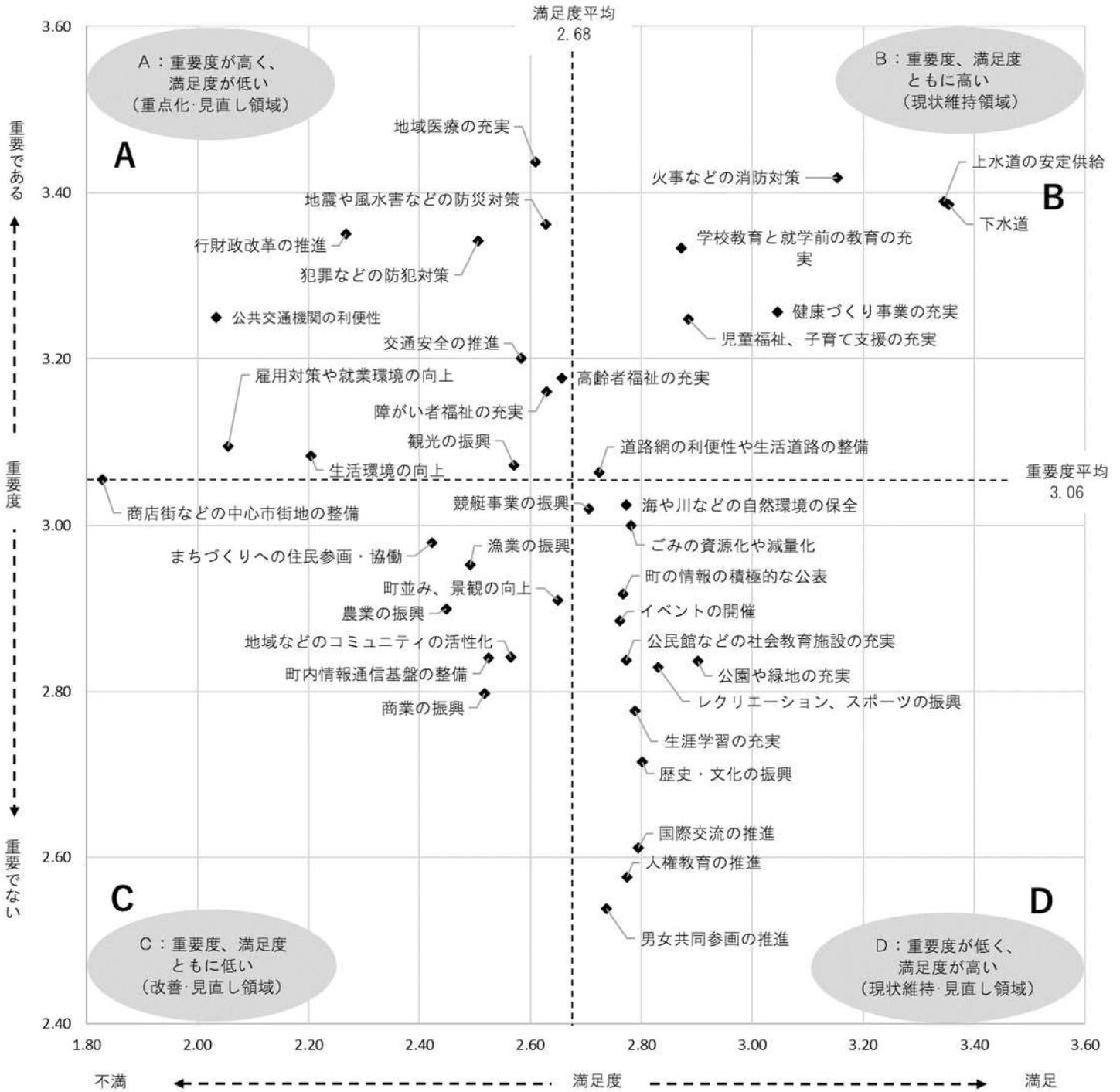
◆芦屋東小学校区◆



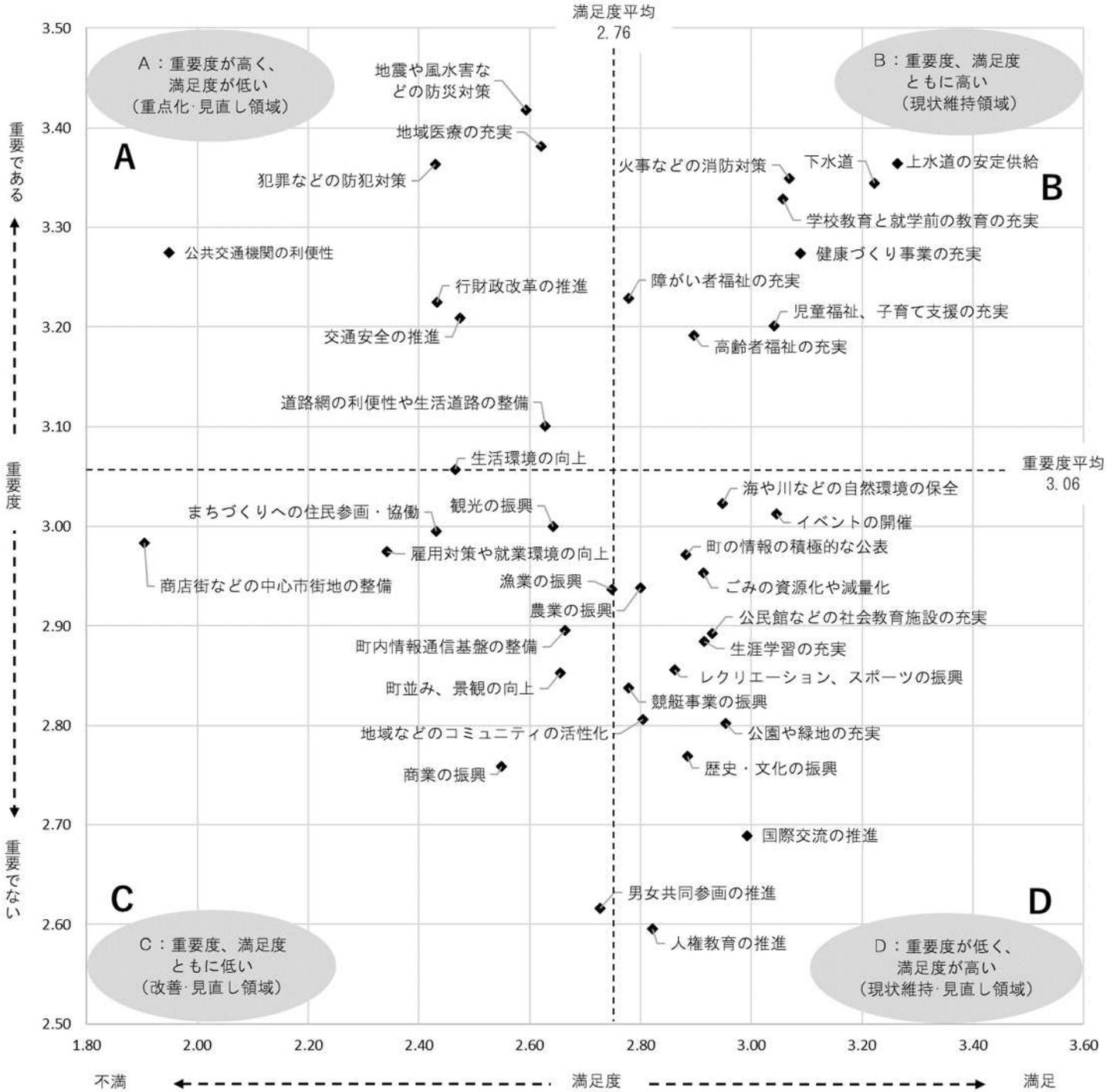
◆山鹿小学校区◆



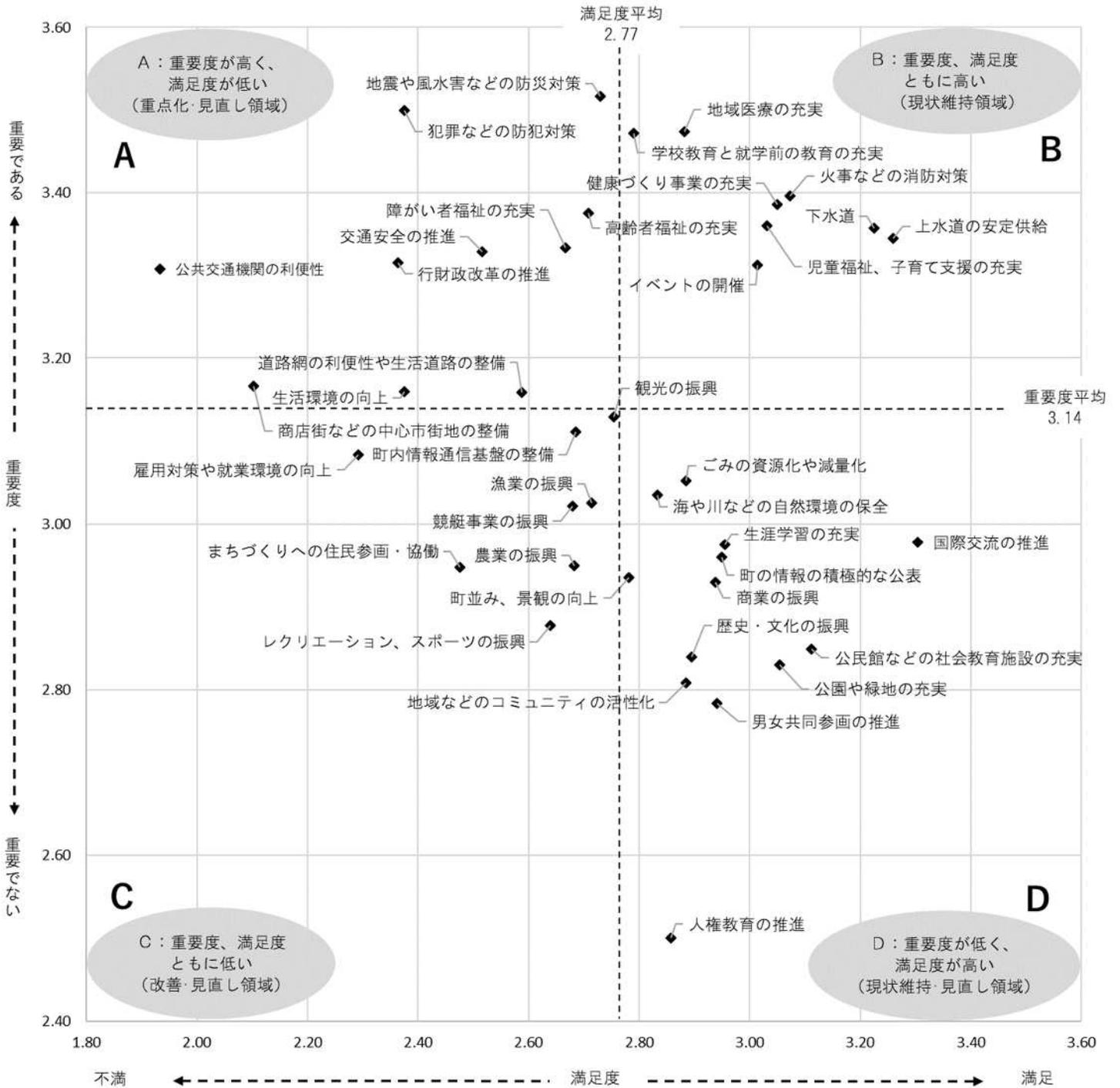
◆男性◆



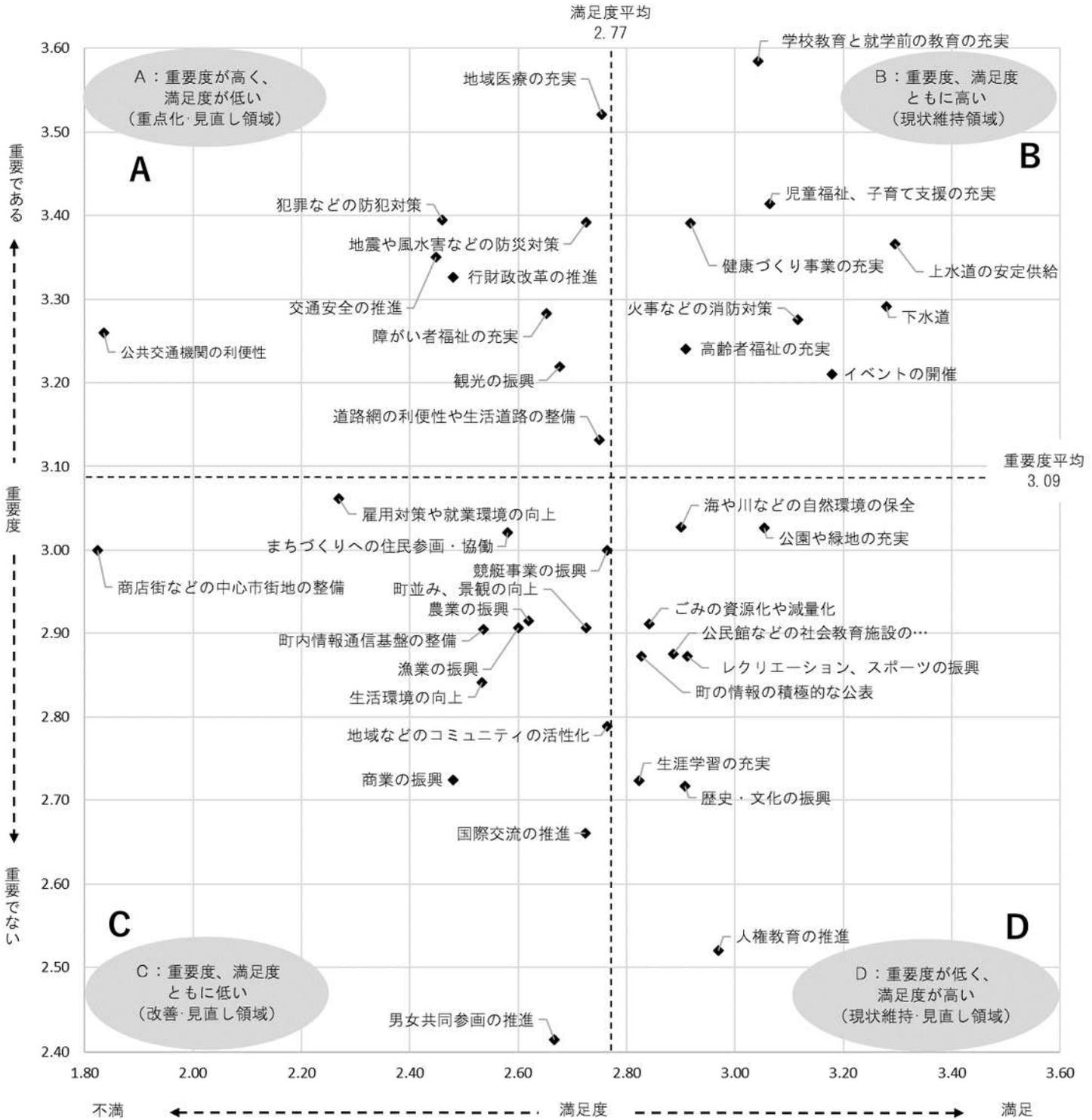
◆女性◆



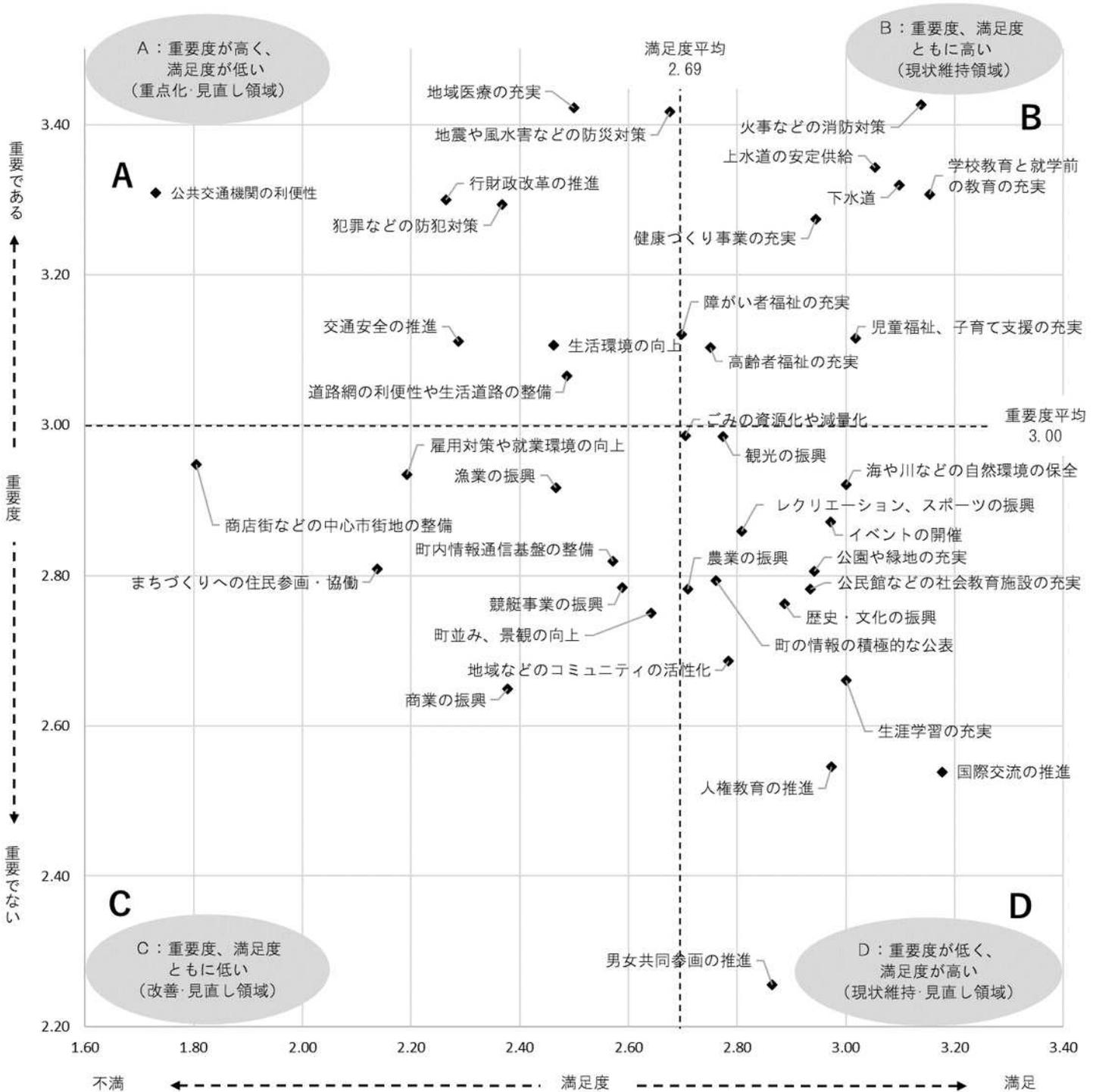
◆20 歳代◆



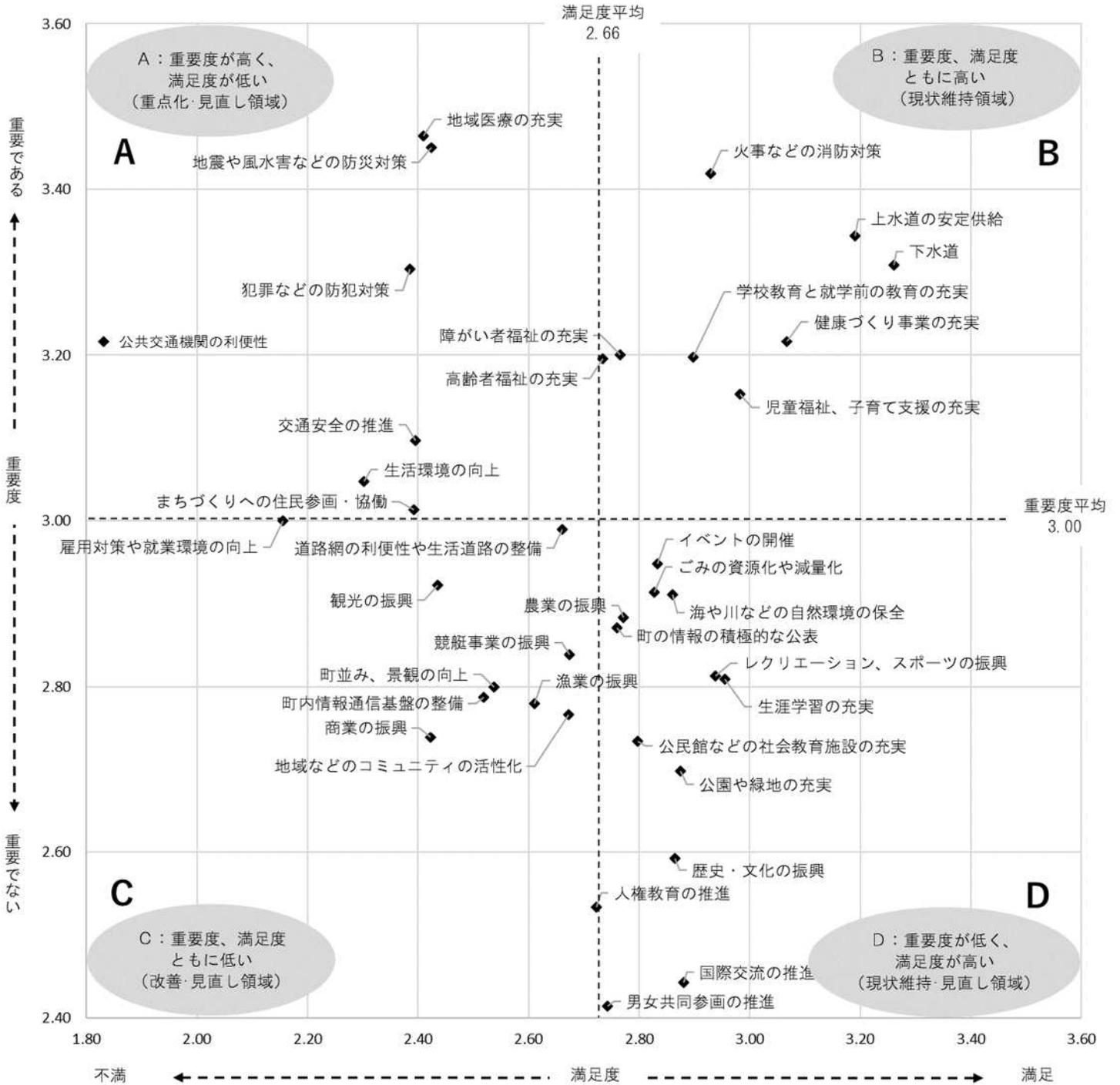
◆30 歳代◆



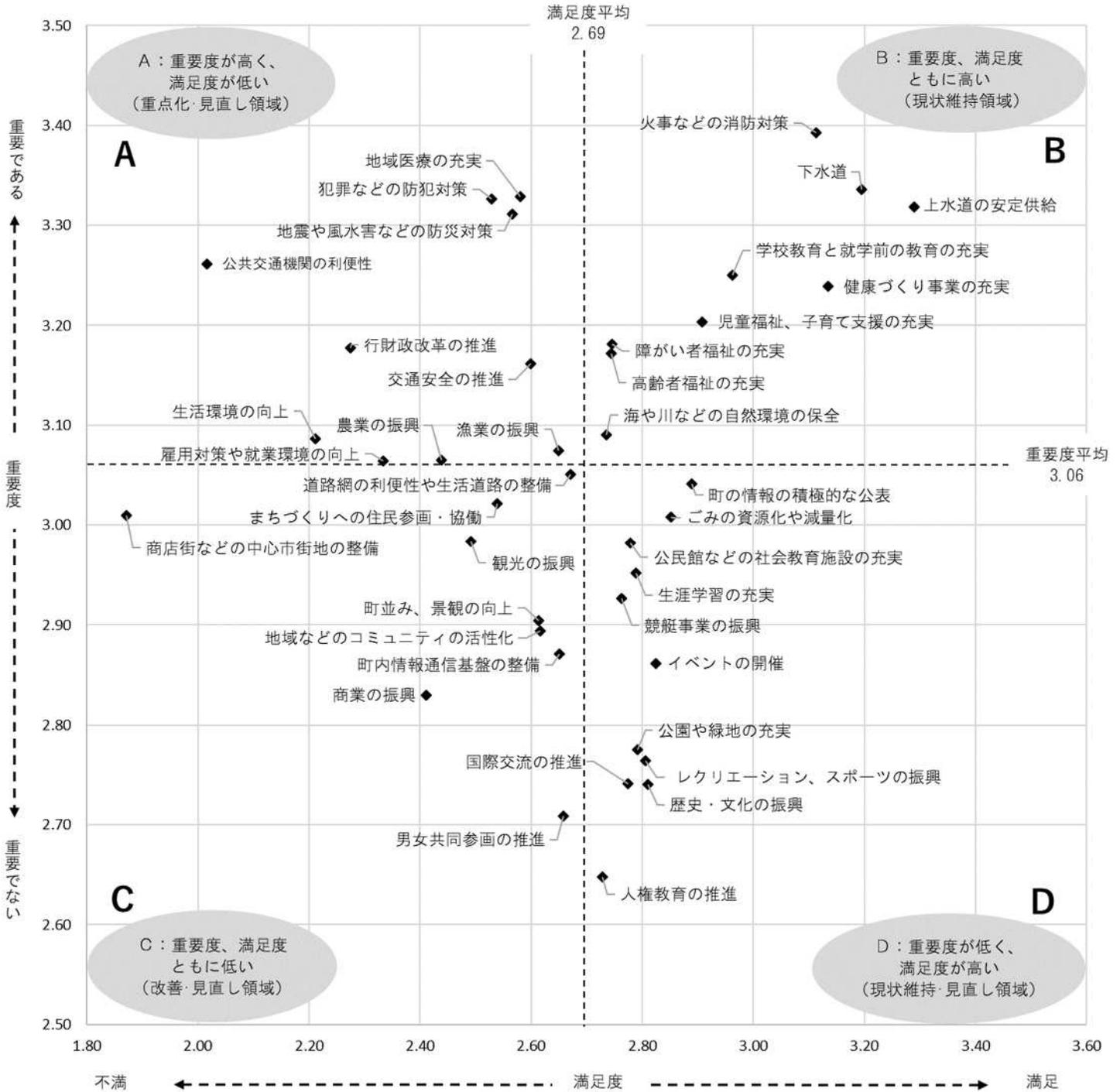
◆40 歳代◆



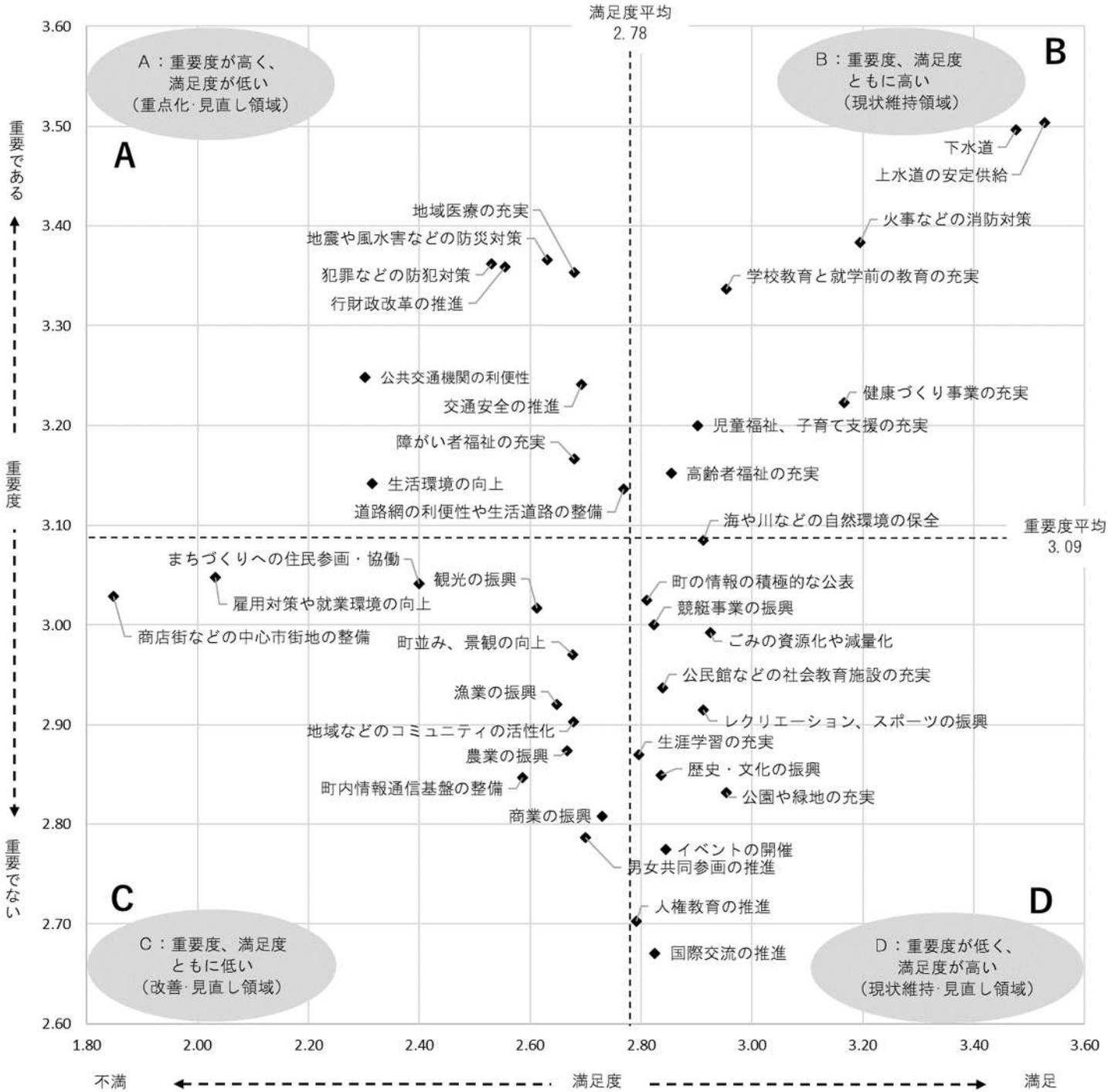
◆50 歳代◆



◆60 歳代◆



◆70歳以上◆



2. 調査票

コミュニティ活動状況調査 (住民意識調査)

調査ご協力のお願い

みなさまには、日ごろから町政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、今回送付させていただきました「コミュニティ活動状況調査(住民意識調査)」は、現行計画である第5次芦屋町総合振興計画に対する住民の皆様の評価や、今後のまちづくりに対する意向などを把握するために実施するものです。

また、過去に実施したコミュニティ活動状況調査結果との比較・分析を行うことで、町の取り組みなどに関する課題を抽出し、今後の取り組みに活かそうとするものです。

今回の調査は、本町在住の20歳以上の方の中から2,000名の皆様に本調査票をお送りさせていただきました。調査票に記入された内容につきましては、統計的な処理をしたうえで活用させていただくものであり、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しい中誠に恐縮ではございますが、本調査の目的、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年10月
芦屋町長 波多野 茂丸

ご記入にあたってのお願い

- あて名のご本人がお答えください。
- 調査票や同封の返信用封筒に氏名や住所を記入する必要はございません。
- この調査によって、個人が特定されることは一切ございませんので、思いのままにお答えください。
- 回答の方法は、設問によって「1つに○」、「あてはまるものすべてに○」など指定されていますので、その指示に従ってください。
- ご記入いただいた調査票は、**10月15日(火)**までに、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて投函してください。(切手と記名は必要ございません)

【調査に関するお問い合わせ先】

芦屋町役場 企画政策課 企画係
電話：(093) 223-3570 (直通) FAX：(093) 223-3927

町の暮らしやすさについて

問7 芦屋町は住みよいと感じていますか。(1つに○)

<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">1. 住みよい</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">2. まあまあ住みよい</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">3. あまり住みよくない</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">4. 住みにくい</div>
---	---

(問7で「1」「2」を選んだ人におたずねします。)

(問7で「3」「4」を選んだ人におたずねします。)

問7-1 どのような点で住みよいと感じていますか。(主なもの3つに○)

問7-2 どのような点で住みにくいと
感じていますか。(主なもの3つに○)

1. 住宅価格、家賃が適当、安い
2. 買い物など日常生活が便利
3. 交通の便がよい
4. 職場、学校が近い
5. のどかさがある、静かな居住環境
6. 自然が豊か
7. 魅力的なイベント、行事がある
8. 治安がよい
9. 近所づきあいがよい
10. 町のイメージがよい
11. 子育て支援が充実している
12. 高齢者、障がい者福祉が充実している
13. 医療環境が充実している
14. 学校の教育内容、環境がよい
15. 定住に関する補助が充実している
16. 都市基盤が整備されている
17. 親戚、知り合い、友人が近くにいる
18. 親、子どもが近くにいる
19. その他

1. 住宅価格、家賃が適当でない、高い
2. 買い物など日常生活が不便
3. 交通の便がよくない
4. 職場、学校が遠い
5. 居住環境が騒がしい
6. 自然が少ない
7. 魅力的なイベント、行事がない
8. 治安がよくない
9. 近所づきあいがよくない
10. 町のイメージがよくない
11. 子育て支援が充実していない
12. 高齢者、障がい者福祉が充実していない
13. 医療環境が充実していない
14. 学校の教育内容、環境がよくない
15. 定住に関する補助が充実していない
16. 都市基盤が整備されていない
17. 親戚、知り合い、友人が近くにいない
18. 親、子どもが近くにいない
19. その他

問8 今後も芦屋町に住み続けたいですか。(1つに○)

- 1. ずっと住み続けたい
- 2. 当分住み続けたい

- 3. いずれ町外に出ていきたい
- 4. わからない

(問8で「1」「2」を選んだ人におたずねします。)

問8-1 どのような点で今後も住み続けたいと思いますか。(主なもの3つに○)

- 1. 住宅価格、家賃が適当、安い
- 2. 買い物など日常生活が便利
- 3. 交通の便がよい
- 4. 職場、学校が近い
- 5. のどかさがある、静かな居住環境
- 6. 自然が豊か
- 7. 魅力的なイベント、行事がある
- 8. 治安がよい
- 9. 近所づきあいがよい
- 10. 町のイメージがよい
- 11. 子育て支援が充実している
- 12. 高齢者、障がい者福祉が充実している
- 13. 医療環境が充実している
- 14. 学校の教育内容、環境がよい
- 15. 定住に関する補助が充実している
- 16. 都市基盤が整備されている
- 17. 親戚、知り合い、友人が近くにいる
- 18. 親、子どもが近くにいる
- 19. その他

[]

(問8で「3」を選んだ人におたずねします。)

問8-2 どのような点でいずれ町外に出ていきたいと思いますか。(主なもの3つに○)

- 1. 住宅価格、家賃が適当でない、高い
- 2. 買い物など日常生活が不便
- 3. 交通の便がよくない
- 4. 職場、学校が遠い
- 5. 居住環境が騒がしい
- 6. 自然が少ない
- 7. 魅力的なイベント、行事がない
- 8. 治安がよくない
- 9. 近所づきあいがよくない
- 10. 町のイメージがよくない
- 11. 子育て支援が充実していない
- 12. 高齢者、障がい者福祉が充実していない
- 13. 医療環境が充実していない
- 14. 学校の教育内容、環境がよくない
- 15. 定住に関する補助が充実していない
- 16. 都市基盤が整備されていない
- 17. 親戚、知り合い、友人が近くにいない
- 18. 親、子どもが近くにいない
- 19. その他

[]

町の取り組みに対する満足度・重要度について

問9 芦屋町のこれまでの取り組みについて、あなたはどのくらい満足し、また、重要とお考えですか。(各項目について、「満足度」、「重要度」からそれぞれ1つずつに○)

項目 あなたの考え 代表的な事業など	満足度					重要度				
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
1 公共交通機関の利便性 ・町内を運行する北九州市営バス、芦屋タウンバスの路線や運行本数、巡回バスの運行など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2 道路網の利便性や生活道路の整備 ・幹線道路、身近な生活道路の利便性、整備の状態など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3 交通安全の推進 ・交通安全運動の実施、カーブミラーや道路照明などの交通安全施設の設置状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4 上水道の安定供給 ・北九州市による水道の安全・安定供給など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5 下水道 ・下水道施設の整備状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6 地震や風水害などの防災対策 ・自主防災組織への支援、防災地図や防災訓練の実施、防災無線の整備や避難所の設置状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7 火事などの消防対策 ・迅速な消火活動、消防団活動の支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8 犯罪などの防犯対策 ・自治防犯組合などの町内巡回活動の支援、見回りの強化、防犯街灯や防犯カメラの設置など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9 町並み、景観の向上 ・花壇の整備、街路樹の剪定、誘導看板や総合案内板などの整備状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき															
項目 あなたの考え 代表的な事業など	満足度					重要度									
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	でない	あまり重要でない	わからない					
10	公園や緑地の充実 ・中央公園、海浜公園、夏井ヶ浜はまゆう公園などの維持や整備など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11	ごみの資源化や減量化 ・自治区などによる資源物の集団回収奨励制度、生ごみ処理容器やダンボールコンポストなどの助成制度など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12	海や川などの自然環境の保全 ・ラブアース活動(海岸線や河川の一斉清掃)など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13	生活環境の向上 ・不法投棄防止パトロール、放置自転車対策、不法係留船対策など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14	農業の振興 ・新規就農者への就農支援、用水路やため池などの維持や整備など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15	漁業の振興 ・漁港や漁業施設の維持や整備など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16	商業の振興 ・にこにこ商品券・高額商品券発行の補助、商工業者への運営や設備資金の借入支援など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17	商店街などの中心市街地の整備 ・商業者への支援や企業誘致、空店舗活用補助制度など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18	観光の振興 ・国民宿舎・レジャープールアクアシアン・芦屋海水浴場の運営、観光情報の発信など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19	イベントの開催 ・あしや砂像展の実施、花火大会や祭りあしやなどの開催支援など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20	地域医療の充実 ・芦屋中央病院の医療機器の充実や町内の医院との連携など					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき		満 足 度					重 要 度				
項 目 代表的な事業など	あなたの考え	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	でない	あまり重要でない	わからない
		21	健康づくり事業の充実 ・特定健診・がん検診・乳幼児健診の実施、健康・運動教室や保健指導・栄養指導の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3
22	高齢者福祉の充実 ・介護予防事業、地域交流サロン事業や配食サービスなどの在宅福祉サービスの実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23	障がい者福祉の充実 ・公共施設のバリアフリー化、福祉タクシーチケット給付、手話通訳者の派遣、障がい児デイサービス「芦屋すてっぷくらぶ」の運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24	児童福祉、子育て支援の充実 ・子ども医療費の助成、学童クラブの運営、保育所などの利用、子育て支援センターの運営や育児教室・相談の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25	学校教育と就学前の教育の充実 ・小学校4年生までの35人学級の実施や中学校3年生への放課後特別授業の実施など ・保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携など ・特別支援教育の推進など ・ICT教育(情報通信技術)の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26	生涯学習の充実 ・各公民館講座、祖父母学級、同好会活動などの推進、文化協会への活動支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
27	公民館などの社会教育施設の充実 ・中央公民館、東公民館、山鹿公民館、図書館、町民会館などの運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
28	人権教育の推進 ・人権まつり、人権講演会の実施、人権カレンダーの発行や人権啓発の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
29	地域などのコミュニティの活性化 ・自治区活動への支援、自治区担当職員制度(職員が地域活動に参加し、町民による自主的な地域づくりのサポートを行う活動)の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき											
あなたの考え 項目 代表的な事業など		満足度					重要度				
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	でない	あまり重要でない	わからない
30	レクリエーション、スポーツの振興 ・総合体育館・小体育館などの体育施設の管理運営、スロートレーニングなど健康づくり講座の開催、スポーツ大会や体育協会への支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
31	歴史・文化の振興 ・芦屋釜復興への取り組み、芦屋釜の里の運営やさくらコンサートなどの事業、歴史の里の運営や企画展の実施、ギャラリーあしやの運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
32	国際交流の推進 ・国際交流協会への支援、中学生のホームステイ事業など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
33	男女共同参画の推進 ・男女共同参画社会の実現に向けての啓発や講演会の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
34	雇用対策や就業環境の向上 ・企業誘致を促進する条例、創業等促進支援事業補助金制度など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
35	町内情報通信基盤の整備 ・芦屋釜の里、レジャープールアクアシアン、マリントラスあしやへの無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備、インターネットを利用した情報提供など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
36	町の情報の積極的な公表 ・広報あしやの発行、出前町長室、出前講座、町のホームページ運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37	まちづくりへの住民参画・協働 ・住民と行政との情報の共有、パブリックコメントの実施、計画などへの住民の意見の反映など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
38	競艇事業の振興 ・売上向上に向けた取り組み(電話投票の拡大、キャッシュレス投票の促進)、来場者増加に向けた取り組み(夏休みイベント、タレントショー)、施設改善(Wi-Fiの整備、分煙化の促進)など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
39	行財政改革の推進 ・自主財源の確保、効率的な行政運営の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

その他、まちの重点的な取り組みなどについて

◆地域について

問 10 ふだん近所の方とどの程度の付き合いをされていますか。(1つに○)

1. 近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい
2. 近所の方と会えば、世間話をする仲である
3. 近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である
4. 近所の方の顔は知っているが、話さない
5. 近所付き合いはない

問 11 自治区に加入していますか。(1つに○)

1. 加入している
2. 加入していない

問 12 自治区の活動に今後どのような活動が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 防災に関する活動や取り組み(防災訓練や緊急事態が起きたときの対応)
2. 防犯に関する活動や取り組み(防犯パトロール、防犯街灯の点検など)
3. 交通安全のための活動(交通安全指導、交通安全教室など)
4. 子どもを地域で守り育てる取り組み(あいさつ運動、見守り活動など)
5. 子どもの健全育成に関する活動(野外活動、高齢者と子どもの交流活動など)
6. 環境美化活動(地域一斉清掃、花いっぱい運動、公園の美化活動など)
7. ごみの減量・リサイクル推進のための活動(資源物の回収、生ごみ堆肥化(ダンボールコンポスト)の推進など)
8. 健康づくりの活動(健康教室、ウォーキングなど)
9. 地域の行事やイベントなどの交流活動(盆踊り、夏祭り、運動会など)
10. 高齢者や障がい者への福祉活動(見守り、生活支援など)
11. その他()
12. わからない

◆環境問題への取り組みについて

問 13 日ごろから環境問題について、どのような取り組みをされていますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 資源物集団回収への協力
2. ごみの分別
3. 節電・節水
4. 公共交通機関の利用
5. その他()

◆防災について

問 14 地震や洪水に備えてどのようなことが必要と考えていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 地域の防災組織の確立 | 4. 防災に関する学習 |
| 2. 日ごろの近所付き合い | 5. 防災用品の準備 |
| 3. 避難場所の確認 | 6. その他 () |

◆観光の活性化について

問 15 町の観光をより推進するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実 |
| 2. 洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備 |
| 3. 観光地(夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など)の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持 |
| 4. 観光情報やイベントなどの周知・PR |
| 5. 特産品やグルメの開発 |
| 6. 観光に携わる人材の育成 |
| 7. 観光ルートマップなどの作成 |
| 8. その他 () |

◆教育について

問 16 町の小中学校の教育についてどう評価しますか。(1つに○)

- | | |
|------------|----------|
| 1. 大変良い | 4. 良くない |
| 2. まあまあ良い | 5. わからない |
| 3. あまり良くない | |

問 17 町の小中学生等に対する教育を向上するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める |
| 2. 学校において、心の教育(道徳や生き方の指導)の充実を進める |
| 3. 学校において、体力を高める授業や部活動の推進を図る |
| 4. 学校において、タブレットや電子黒板などを活用したICT教育(情報通信技術)の充実を進める |
| 5. 家庭において、基本的な生活習慣(早寝、早起き、朝ごはん等)の定着を進める |
| 6. 家庭において、家庭学習の時間を確保する |
| 7. 家庭において、ノーテレビやノーゲームに努め、親子の会話や読書の時間を確保する |
| 8. 地域において、住民が学校行事や教育的な催しに積極的に参加する |
| 9. 地区の子ども会や、校区育成会議などの子どもを育てる活動を推進する |
| 10. その他 () |

◆協働のまちづくりについて

問 18 ボランティア活動に参加していますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 定期的に参加している | 3. 興味はあるが、参加していない |
| 2. ときどき参加している | 4. 興味がなく、参加していない |

問 19 町の計画や取り組みについて関心を持っていますか。(1つに○)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 持っている | 3. どちらかといえば持っていない |
| 2. どちらかといえば持っている | 4. 持っていない |

問 20 町は、住民の意見をまちづくりに反映していると思いますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. よく反映している | 4. まったく反映していない |
| 2. まあまあ反映している | 5. わからない |
| 3. あまり反映していない | |

問 21 住民の意見をもっと反映するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(主なもの2つに○)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 町と住民の情報の共有を積極的に進める |
| 2. 町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす |
| 3. 町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす |
| 4. 町が設置する委員会の委員を住民から公募する。または公募枠を増やす |
| 5. 町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加わるようにする |
| 6. 住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる |
| 7. その他 () |

問 22 まちづくりを行う際、住民の意見を集めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(主なもの2つに○)

- | |
|------------------------------|
| 1. アンケート調査(意識調査)を定期的に行う |
| 2. 広報を通じた意見募集を定期的に行う |
| 3. 町のホームページに書き込みコーナーを設置する |
| 4. 町内各所に意見箱を設置する |
| 5. 住民相談の窓口や機会を増やす |
| 6. 町長が住民と対話する機会を充実する |
| 7. 町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす |
| 8. 必要ない |
| 9. その他 () |

第6次芦屋町総合振興計画策定について

問 23 芦屋町が今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことはどれだと思いますか。
(主なもの2つに〇)

1. 住民同士、住民と行政が互いに手を取りあう「住民協働のまち」
2. 防災・防犯に力を入れる「安全・安心なまち」
3. 子育て支援や教育・学習支援が充実した「教育のまち」
4. 高齢者や障がい者も安心して住みつけられる「福祉のまち」
5. 住民一人ひとりの健康を支援する「健康づくりのまち」
6. 農林水産業や商工業の担い手、新しい産業が育つ「産業振興のまち」
7. 様々な資源を活かし町外から多くの人を訪れる「観光・交流のまち」
8. 歴史や伝統文化、芸術を大事にする「歴史と文化のまち」
9. 豊かな自然資源に恵まれた「自然環境のまち」
10. 快適な住環境や公共交通網等が整備された「住みやすいまち」
11. 移住・定住を促進する「住みたいまち」
12. その他 ()

問 24 あなたが芦屋町らしさを感じるキーワードについて、3つまでご記入ください。
(例：神社、アウトドアなど)

【1つ目】

【2つ目】

【3つ目】

最後に、芦屋町のまちづくりについて、ご意見等ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

まちづくりワークショップ参加者募集！

芦屋町の今後 10 年間のまちづくりについて、一緒に考えてみませんか？

芦屋町では、第6次総合振興計画を作るためのワークショップ(2回程度)に参加してくれる方を募集しています。詳細は町のホームページまたは芦屋町企画政策課企画係(093-223-3570)までお問い合わせください。